

富谷市

高齢者保健福祉計画・ 第8期介護保険事業計画 実態把握調査結果報告書

令和2年3月

宮城県 富谷市

目 次

第1章 調査の実施概要	3
1 調査の目的.....	3
2 調査の内容.....	3
(1) 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査.....	3
(2) 在宅介護実態調査.....	3
(3) 若年者調査.....	3
3 電算処理および報告書の記載方法.....	4
(1) 電算処理.....	4
(2) 報告書の記載方法.....	4
4 調査票の配布と回答状況.....	4
(1) 有効回答者数と回答率.....	4
(2) 有効回答者の属性.....	5
第2章 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	9
1 あなたのご家族の生活状況について.....	9
(1) 家族構成及び昼間独居者の状況.....	9
(2) 日常生活における要介護（介助）者の有無.....	9
(3) 現在の経済状況.....	10
(4) 現在の住居環境.....	10
■課題分析（生活状況について）.....	11
2 からだを動かすことについて.....	12
(1) 運動機能の状況.....	12
(2) 外出の状況.....	14
■課題分析（運動機能の状況・外出の状況について）.....	19
3 食べることについて.....	20
(1) 現在の体重（BMI）状況.....	20
(2) 歯・口腔の状況.....	20
(3) 食事の状況.....	21
■課題分析（食べること・口腔ケアについて）.....	21
4 毎日の生活について.....	22
(1) 物忘れの状況.....	22
(2) IADL（手段的自立度）の状況.....	22
(3) こころの健康状態.....	24
■課題分析（物忘れの状況・IADL（手段的自立度）・こころの健康	

状態について)	27
5 地域での活動について	28
(1) グループ活動等の状況	28
(2) 地域づくりに対する参加意向	30
(3) 地域でできる支援と地域生活に必要なサービスや支援	31
■課題分析(地域での活動について)	32
6 たすけあいについて	33
(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手	33
(2) 災害時の対応について	35
■課題分析(たすけあいについて)	36
7 健康について	37
(1) 健康状態	37
(2) 疾病と喫煙や飲酒の関係	37
(3) 通院の状況	39
(4) 健診や人間ドックについて	39
■課題分析(健康について)	42
8 家庭や地域での役割や毎日の行動について	43
(1) 就労状況	43
(2) 隣近所との関わり	43
(3) 生きがいについて	44
■課題分析(家庭や地域での役割や毎日の行動について)	45
9 相談窓口について	46
(1) 相談窓口などについて	46
(2) 成年後見制度について	47
■課題分析(相談窓口について)	47
10 今後の介護について	48
(1) どのような介護を受けながら生活したいか	48
(2) 認知症について	50
■課題分析(今後の介護について)	51

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 9

1 あなたのご家族の生活状況について	9
(1) 家族構成及び昼間独居者の状況	9
(2) 日常生活における要介護(介助)者の有無	9
(3) 現在の経済状況	10
(4) 現在の住居環境	10
■課題分析(生活状況について)	11

2	からだを動かすことについて.....	12
	(1) 運動機能の状況.....	12
	(2) 外出の状況.....	14
	■課題分析（運動機能の状況・外出の状況）.....	19
3	食べることについて.....	20
	(1) 現在の体重（BMI）状況.....	20
	(2) 歯・口腔の状況.....	20
	(3) 食事の状況.....	21
	■課題分析（食べること・口腔ケアについて）.....	21
4	毎日の生活について.....	22
	(1) 物忘れの状況.....	22
	(2) IADL（手段的自立度）の状況.....	22
	(3) こころの健康状態.....	24
	■課題分析（物忘れの状況・IADL（手段的自立度）・こころの健康状態について）.....	27
5	地域での活動について.....	28
	(1) グループ活動等の状況.....	28
	(2) 地域づくりに対する参加意向.....	30
	(3) 地域でできる支援と地域生活に必要なサービスや支援.....	31
	■課題分析（地域での活動について）.....	32
6	たすけあいについて.....	33
	(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手.....	33
	(2) 災害時の対応について.....	35
	■課題分析（たすけあいについて）.....	36
7	健康について.....	37
	(1) 健康状態.....	37
	(2) 疾病と喫煙や飲酒の関係.....	37
	(3) 通院の状況.....	39
	(4) 健診や人間ドックについて.....	39
	■課題分析（健康について）.....	42
8	家庭や地域での役割や毎日の行動について.....	43
	(1) 就労状況.....	43
	(2) 隣近所との関わり.....	43
	(3) 生きがいについて.....	44
	■課題分析（家庭や地域での役割や毎日の行動について）.....	45
9	相談窓口について.....	46
	(1) 相談窓口などについて.....	46

(2) 成年後見制度について.....	47
■課題分析（相談窓口について）.....	47
10 今後の介護について.....	48
(1) どのような介護を受けながら生活したいか.....	48
(2) 認知症について.....	50
■課題分析（今後の介護について）.....	51
第4章 若年者調査結果.....	101
1 あなたご自身のことについて.....	101
(1) 調査回答者の属性.....	101
2 あなた自身の健康状況について.....	103
(1) 治療中、または後遺症のある病気.....	103
(2) 健診や人間ドックについて.....	104
■課題分析（自身の健康状況について）.....	106
3 認知症について.....	107
(1) 安心して生活するために必要なこと.....	107
■課題分析（認知症について）.....	107
4 生活状況について.....	108
(1) 就労状況.....	108
(2) 生きがいや余暇の過ごし方.....	109
■課題分析（生活状況について）.....	109
5 地域との関わりについて.....	110
(1) 隣近所との関わり.....	110
(2) 地域活動への参加状況.....	110
(3) 地域活動への参加意向.....	112
(4) 地域でできる支援と地域生活に必要なサービスや支援.....	113
(5) 困った際に頼る相手または頼られる相手.....	115
(6) 災害時の対応について.....	118
■課題分析（地域との関わりについて）.....	121
6 相談窓口などについて.....	122
(1) 介護保険制度の周知状況.....	122
(2) 成年後見制度について.....	123
■課題分析（相談窓口などについて）.....	123
7 将来の生活（介護の考え方を含む）について.....	124
(1) 65歳以降の生活について.....	124
(2) 介護が必要となった場合の生活.....	125
■課題分析（将来の生活（介護の考え方を含む）について）.....	127

8	ご両親の介護について	128
	(1) ご両親の介護に関する検討状況	128
	■課題分析（ご両親の介護に関する検討状況）	128

第5章 共通設問等の分析 131

1	健康状況について	131
	(1) 治療中、または後遺症のある病気や要介護者が現在抱えている傷病名	131
	(2) 健診や人間ドックについて	131
	(3) 健康のために意識していることや取り組んでいること	131
	■課題分析（健康状況について）	132
2	生きがいづくりについて	132
	(1) 生きがいや余暇の過ごし方	132
	■課題分析（生きがいづくりについて）	133
3	認知症について	133
	(1) 安心して生活するために必要なこと	133
	■課題分析（認知症について）	134
4	地域とのつながり	134
	(1) 隣近所との関わり	134
	(2) 家族以外に、地域の中で話をする相手の有無	134
	(3) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人の有無	134
	(4) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人の有無	135
	(5) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人の有無	135
	(6) 看病や世話をしてあげる人の有無	135
	■課題分析（地域とのつながり）	136
5	災害時の対応について	136
	(1) 福祉避難所の周知状況	136
	(2) 災害時に不安に感じる事	136
	(3) 災害時の情報収集手段	137
	■課題分析（災害時の対応について）	137
6	相談窓口などについて	138
	(1) 介護について相談したい相手	138
	(2) 介護に関する相談窓口に求めるもの	138
	(3) 成年後見制度について	138
	■課題分析（相談窓口などについて）	138
7	将来の生活（介護の考え方を含む）について	139
	(1) 介護が必要になった場合の生活場所	139

(2) 介護が必要になった場合の支援やサービス.....	139
■課題分析（将来の生活（介護の考え方を含む）について）	140
資料編	143
1 電算処理の判定条件等	143
2 アンケート調査票.....	145
(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....	145
(2) 在宅介護実態調査	149
(3) 介護保険事業計画策定のための実態調査(若年調査)	153

第1章

調査の実施概要

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的

「第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたっては、高齢者等の日常生活実態及び介護者の介護実態を把握し、本市における地域を含めた課題整理を行い、今後目指すべき地域包括ケアシステム構築のあり方とサービス基盤の方向性を検討し、将来推計の基礎資料を得るため、本調査を実施しました。

2 調査の内容

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

要介護状態になる前の高齢者に対する「要介護度の悪化につながるリスクの発生状況」及び「要介護度の悪化に影響を与える日常生活の状況」のアンケートを実施し、地域包括ケアシステム構築のための地域課題の抽出とサービス基盤の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	令和元年12月1日現在、富谷市に居住する65歳以上の一般高齢者及び事業対象者*より無作為抽出	1,500人
調査方法	令和2年1月17日～1月31日、対象者へ郵送にて調査	

事業対象者：介護予防・生活支援サービス事業対象者のことです。

(2) 在宅介護実態調査

介護する家族に対するアンケートを実施し、「地域包括ケアの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」などのニーズ把握をするための基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	令和元年12月1日現在、富谷市に居住する65歳以上の要支援・要介護認定者及びその介護者より無作為抽出	500人
調査方法	令和2年1月17日～1月31日、対象者へ郵送にて調査	

(3) 若年者調査

市内にお住まいの40歳から64歳の方に、健康状態や介護保険制度に関するアンケートを実施し、今後の地域包括ケアシステム構築のための地域課題の抽出とサービス基盤の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	令和元年12月1日現在、富谷市に居住する40歳から64歳の方より無作為抽出	800人
調査方法	令和2年1月17日～1月31日、対象者へ郵送にて調査	

3 電算処理および報告書の記載方法

(1) 電算処理

集計処理にあたっては、回答結果から世帯状況、運動器の機能低下リスク、低栄養の傾向リスク（参考値）、咀嚼機能の低下リスク（参考値）、閉じこもり傾向リスク、認知機能低下リスク、うつ傾向リスク等の判定条件を基に行いました。

また、集計表やグラフの%表示は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

(2) 報告書の記載方法

報告書の記載にあたっては、各種テーマごとに関連する設問を集約し、分析を行っているために調査票の設問番号順の記載になっていません。グラフや表に記載しているタイトル番号は、調査票の設問番号を用いています。

また、年齢階級別での比較は対象者数が少ない年齢階級については、5歳ずつの年齢階級で記載していない場合や、年齢と関係なく病気や障害等の要因で悪化していることが多い要支援認定者は記載していない場合があります。

報告書に記載している用語について、「一般高齢者」は要支援・要介護認定者を除いた65歳以上の高齢者を称しています。また、要支援認定者は「要支援者」、要介護認定者は「要介護者」として略称を用いています。

4 調査票の配布と回答状況

(1) 有効回答者数と回答率

表 1.1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回答状況

圏域名	調査対象者数（人）	調査票の配布数（人）	有効回答数（人）	有効回答率（%）
市全域	9,425	1,500	1,121	74.7

（注）回収した調査票の中に居住地区無回答者が40人いました。

表 1.2 在宅介護実態調査の回答状況

圏域名	調査対象者数（人）	調査票の配布数（人）	有効回答数（人）	有効回答率（%）
市全域	1,428	500	349	69.8

表 1.3 若年者調査の回答状況

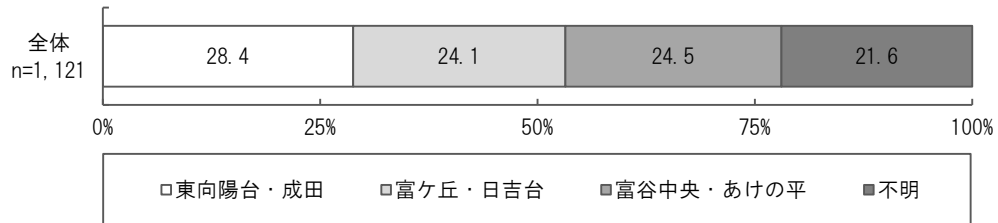
圏域名	調査対象者数（人）	調査票の配布数（人）	有効回答数（人）	有効回答率（%）
市全域	18,937	800	381	47.6

(2) 有効回答者の属性

本調査における有効回答者の属性は以下のとおりです。

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

図 1.1 圏域別調査回答者割合



② 在宅介護実態調査

図 1.2 地区別調査回答者割合

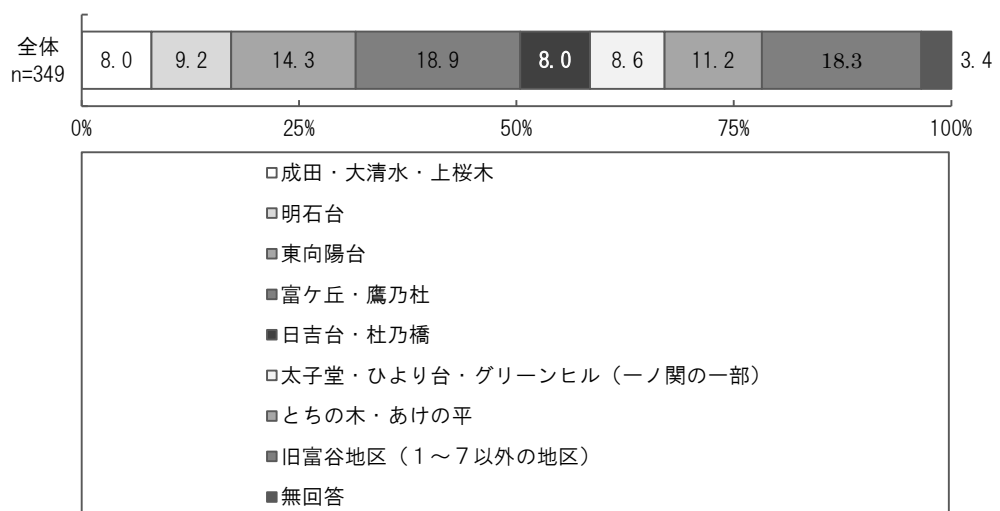
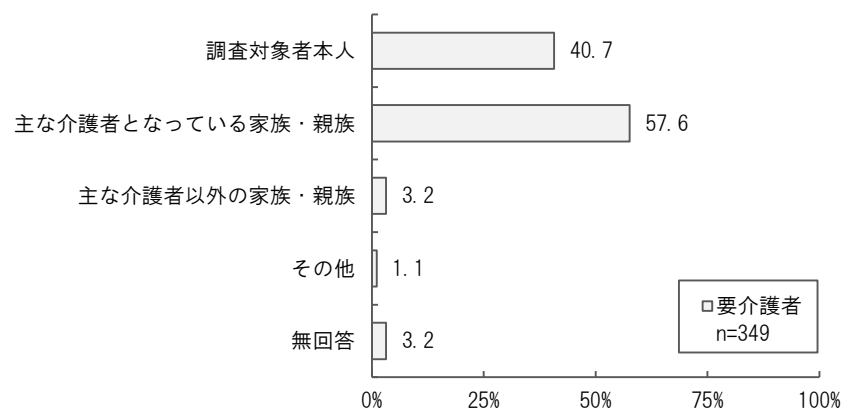
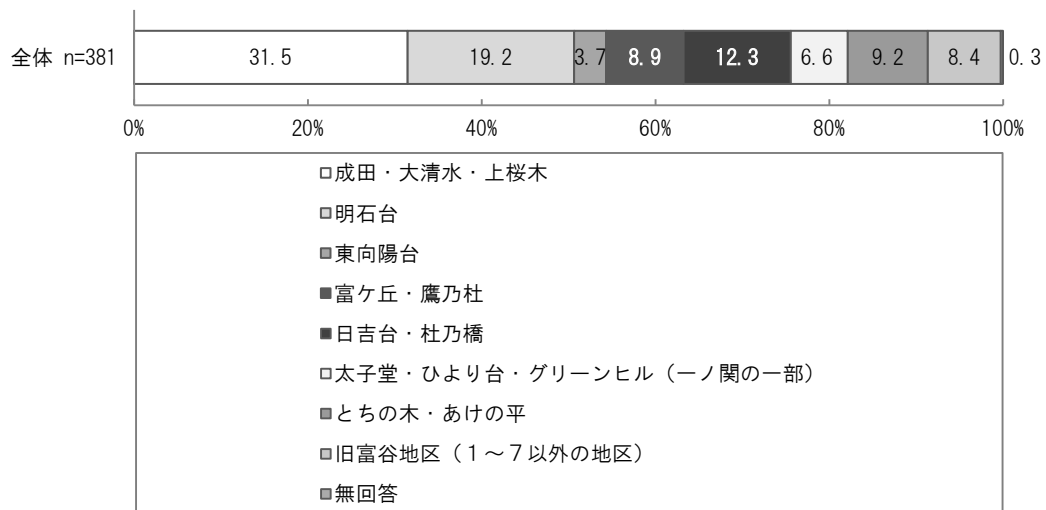


図 1.3 調査回答者（A-問1）



③ 若年者調査

図 1.4 地区別調査回答者割合



第2章

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 あなたのご家族の生活状況について

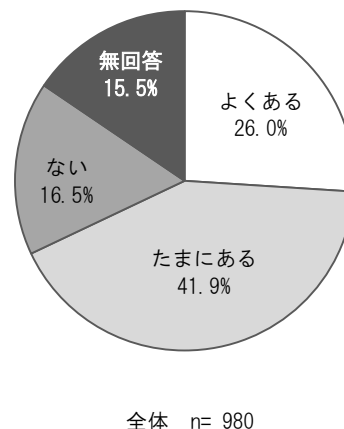
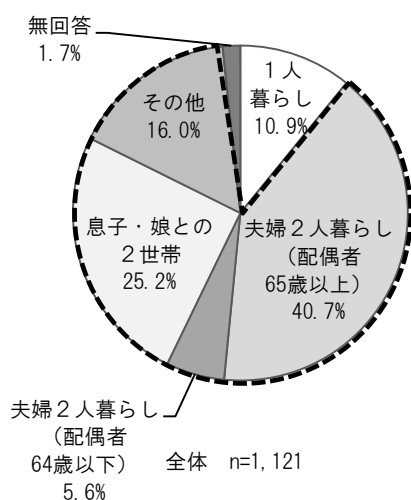
(1) 家族構成及び昼間独居者の状況

○家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（40.7%）が最も高く、次いで「息子・娘との2世代」（25.2%）、「その他」（16.0%）、「1人暮らし」（10.9%）となっています。

○日中に1人になることの有無は、「たまにある」（41.9%）が最も高く、「よくある」（26.0%）を合わせた6割以上が、日中に1人になることがあると回答しています。

問1-(1) 家族構成

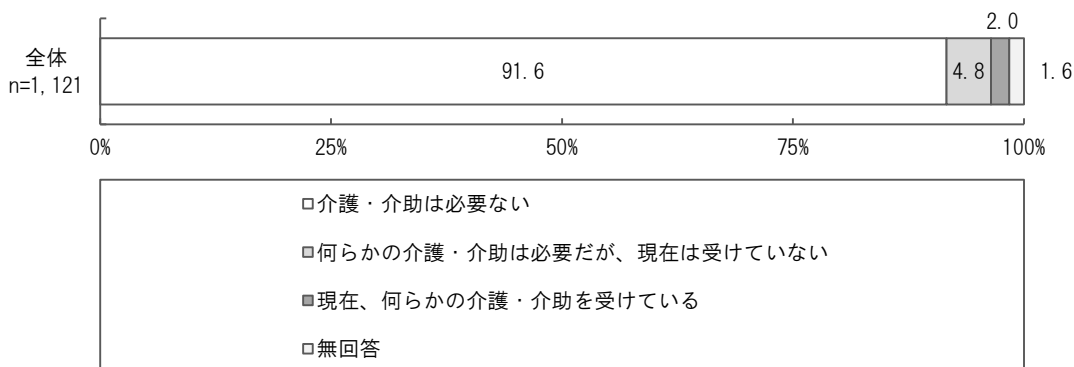
問1-(1).① 日中、1人になることの有無



(2) 日常生活における要介護（介助）者の有無

○普段の生活における介護・介助の状況を見ると、「介護・介助は必要ない」（91.6%）が最も高くなっています。

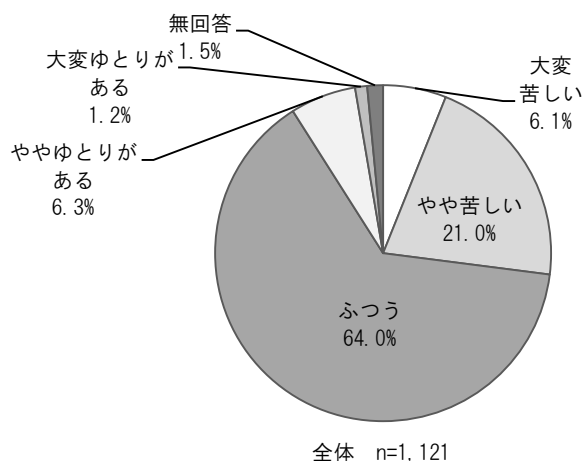
問1-(2) 普段の生活で介護・介助が必要か



(3) 現在の経済状況

○現在の暮らしの経済状況をみると、「ふつう」(64.0%)が最も高く、次いで「やや苦しい」(21.0%)、「ややゆとりがある」(6.3%)となっています。

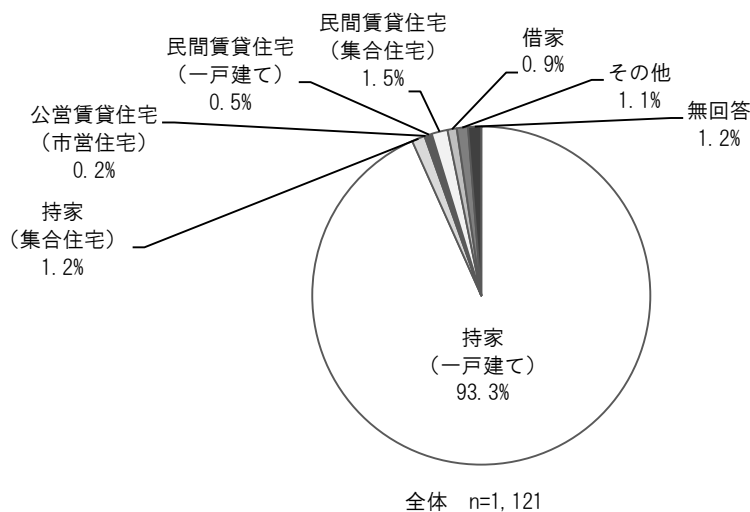
問1-(3) 現在の暮らしの状況



(4) 現在の住居環境

○現在の暮らしている家の状況をみると、「持家（一戸建て）」(93.3%)が最も高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」(1.5%)、「持家（集合住宅）」(1.2%)となっています。

問1-(4) 現在の暮らしている家の状況



■課題分析（生活状況について）

◆家族構成の問いでは、「1人暮らし」（10.9%）、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（40.7%）となっており、約5割が高齢者のみ世帯となっています。また、「1人暮らし」「無回答」を除く回答者のうち、日中に1人になることの有無は67.9%があるとされています。さらに、普段の生活における介護・介助の問いでは、4.8%が「何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない」となっています。これらの世帯は、家庭における介護力が低下した場合、支援が必要となりうる世帯であるため、総合事業等のサービスを利用するなど要介護状態とならないような取組が必要です。

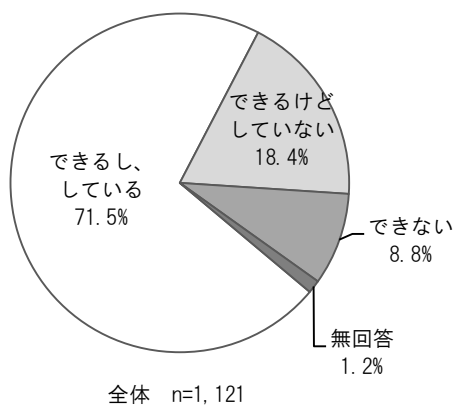
2 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

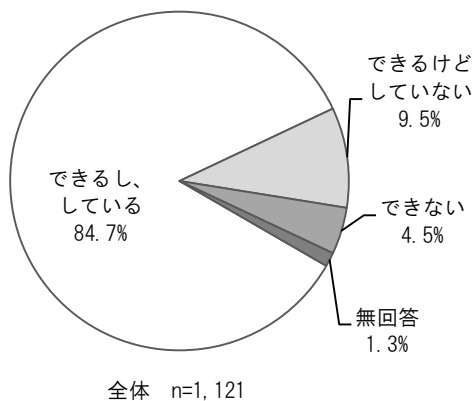
○階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるかでは、「できない」が8.8%います。

○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるかでは、「できない」が4.5%います。

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



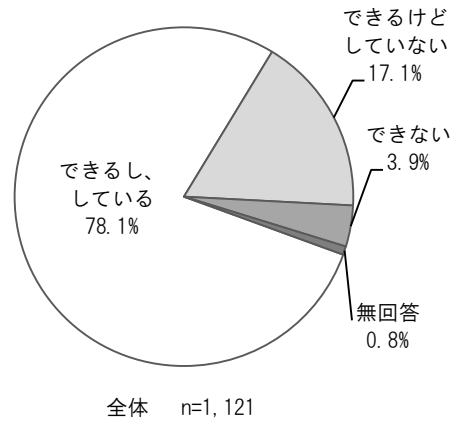
問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか



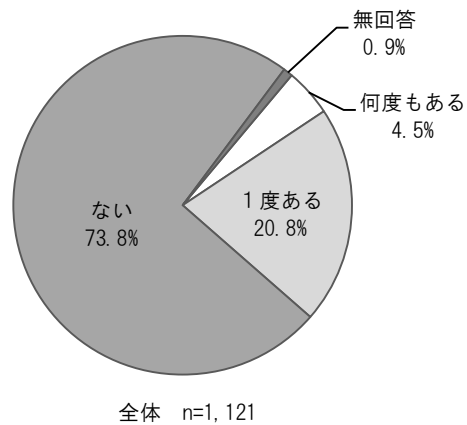
○15分位続けて歩くことができるかでは、「できない」が3.9%います。

○過去1年間に転んだ経験の有無では、「何度もある」(4.5%)と「1度ある」(20.8%)を合わせた25.3%が転んだ経験があると回答しています。

問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか

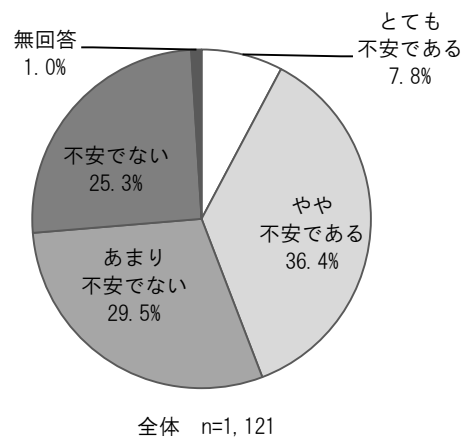


問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無



○転倒に対する不安の有無では、「とても不安である」(7.8%)と「やや不安である」(36.4%)を合わせた44.2%が不安であると回答しています。

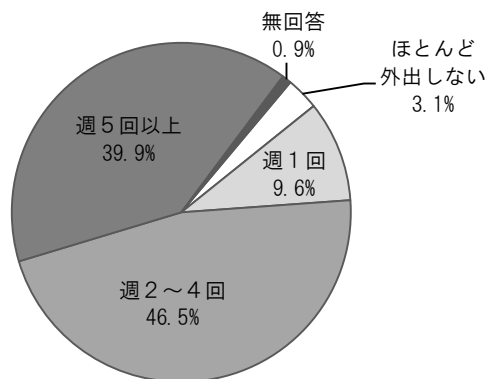
問2-(5) 転倒に対する不安の有無



(2) 外出の状況

○週に1回以上の外出の有無では、「週1回」(9.6%)と「ほとんど外出しない」(3.1%)を合わせた12.7%が週1回以下と回答しています。

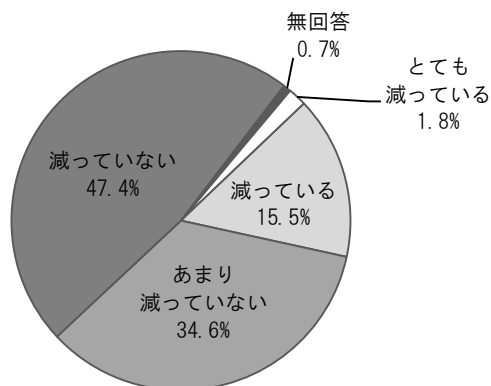
問2-(6) 週に1回以上の外出の有無



全体 n=1,121

○昨年と比べた外出の頻度をみると、「減っている」(15.5%)と「とても減っている」(1.8%)を合わせた17.3%が減ったと回答しています。

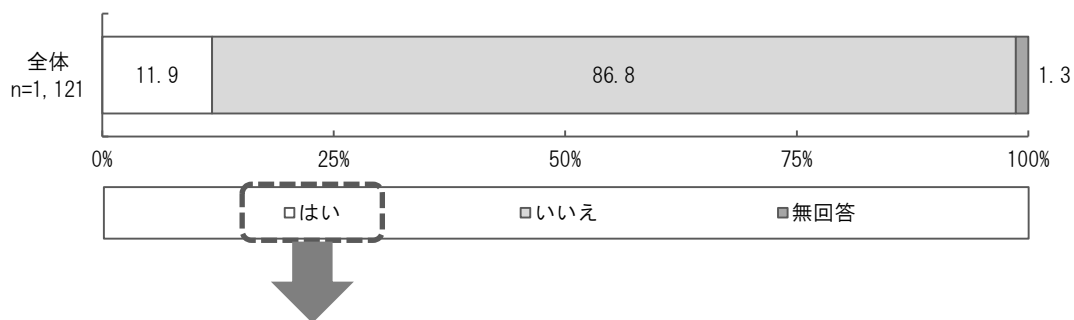
問2-(7) 昨年と比べた外出の頻度



全体 n=1,121

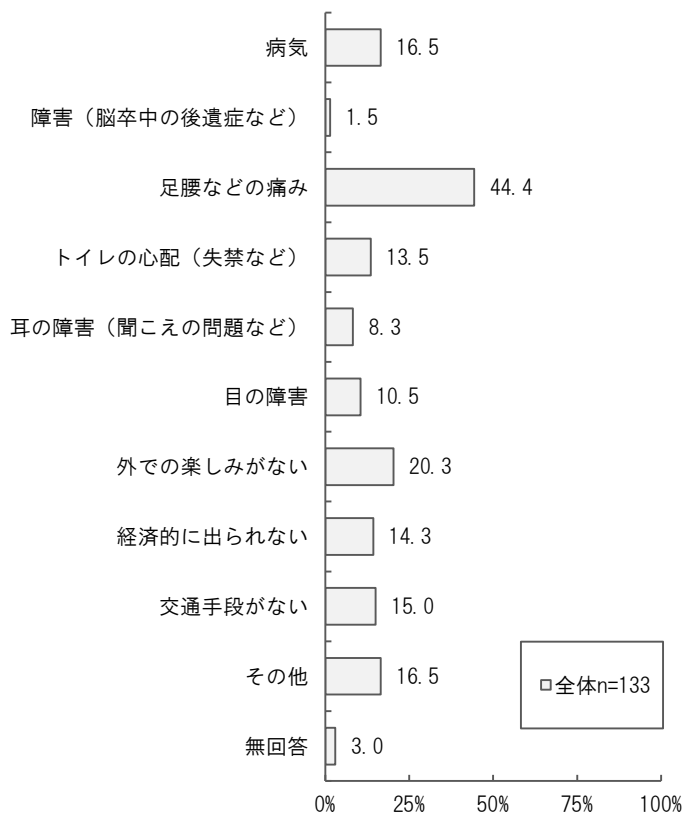
○外出を控えているかをみると、全体では11.9%が「はい」と回答しています。

問2-(8) 外出を控えているか



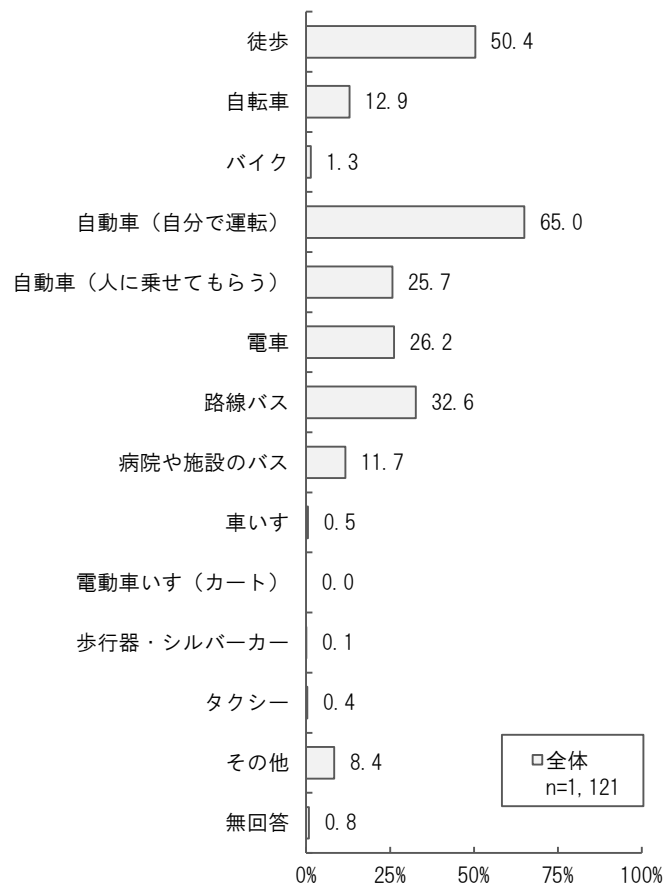
○外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」(44.4%)が最も高く、次いで「外での楽しみがない」(20.3%)、「病気」(16.5%)、「交通手段がない」(15.0%)となっています。

問2-(8).① 外出を控えている理由



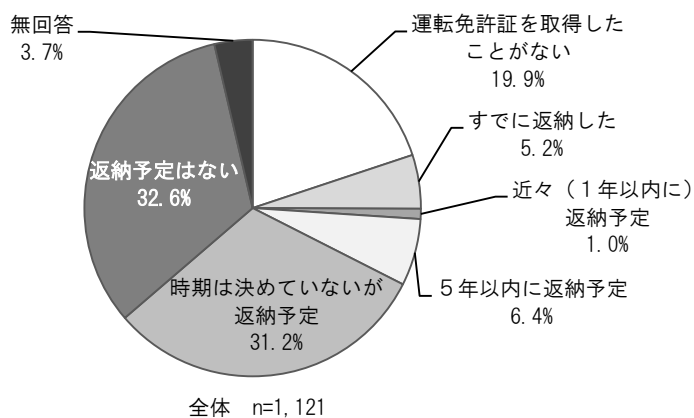
○外出する際の移動手段は、「自動車（自分で運転）」（65.0%）が最も高く、次いで「徒歩」（50.4%）、「路線バス」（32.6%）、「電車」（26.2%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（25.7%）、「自転車」（12.9%）、「病院や施設のバス」（11.7%）となっています。

問2-(9) 外出する際の移動手段



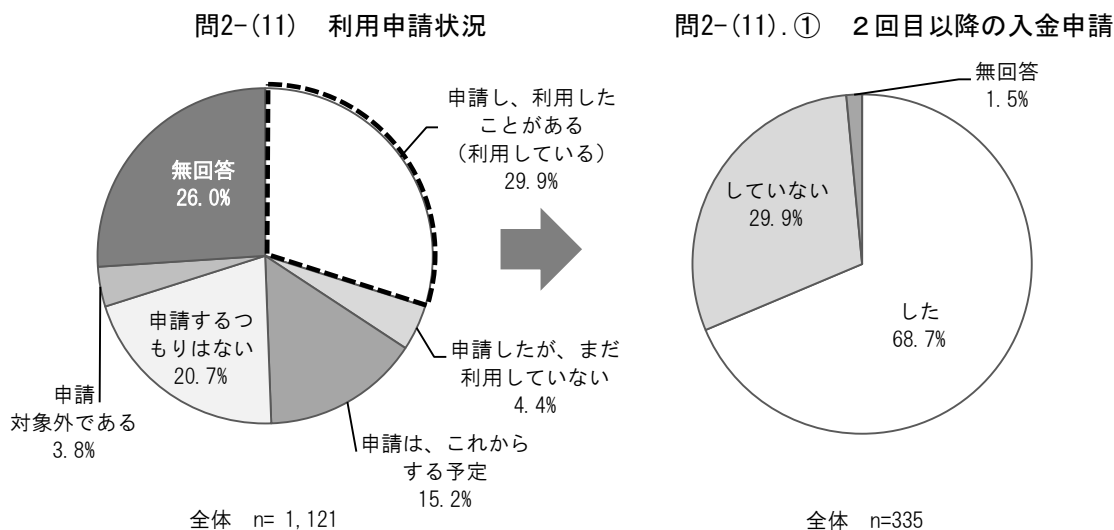
○運転免許証の返納については、「返納予定はない」（32.6%）が最も高く、次いで「時期は決めていないが返納予定」（31.2%）、「運転免許証を取得したことがない」（19.9%）となっており、「すでに返納した」は5.2%となっています。

問2-(10) 運転免許証の返納について



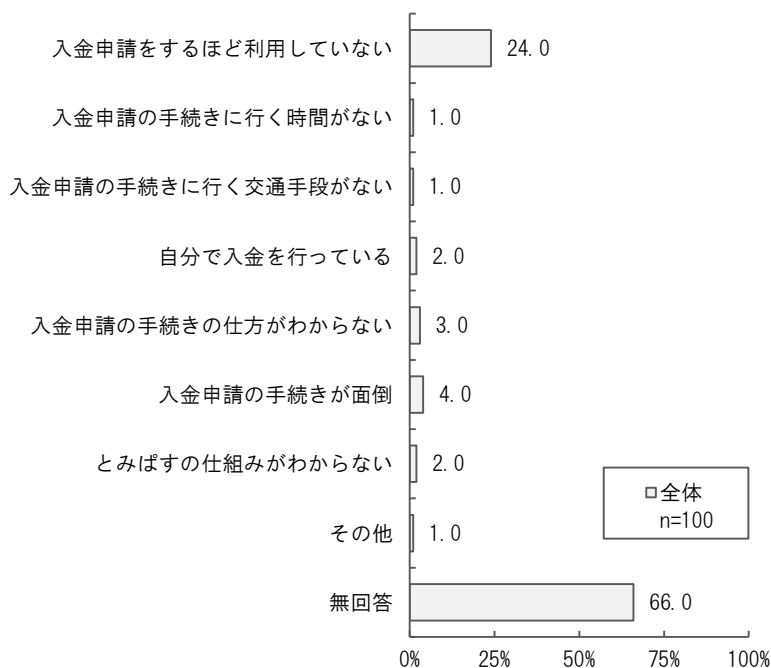
【70歳以上の方のみ】

- 「とみばす」の利用申請状況及び利用状況をみると、「申請し、利用したことがある（利用している）」（29.9%）が最も高く、次いで「申請するつもりはない」（20.7%）となっています。
- 2回目以降の入金申請の有無は、約7割の方が「した」と回答しています。



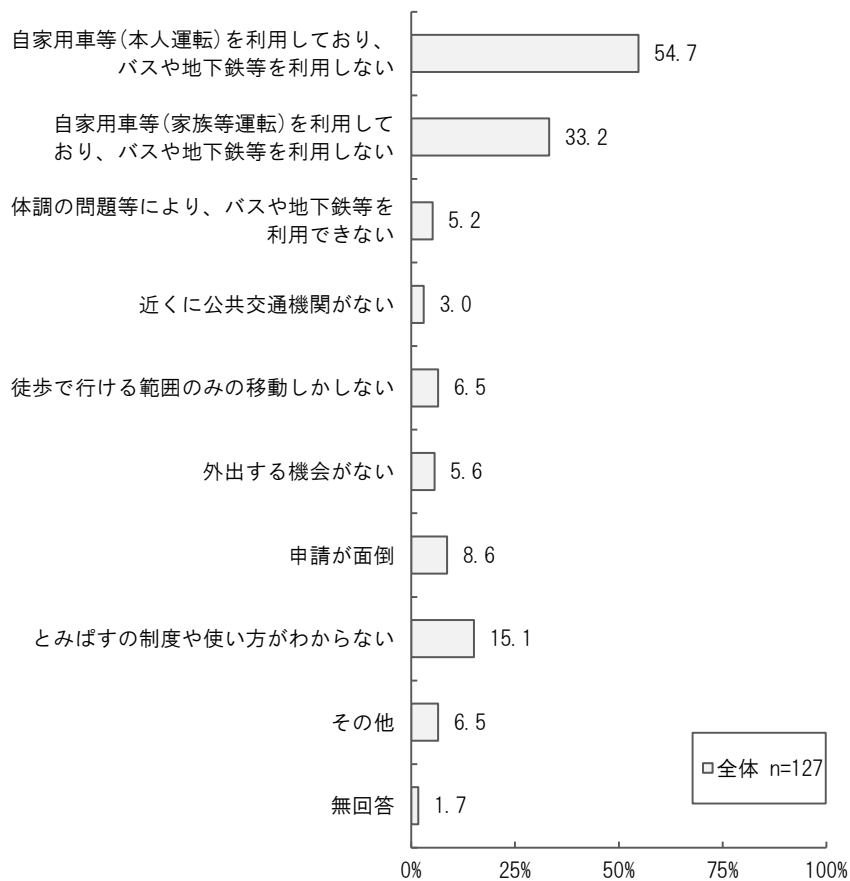
- 入金申請をしていない理由は、無回答を除くと「入金申請をするほど利用していない」（24.0%）が最も高くなっています。

問2-(11).② 入金申請をしていない理由



○「とみばす」を申請しない理由は、「自家用車等（本人運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」（54.7%）が最も高く、次いで「自家用車等（家族等運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」（33.2%）、「とみばすの制度や使い方がわからない」（15.1%）となっています。

問2-(11). ③ とみばすを申請しない理由



■課題分析（運動機能の状況・外出の状況について）

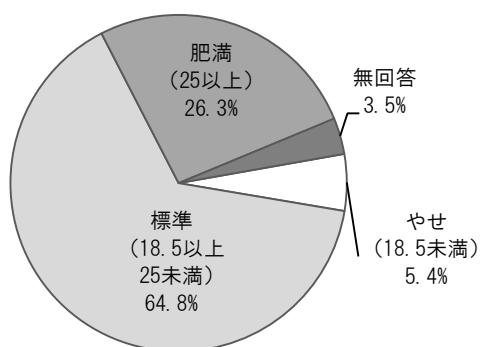
- ◆運動機能の状況の問いでは、階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない方は8.8%、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない方は4.5%、15分位続けて歩くことができない方は3.9%、過去1年間に転んだ経験が何度もある方は4.5%となっています。これらの方のうち体力の維持・向上が期待できる方には介護予防の取組を、それ以外の方には総合事業における生活支援サービスを提供することで現在の状況を改善・維持し、要介護状態とならないようにすることが必要です。
- ◆外出の状況の問いでは、「ほとんど外出しない」（3.1%）と「週1回」（9.6%）を合わせた12.7%の方が閉じこもり傾向にあります。また、外出を控えていると回答した方は11.9%となっており、その理由として「足腰などの痛み」（44.4%）、「外での楽しみがない」（20.3%）、「病気」（16.5%）、「交通手段がない」（15.0%）があがっています。「外での楽しみがない」方に対しては通いの場等の周知をするとともに、「交通手段がない」方に対しては外出支援を利用してもらう等、外出の機会を増やすことが必要です。
- ◆外出する際の移動手段の問いでは、「自動車（自分で運転）」（65.0%）、「徒歩」（50.4%）となっています。前回調査では、約9割の方が日用品の購入先を「店舗」と回答し、移動手段を「自家用車（自分で運転）」（63.1%）、次いで「徒歩」（33.1%）との回答でした。今回調査では、「徒歩」（50.4%）が17.3ポイント増加しています。
- ◆運転免許証の返納の問いでは、「すでに返納した」（5.2%）、「近々（1年以内に）返納予定」（1.0%）、「5年以内に返納予定」（6.4%）、「時期は決めていないが返納予定」（31.2%）の合計は43.8%を占めています。前述した移動手段の回答も考慮し、免許返納後の移動手段について検討が必要です。
- ◆70歳以上の方の「とみばす」の利用申請及び利用状況の問いでは、「申請し、利用したことがある（利用している）」方は29.9%、そのうち2回目以降の入金申請をした方（継続利用者）は68.7%となっています。また、「とみばすの制度や使い方がわからない」は15.1%となっており、引き続き「とみばす」の制度や利用方法を周知することが必要です。

3 食べることについて

(1) 現在の体重（BMI）状況

○回答のあった「身長」及び「体重」からBMIを算出したところ、「標準（18.5以上25未満）」（64.8%）が最も高く、次いで「肥満（25以上）」（26.3%）、「やせ（18.5未満）」（5.4%）となっています。

問3-(1) BMI



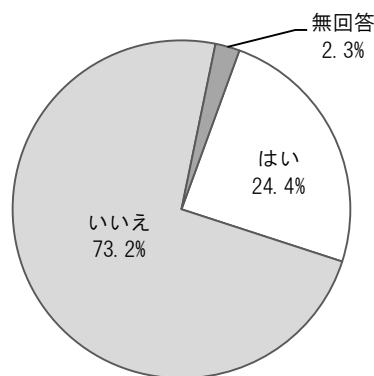
全体 n=1,121

$$\text{BMIの計算式} = (\text{体重} \div (\text{身長} \times \text{身長})) \times 10,000$$

(2) 歯・口腔の状況

○半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、「はい」の方が24.4%います。

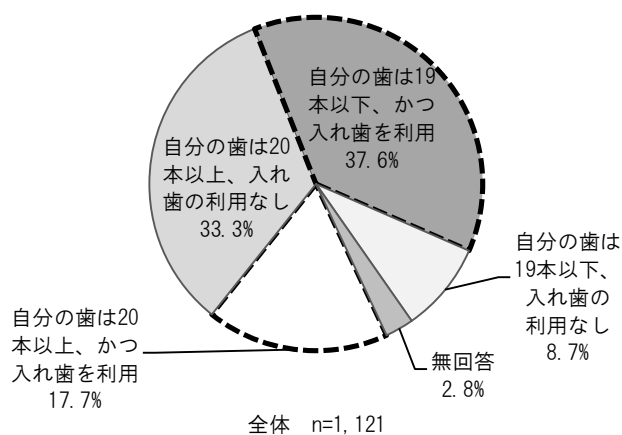
問3-(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなった



全体 n=1,121

○歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(37.6%)と「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(17.7%)を合わせた55.3%の方が入れ歯を利用しています。

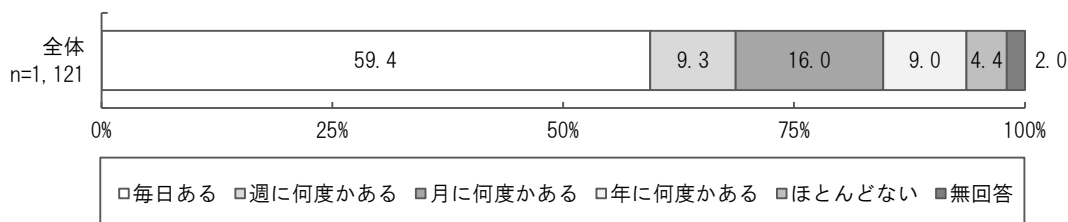
問3-(3) 歯の数と入れ歯の利用状況



(3) 食事の状況

○どなたかと食事をともしる機会の有無では、「毎日ある」(59.4%)が最も高く、「週に何度かある」(9.3%)、「月に何度かある」(16.0%)となっており、月に1回以上あるが74.7%を占めている。

問3-(4) どなたかと食事をともしる機会の有無



■課題分析（食べること・口腔ケアについて）

◆現在の体重（BMI）状況の問いでは、低栄養状態が疑われる「やせ（BMI18.5未満）」は5.4%となっています。また、半年前に比べて固いものが食べにくくなったかの問いでは、咀嚼機能の低下が疑われる「はい」が24.4%となっています。これらの介護予防におけるリスクに該当することが疑われる方に対して適切な対応の検討が必要です。

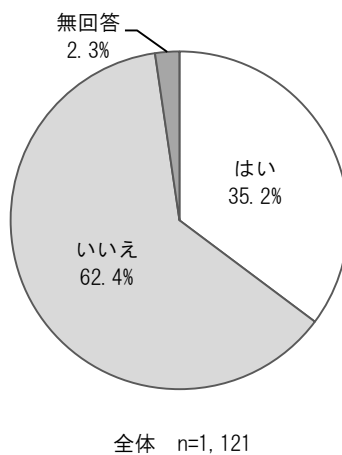
◆歯の数（通常成人の歯は親知らずを入れて32本）と入れ歯の利用状況の問いでは、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(37.6%)と「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(17.7%)を合わせた55.3%の方が入れ歯を利用しています。前述した咀嚼機能の低下が疑われる方も含めて口腔機能の低下が疑われる方への対応の検討が必要です。

4 毎日の生活について

(1) 物忘れの状況

○物忘れが多いと感じるかでは、「はい」が35.2%います。

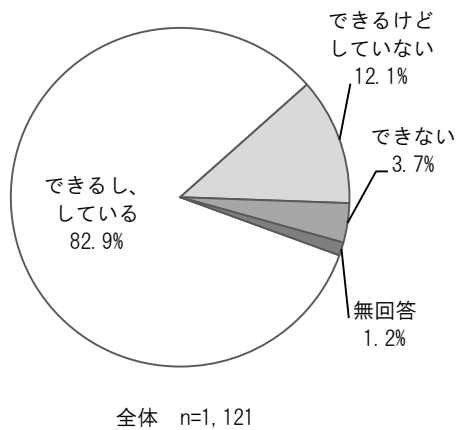
問4-(1) 物忘れが多いと感じるか



(2) IADL（手段的自立度）の状況

○バスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できない」が3.7%います。

問4-(2) バスや電車を使って1人で外出しているか

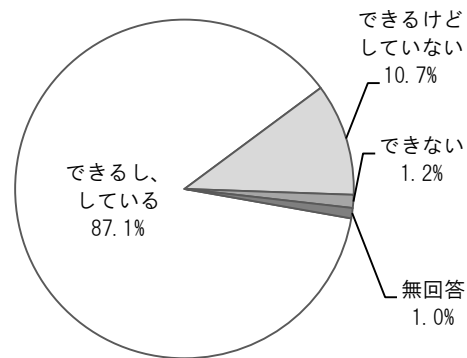


○自分で食品・日用品の買物をしているかでは、「できない」が1.2%います。

○自分で食事の用意をしているかでは、「できない」が4.9%います。

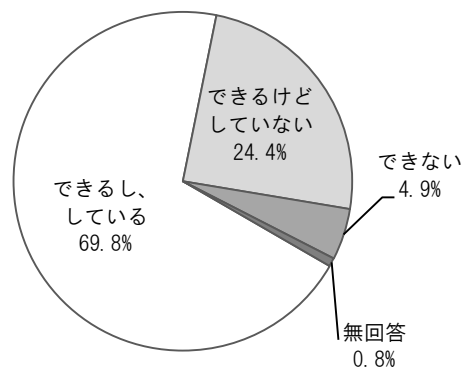
○自分で請求書の支払いをしているかでは、「できない」が1.9%います。

問4-(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか



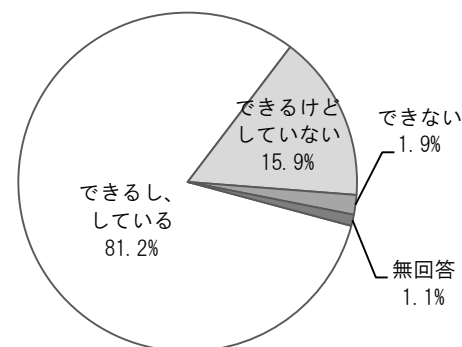
全体 n=1,121

問4-(4) 自分で食事の用意をしているか



全体 n=1,121

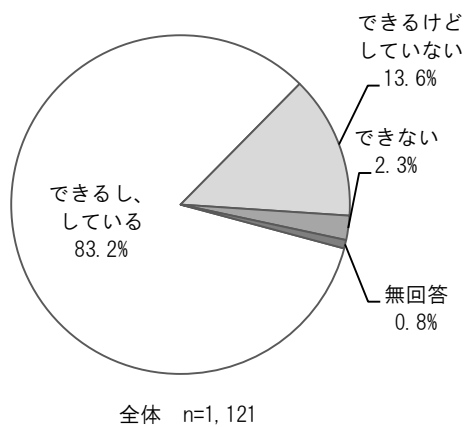
問4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか



全体 n=1,121

○自分で預貯金の出し入れをしているかは、「できない」が2.3%います。

問4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか

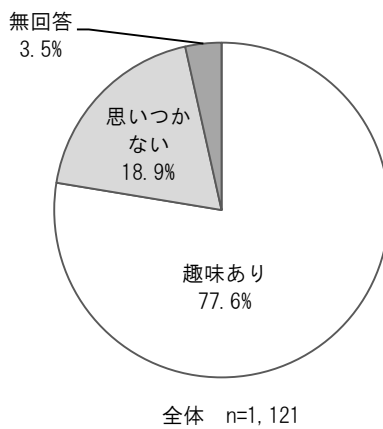


(3) こころの健康状態

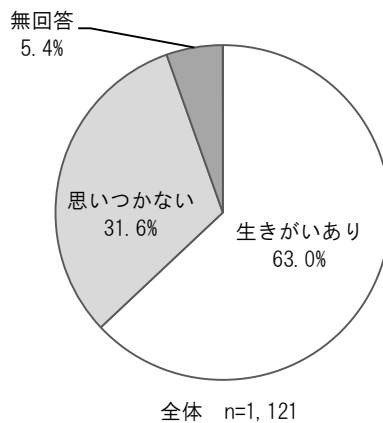
○趣味の有無では、「趣味あり」が77.6%います。

○生きがいの有無では、「生きがいあり」が63.0%います。

問4-(7) 趣味はあるか



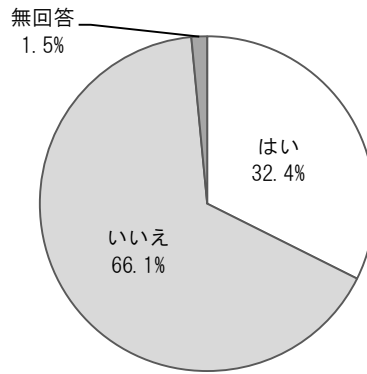
問4-(8) 生きがいはあるか



○この1か月間、気分が沈んだりすることの有無では、「はい」が32.4%います。

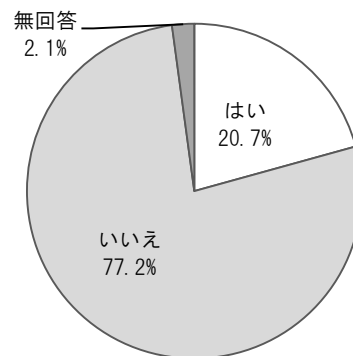
○この1か月間、物事に対して心から楽しめない感じの有無では、「はい」が20.7%います。

問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりする



全体 n=1,121

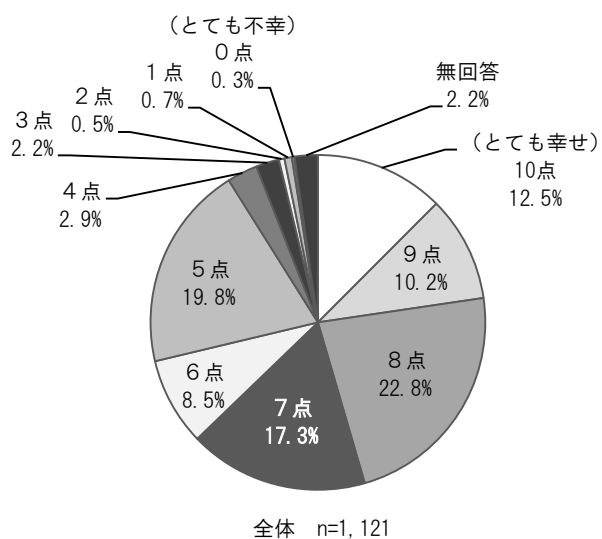
問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめない



全体 n=1,121

○現在の主観的幸福感を点数でみると、10点満点中「8点」(22.8%)が最も高く、次いで「5点」(19.8%)、「7点」(17.3%)となっています。

問7-(2) 現在の主観的幸福感



■課題分析（物忘れの状況・IADL（手段的自立度）・こころの健康状態について）

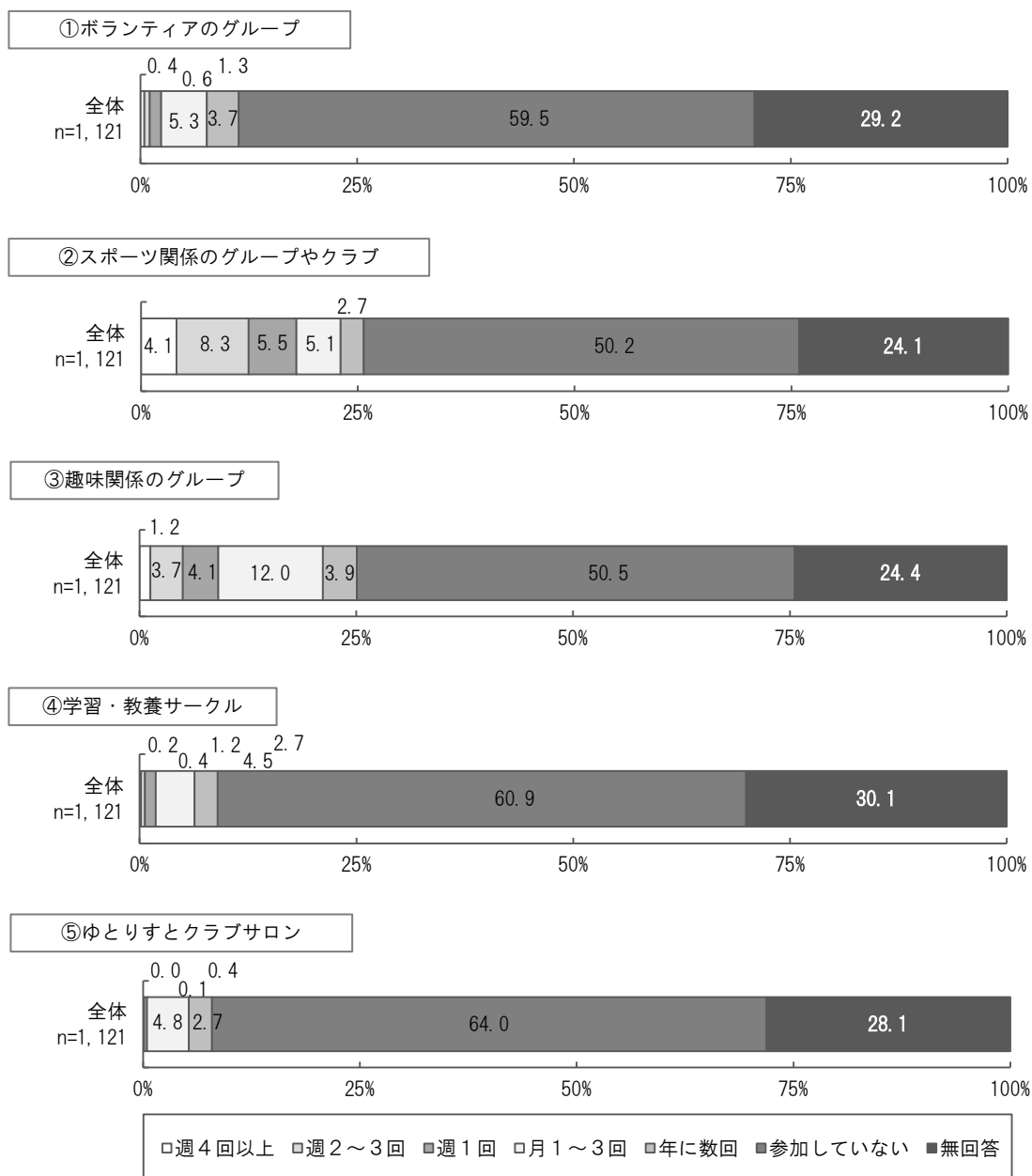
- ◆物忘れが多いと感じるかの問いでは、「はい」が35.2%となっており、加齢による物忘れも含め、3人に1人が認知機能の低下が疑われるため、引き続き地域での声かけ、見守り体制の充実を図ることが必要です。
- ◆IADL（手段的自立度）の状況の問いでは、「バスや電車を使って1人で外出できない」が3.7%、「自分で食品・日用品の買物ができない」が1.2%、「自分で食事の用意ができない」が4.9%、「自分で請求書の支払いができない」が1.9%、「自分で預貯金の出し入れができない」が2.3%となっており、IADLの低下が疑われる高齢者が一定程度いることから、介護予防教室へ通う等のIADL向上の取組を引き続き周知するとともに、地域における支えあいの推進や介護予防・生活支援サービス等の事業利用を促すことが必要です。
- ◆こころの健康状態の問いでは、「この1か月間、気分が沈んだりする」が32.4%、「この1か月間、物事に対して心から楽しめない」が20.7%となっていることから、こころの健康状態が疑われる高齢者が3割以上はいることが伺えます。隣近所とのコミュニケーションを図るように促したり、医療機関と連携をとるなどの相談体制を確立させることが必要です。
- ◆主観的幸福感の問いでは、加重平均による市全体の平均点は7.1となります。この平均点をさらにアップさせるためには、高齢者の生きがいづくりや社会参加への取組、健康づくりや介護予防への取組、引き続きインフォーマルなサービスを含む介護サービスの充実等の複合的な施策を展開することが必要です。

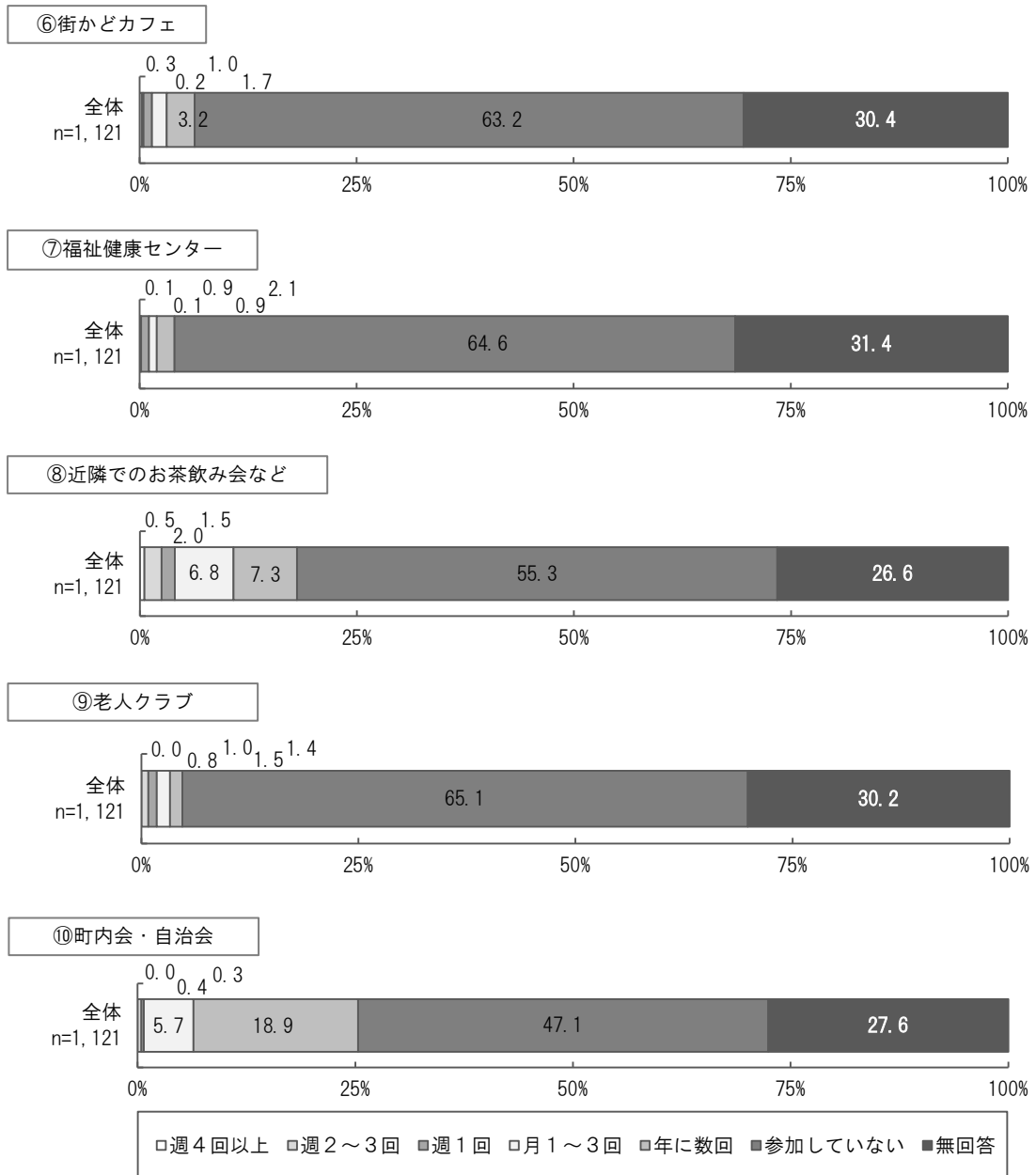
5 地域での活動について

(1) グループ活動等の状況

○グループ等への参加頻度をみると、年に数回でも参加している方の割合が高いのは「②スポーツ関係のグループやクラブ」(25.7%)、「⑩町内会・自治会」(25.3%)、「③趣味関係のグループ」(24.9%)となっています。

問5-(1) 通いの場への参加頻度



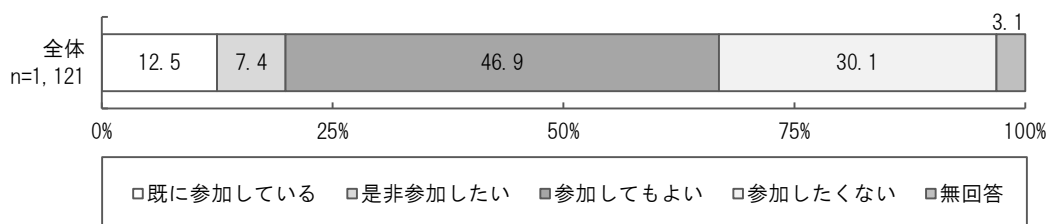


(2) 地域づくりに対する参加意向

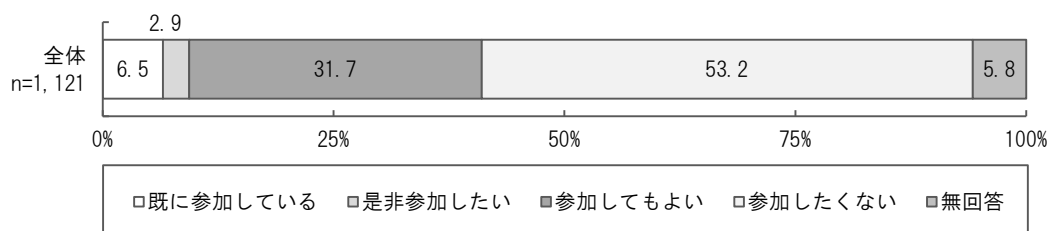
○参加者としてグループ活動等へ参加してみたいかでは、「是非参加したい」(7.4%)と「参加してもよい」(46.9%)を合わせた54.3%が参加の意向です。

○企画・運営としてグループ活動等へ参加してみたいかでは、「是非参加したい」(2.9%)と「参加してもよい」(31.7%)を合わせた34.6%が参加の意向です。一方、「参加したくない」は半数以上を占めています。

問5-(2) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか

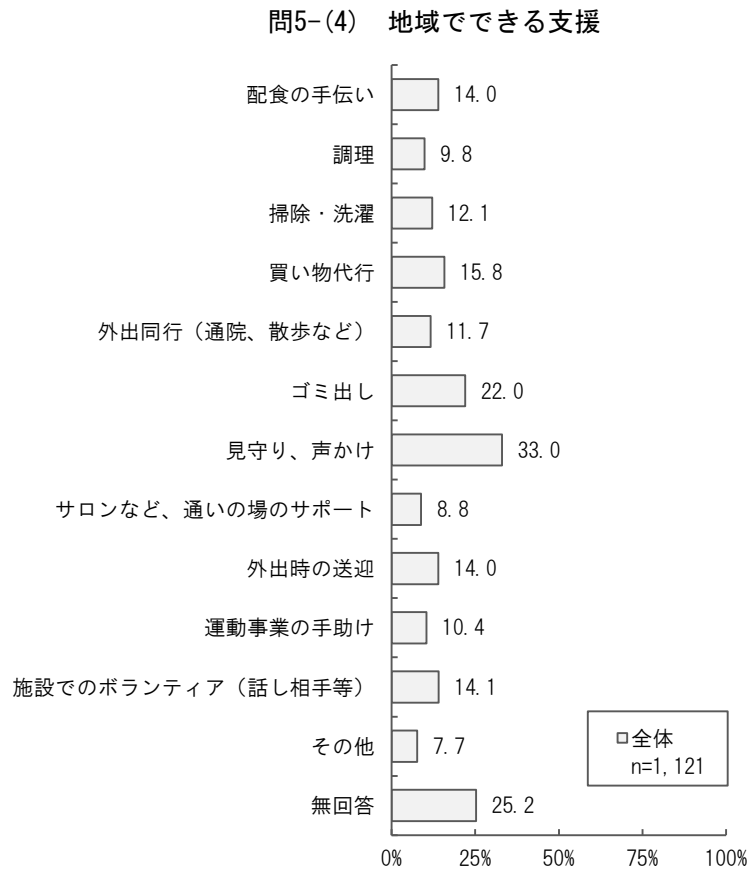


問5-(3) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか



(3) 地域でできる支援と地域生活に必要なサービスや支援

○地域でできる支援では、「見守り・声かけ」(33.0%)が最も高く、次いで「ゴミ出し」(22.0%)、「買い物代行」(15.8%)、「施設でのボランティア(話し相手等)」(14.1%)、「配食の手伝い」「外出時の送迎」(各14.0%)、「掃除・洗濯」(12.1%)となっています。



■課題分析（地域での活動について）

- ◆地域活動への参加状況の問いでは、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」に回答した方は「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」が2割台、「ボランティアのグループ」、「近隣でのお茶飲み会など」が1割台、その他は1割未満となっています。引き続き通いの場の周知を行うことで、参加者を増加させることが必要です。
- ◆参加者としてグループ活動等へ参加してみたいかの問いでは、「既に参加している」（12.5%）、「是非参加したい」（7.4%）、「参加してもよい」（46.9%）を合わせた66.8%の方が参加または参加の意向を示しています。また、企画・運営としてグループ活動等へ参加してみたいかの問いでは、「既に参加している」（6.5%）、「是非参加したい」（2.9%）、「参加してもよい」（31.7%）を合わせた41.1%の方が企画・運営に携わる意向を示しています。約7割の参加者、約4割の企画・運営者を中心に地域活動の活性化を図るとともに、次世代育成を念頭においた継続可能な組織づくりが求められます。
- ◆地域でできる支援の問いでは、「見守り・声かけ」（33.0%）が最も高くなっており、これらの方に地域における見守り活動へ参加してもらうことで体制の整備を図ることが可能となります。また、「見守り・声かけ」以外の支援内容においても1割前後の支援意向があることから、インフォーマルなサービス提供の担い手としても期待されます。

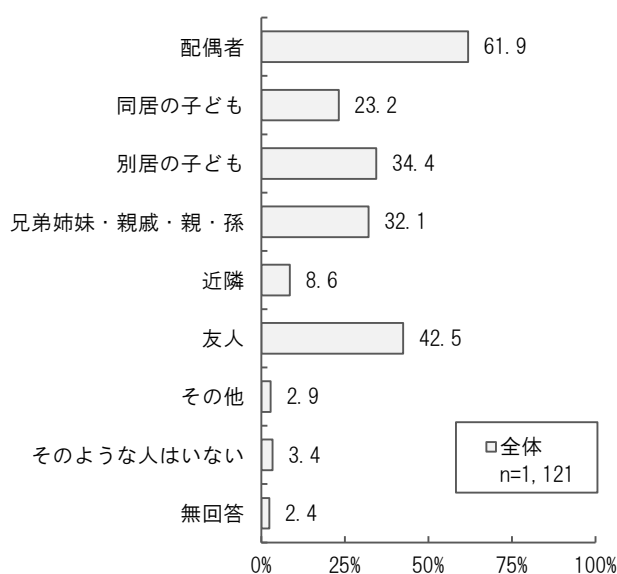
6 たすけあいについて

(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

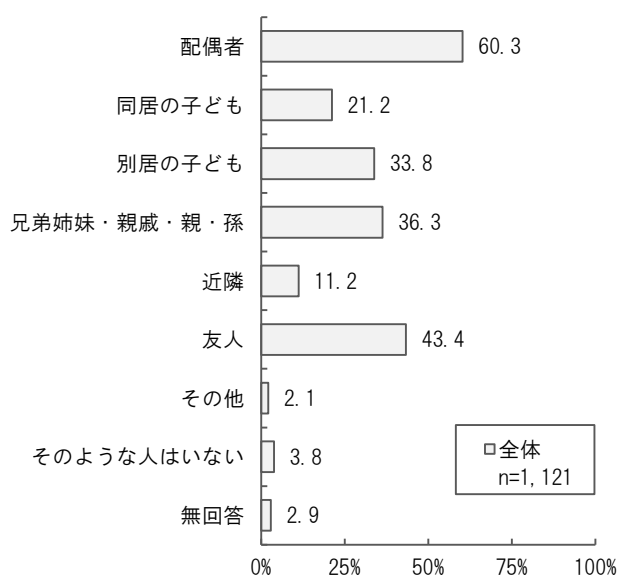
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「配偶者」（61.9%）が最も高く、次いで「友人」（42.5%）、「別居の子ども」（34.4%）「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（32.1%）となっています。一方、「そのような人はいない」方は3.4%います。

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」（60.3%）が最も高く、次いで「友人」（43.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（36.3%）、「別居の子ども」（33.8%）となっています。一方、「そのような人はいない」方は3.8%います。

問6-(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人



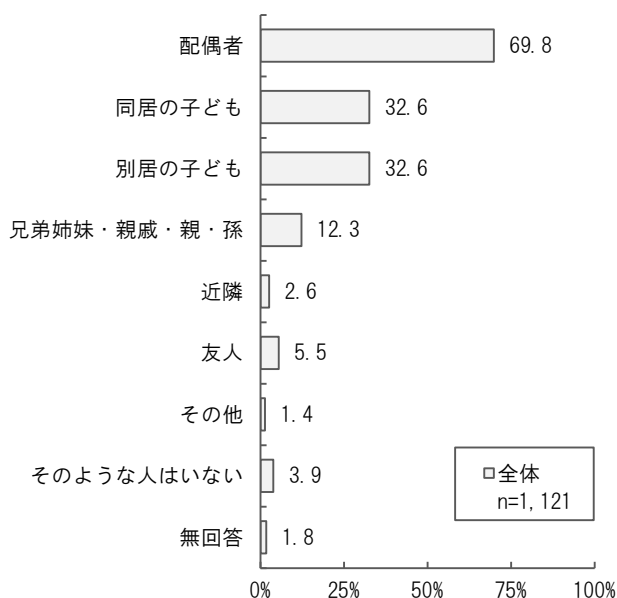
問6-(2) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人



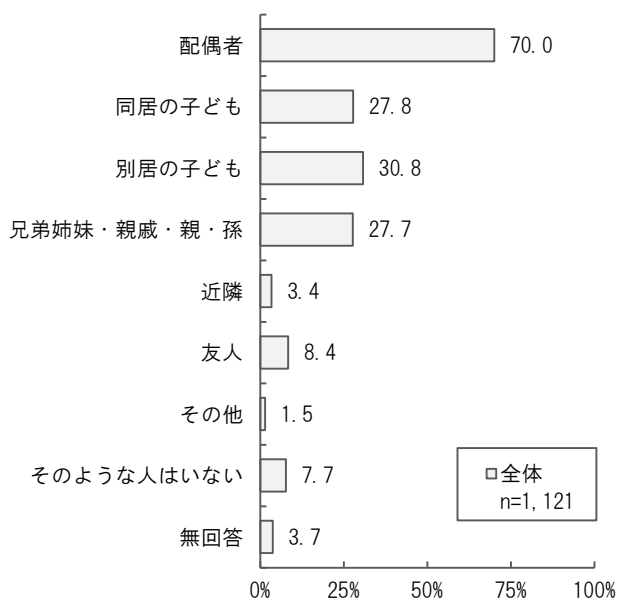
○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」(69.8%)が最も高く、次いで「同居の子ども」「別居の子ども」(各32.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(12.3%)となっています。

○看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」(70.0%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(30.8%)、「同居の子ども」(27.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(27.7%)となっています。

問6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



問6-(4) 看病や世話をしてあげる人

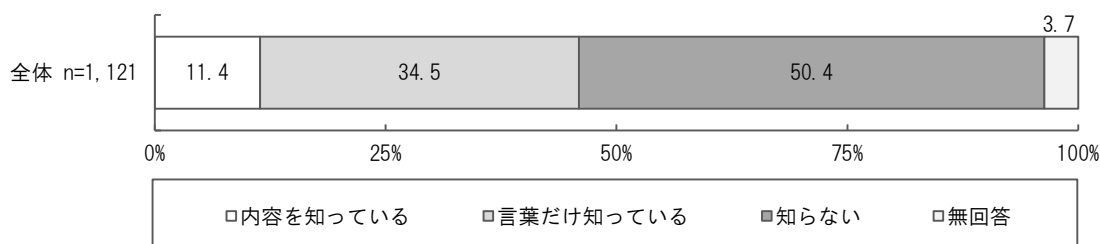


(2) 災害時の対応について

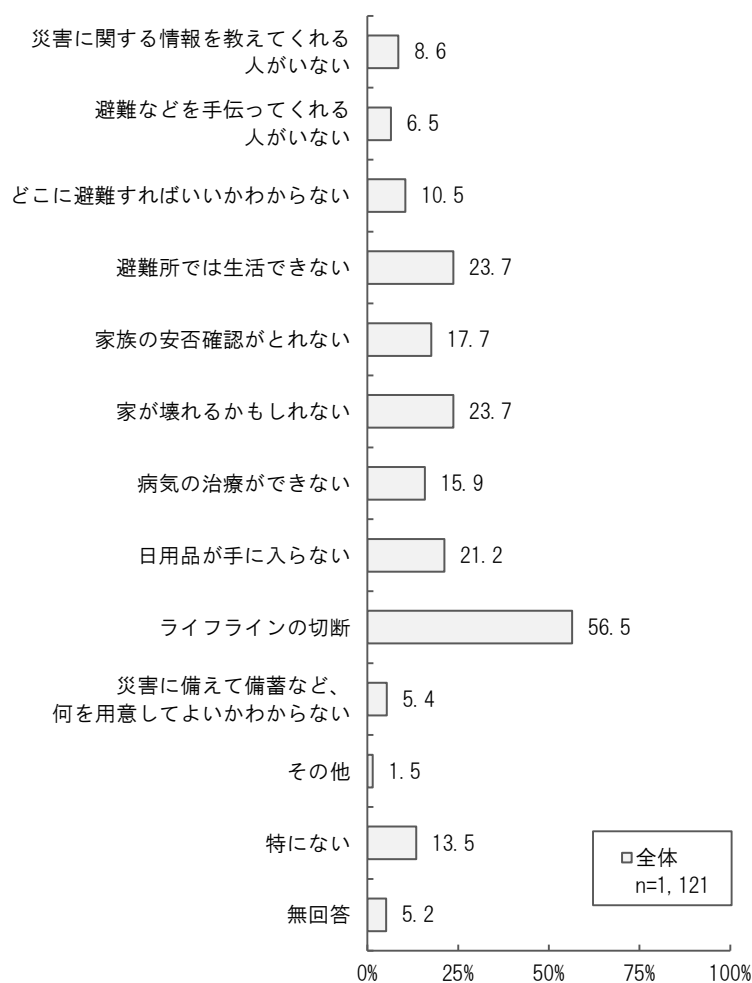
○福祉避難所の周知状況をみると、「知らない」(50.4%)が最も高く、次いで「言葉だけ知っている」(34.5%)となっており、「内容を知っている」は11.4%となっています。

○災害時に不安に感じることは、「ライフラインの切断」(56.5%)が最も高く、次いで「避難所では生活できない」「家が壊れるかもしれない」(各23.7%)、「日用品が手に入らない」(21.2%)となっています。

問6-(5) 福祉避難所の周知状況

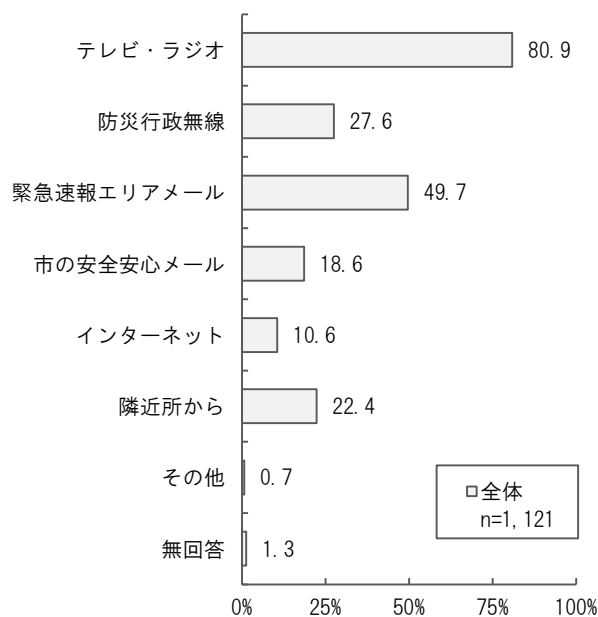


問6-(6) 災害時に不安に感じること



○災害時の情報収集手段は、「テレビ・ラジオ」(80.9%)が最も高く、次いで「緊急速報エリアメール」(49.7%)、「防災行政無線」(27.6%)となっています。

問6-(7) 災害時の情報収集手段



■課題分析（たすけあいについて）

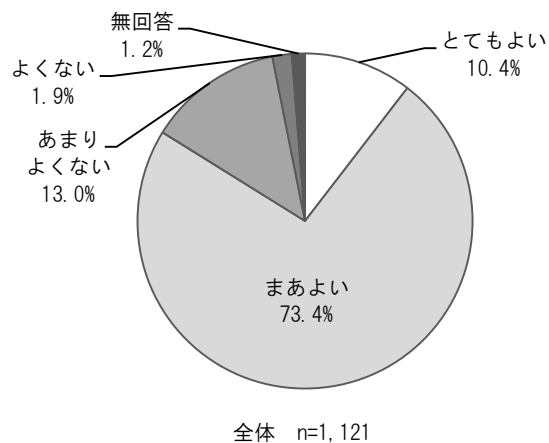
- ◆困った際に頼る相手または頼られる相手の問いでは、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人では「そのような人はいない」は3.4%、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人では「そのような人はいない」は3.8%となっています。また、病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人の問いでは「そのような人はいない」は3.9%、看病や世話をしあえる人では「そのような人はいない」は7.7%となっています。ともに多くはありませんが、引き続き地域の中でつながりを持てるような取組が必要です。
- ◆福祉避難所の周知状況の問いでは、「知らない」(50.4%)が半数となっており、引き続き周知が必要です。
- ◆災害時に不安に感じることの問いでは、「災害に関する情報を教えてくれる人がいない」が8.6%、「避難などを手伝ってくれる人がいない」が6.5%となっています。日頃から隣近所や地域の人とのつながりを持てるような地域づくりをすることが必要です。

7 健康について

(1) 健康状態

○調査対象者の現在の主観的健康感をみると、「まあよい」(73.4%)が最も高く、「とてもよい」(10.4%)を合わせた83.8%が健康と感じています。

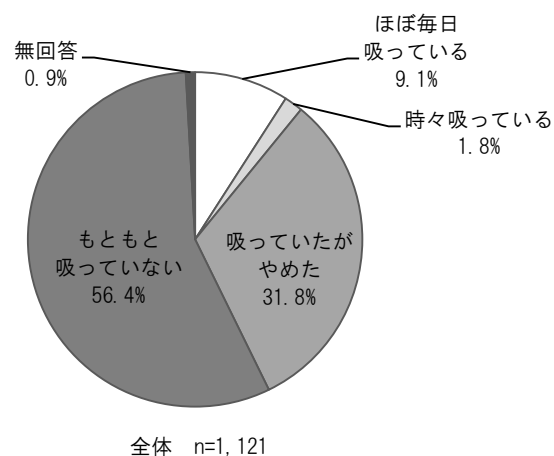
問7-(1) 現在の主観的健康感



(2) 疾病と喫煙や飲酒の関係

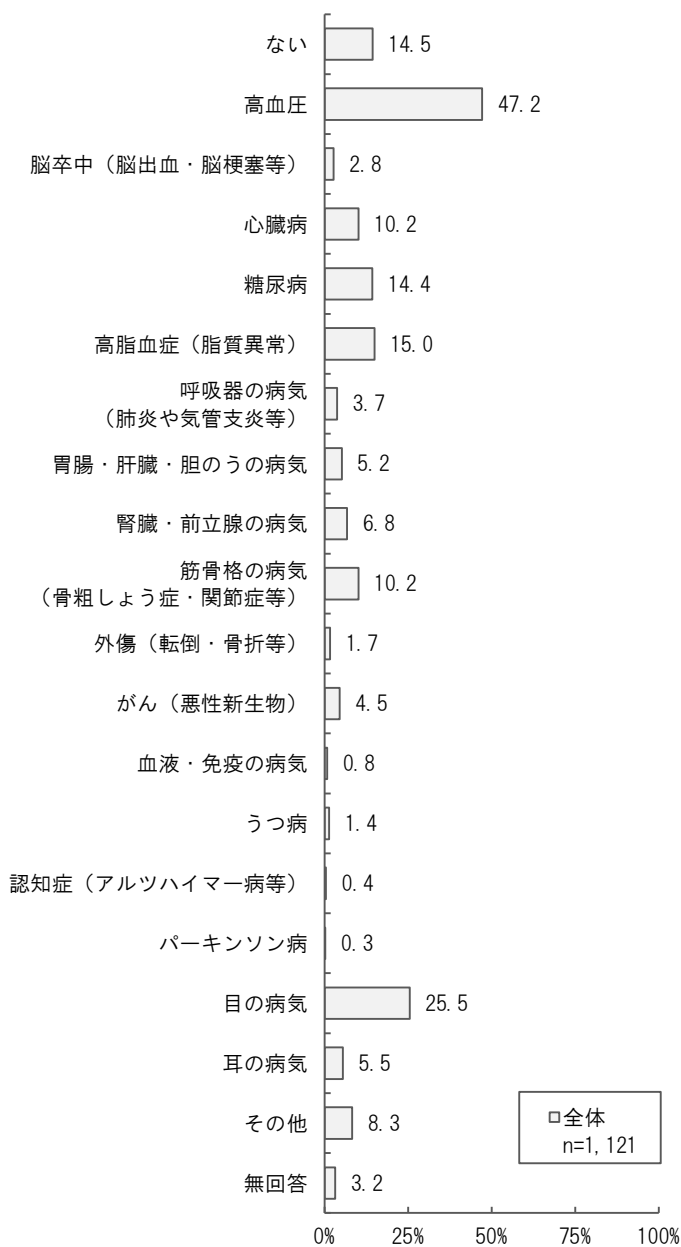
○喫煙の有無では、「ほぼ毎日吸っている」(9.1%)と「時々吸っている」(1.8%)を合わせた10.9%が吸っていると回答しています。

問7-(5) 喫煙の有無



○現在治療中、または後遺症のある病気の有無をみると、全体では「高血圧」(47.2%)が最も高く、次いで「目の病気」(25.5%)、「高脂血症(脂質異常)」(15.0%)となっています。また、現在治療中、または後遺症のある病気が「ない」は14.5%います。

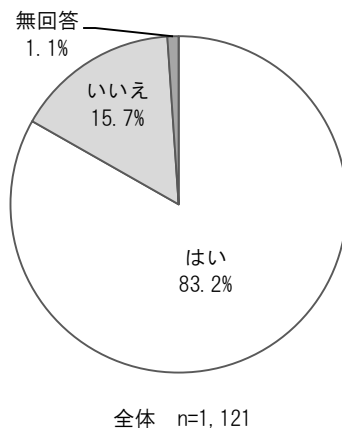
問7-(6) 現在治療中、または後遺症のある病気の有無



(3) 通院の状況

○現在通院しているかをみると、83.2%が「はい」（通院している）と回答しています。

問7-(7) 通院しているか

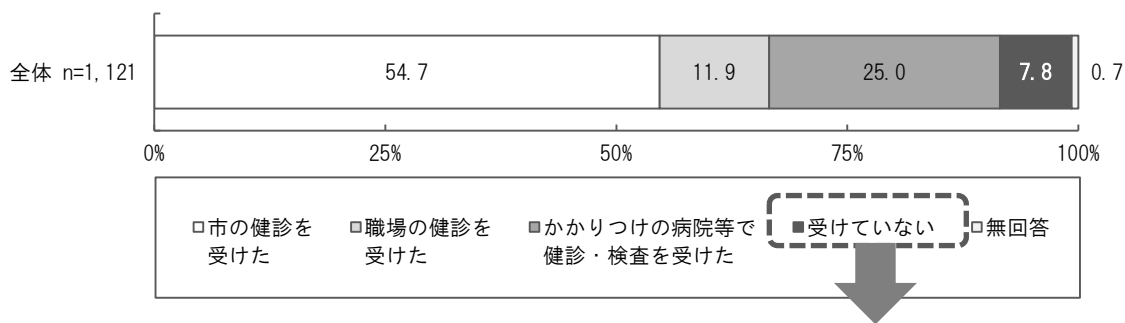


(4) 健診や人間ドックについて

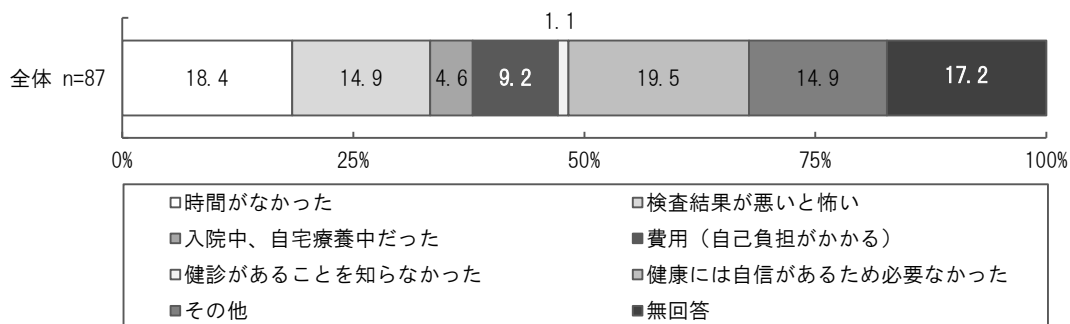
○過去1年以内の健診や人間ドックの受診状況をみると、「市の健診を受けた」（54.7%）が最も高く、次いで「かかりつけの病院等で健診・検査を受けた」（25.0%）となっています。

○健診や人間ドックを受診しない理由をみると、「健康には自信があるため必要なかった」（19.5%）が最も高く、次いで「時間がなかった」（18.4%）となっています。

問7-(8) 健診や人間ドックの受診状況

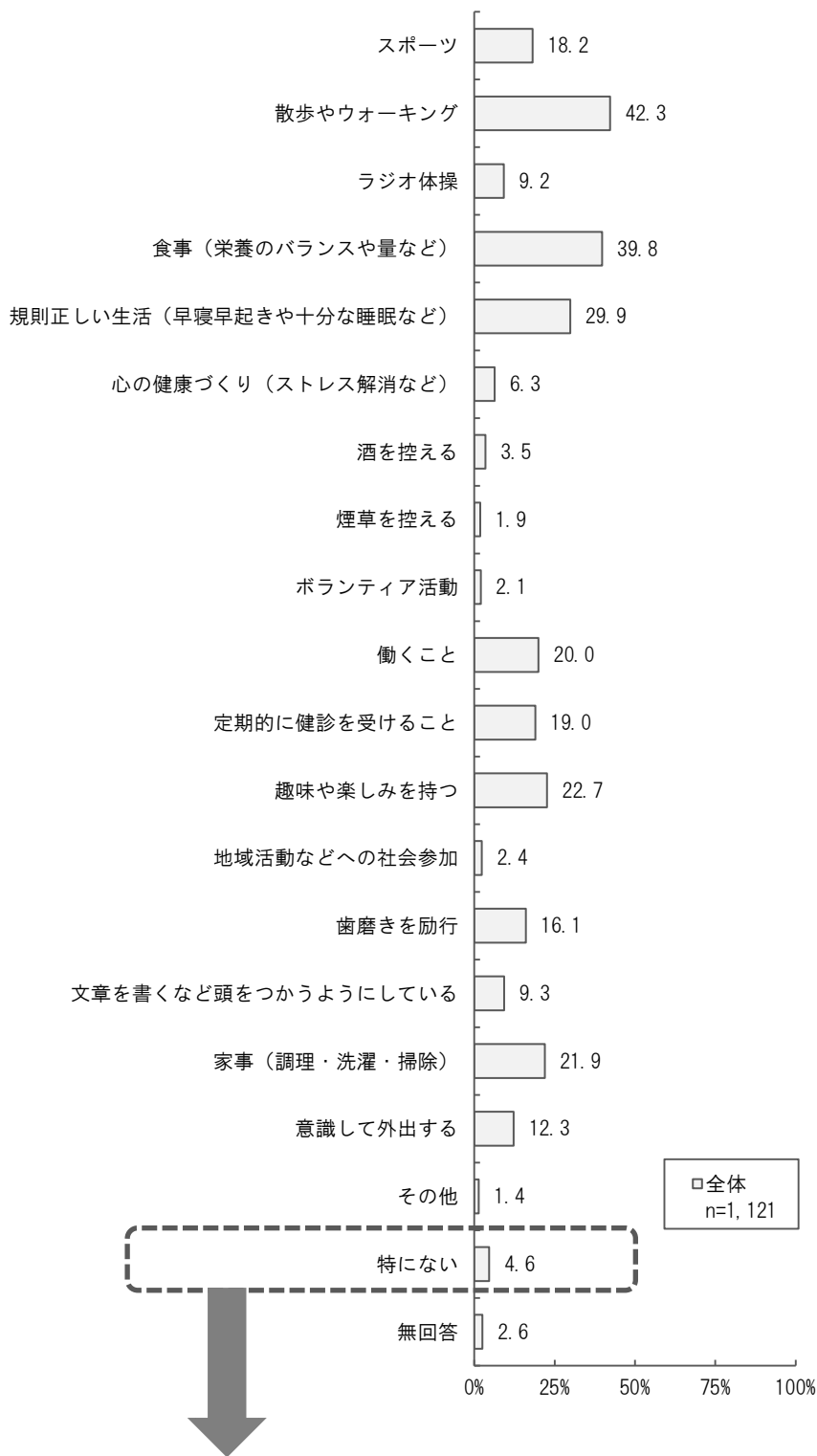


問7-(8).① 受診しない理由



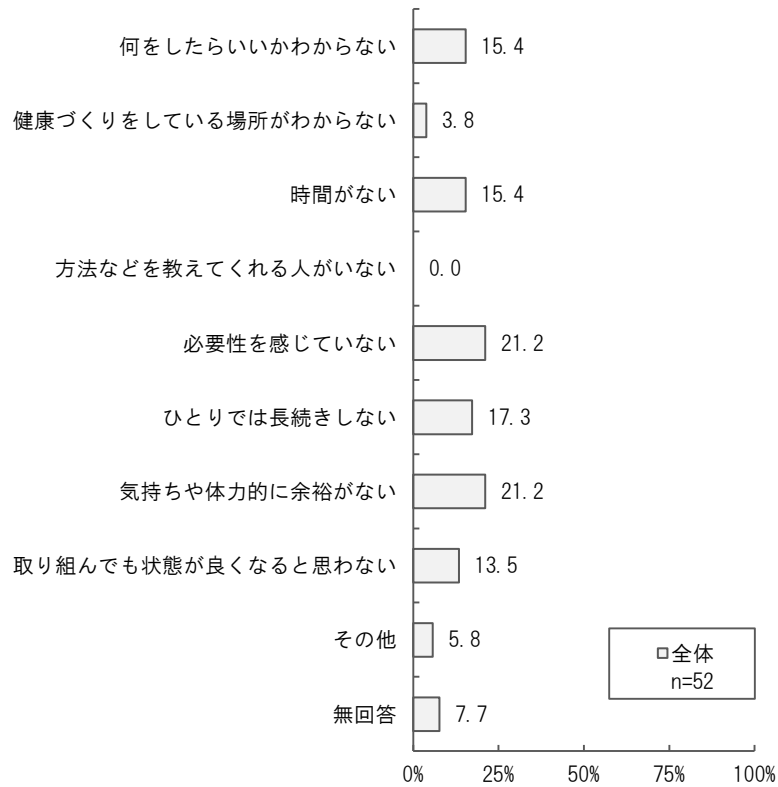
○健康のために意識していることや取り組んでいることは、「散歩やウォーキング」(42.3%)が最も高く、次いで「食事(栄養のバランスや量など)」(39.8%)、「規則正しい生活(早寝早起きや十分な睡眠など)」(29.9%)、「趣味や楽しみを持つ」(22.7%)、「家事(調理・洗濯・掃除)」(21.9%)となっています。

問7-(9) 健康のために意識していることや取り組んでいること



○特にないと回答した人の取組を行っていない理由をみると、「必要性を感じていない」「気持ちや体力的に余裕がない」(各21.2%)が最も高く、次いで「ひとりでは長続きしない」(17.3%)、「何をしたらいいかわからない」「時間がない」(各15.4%)、「取り組んでも状態が良くなると思わない」(13.5%)となっています。

問7-(9). ① 取り組まない理由



■課題分析（健康について）

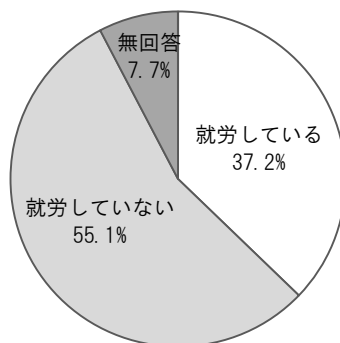
- ◆現在の主観的健康感の問いでは、「よくない」（1.9%）、「あまりよくない」（13.0%）を合わせた14.9%がよくないと回答しているため、引き続き健康づくりの取組を促すことが必要です。
- ◆喫煙の有無の問いでは、「ほぼ毎日吸っている」（9.1%）、「時々吸っている」（1.8%）を合わせた10.9%が吸っていると回答しており、健康増進計画の施策と連動しながら、禁煙対策に取り組むことが必要です。
- ◆現在治療中、または後遺症のある病気の有無の問いでは、全体では「高血圧」（47.2%）が最も高く、次いで「目の病気」（25.5%）、「高脂血症（脂質異常）」（15.0%）となっています。また、現在通院しているかの問いでは、83.2%の方が何らかの疾患を抱え通院しています。さらに、過去1年以内の健診や人間ドックの受診状況の問いでは、「受けていない」は7.8%であり、その理由は「健康には自信があるため必要なかった」（19.5%）、「時間がなかった」（18.4%）、「検査結果が悪いと怖い」（14.9%）、「費用（自己負担がかかる）」（9.2%）となっています。健康であると認識している方の中には自覚症状がないだけで何らかの疾患を抱えている場合もあるため、引き続き定期健診の周知啓蒙に取り組むことが必要です。
- ◆健康のために意識していることや取り組んでいることの問いでは、「散歩やウォーキング」（42.3%）が最も高く、次いで「食事（栄養のバランスや量など）」（39.8%）、「規則正しい生活（早寝早起きや十分な睡眠など）」（29.9%）、「趣味や楽しみを持つ」（22.7%）、「家事（調理・洗濯・掃除）」（21.9%）となっています。一方で、「特にない」と回答した方が4.6%おり、その理由は「必要性を感じていない」「気持ちや体力的に余裕がない」（各21.2%）、「ひとりでは長続きしない」（17.3%）、「何をしたらいいかわからない」「時間がない」（各15.4%）、「取り組んでも状態が良くなると思わない」（13.5%）となっているため、健康づくりの必要性や健康づくりの取組、介護予防に関する教室などの情報発信のあり方やその実施方法等について検討することが必要です。

8 家庭や地域での役割や毎日の行動について

(1) 就労状況

○就労状況をみると、「就労している」が37.2%、「就労していない」が55.1%となっています。

問8-(1) 就労状況

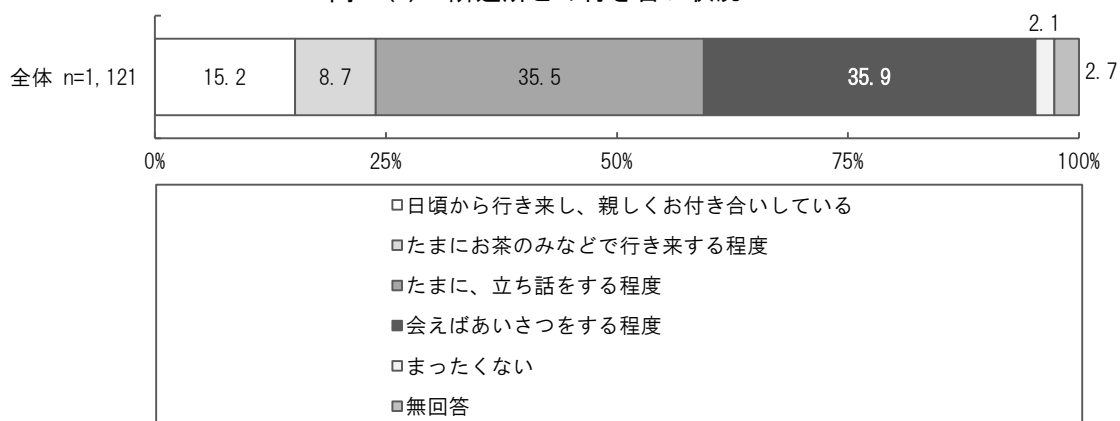


全体 n=1,121

(2) 隣近所との関わり

○隣近所との付き合い状況をみると、「会えばあいさつをする程度」(35.9%)が最も高く、次いで「たまに、立ち話をする程度」(35.5%)となっています。

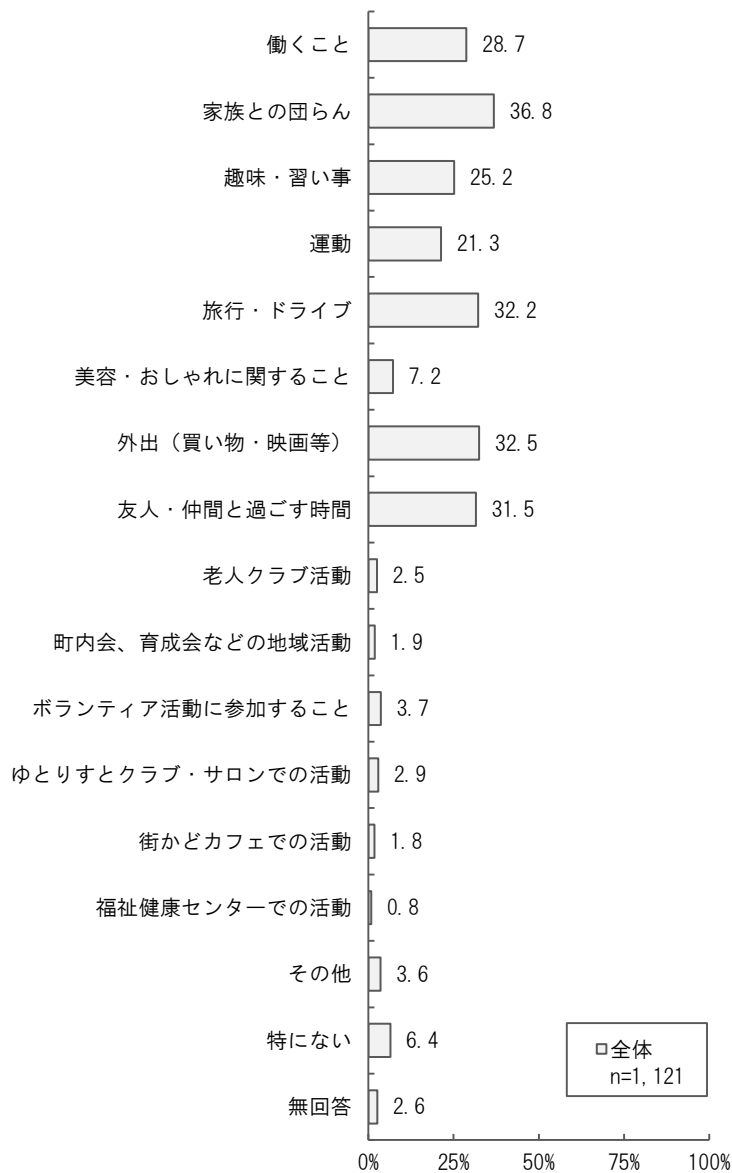
問8-(2) 隣近所との付き合い状況



(3) 生きがいについて

○生きがいや楽しみのある生活のために行っていることをみると、「家族との団らん」(36.8%)が最も高く、次いで「外出(買い物・映画等)」(32.5%)、「旅行・ドライブ」(32.2%)、「友人・仲間と過ごす時間」(31.5%)となっています。

問8-(3) 生きがいや楽しみのある生活のために行っていること



■課題分析（家庭や地域での役割や毎日の行動について）

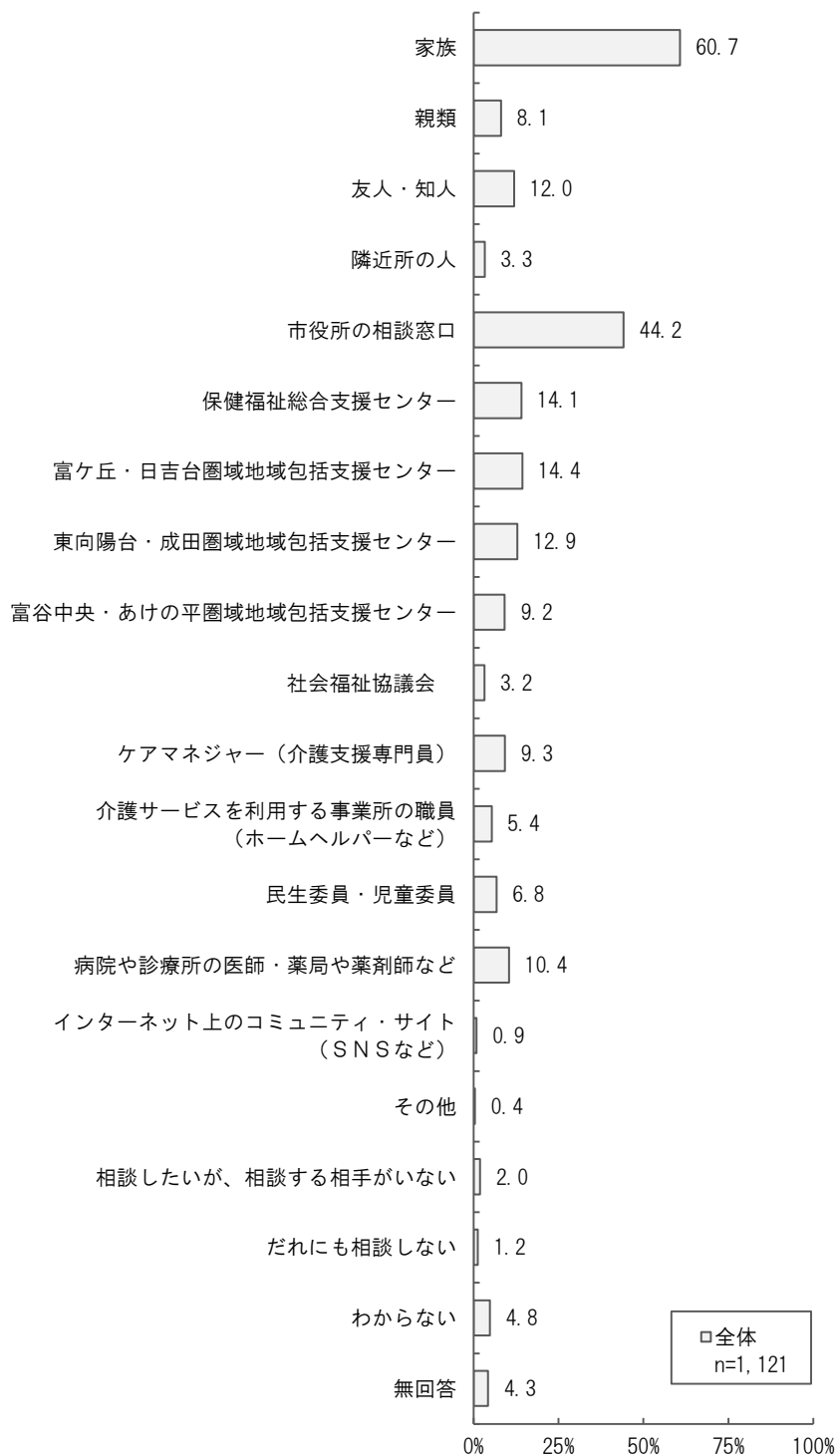
- ◆就労状況の問いでは、「就労している」が37.2%となっており、定年延長・再雇用等により4割近くの方が就労の状況にあります。一方で、「就労していない」が55.1%となっており、これらの方々に地域活動への参加を促すことで不足しがちなマンパワーを確保できる可能性があります。
- ◆隣近所との付き合い状況の問いでは、「まったくない」は2.1%にとどまっており、ほとんどの方が隣近所との付き合いを行っています。この好材料を地域におけるたすけ合いに転嫁することができれば、地域づくりを推進することができます。
- ◆生きがいや楽しみのある生活のために行っていることの問いでは、「働くこと」（28.7%）の就労分野、「運動」（21.3%）の介護予防・健康づくり分野、「趣味・習い事」（25.2%）、「旅行・ドライブ」（32.2%）、「外出（買い物・映画等）」（32.5%）の趣味分野、「家族との団らん」（36.8%）、「友人・仲間と過ごす時間」（31.5%）の人との関わり分野等は2～3割台となっています。一方で、「老人クラブ活動」（2.5%）「町内会、育成会などの地域活動」（1.9%）、「ボランティア活動に参加すること」（3.7%）等の地域活動としての分野は1割を大きく下回っている状況にあるため、引き続き地域活動の周知啓蒙と参加者増加のための取組が必要です。

9 相談窓口について

(1) 相談窓口などについて

○介護について相談したい相手を見ると、「家族」(60.7%)が最も高く、次いで「市役所の相談窓口」(44.2%)、「富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター」(14.4%)、「保健福祉総合支援センター」(14.1%)となっています。

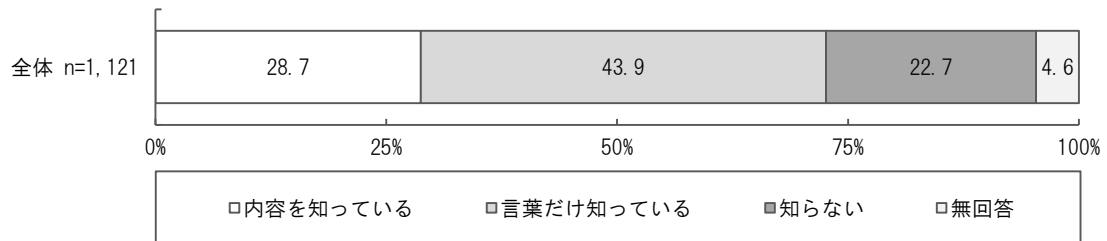
問9-(1) 介護について相談したい相手



(2) 成年後見制度について

○成年後見制度の周知状況をみると、「言葉だけ知っている」(43.9%)が最も高く、次いで「内容を知っている」(28.7%)、「知らない」(22.7%)となっています。

問9-(2) 成年後見制度の周知状況



■課題分析（相談窓口について）

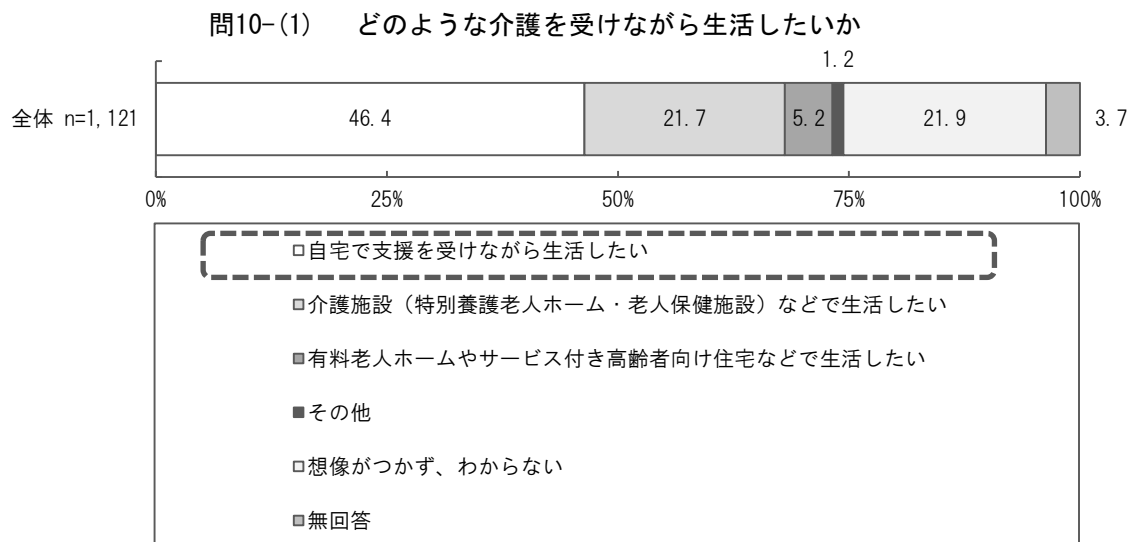
◆介護について相談したい相手の問いでは、「家族」(60.7%)に次いで「市役所の相談窓口」(44.2%)となっている一方で、「保健福祉総合支援センター」「地域包括支援センター」「民生委員・児童委員」や「社会福祉協議会」「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が1割以下であり、また「相談したいが、相談する相手がない」も2.0%となっているため、引き続き相談先について周知をすることが必要です。

◆成年後見制度の周知状況の問いでは、「知らない」が22.7%となっているため、引き続き制度の周知方法の検討が必要です。

10 今後の介護について

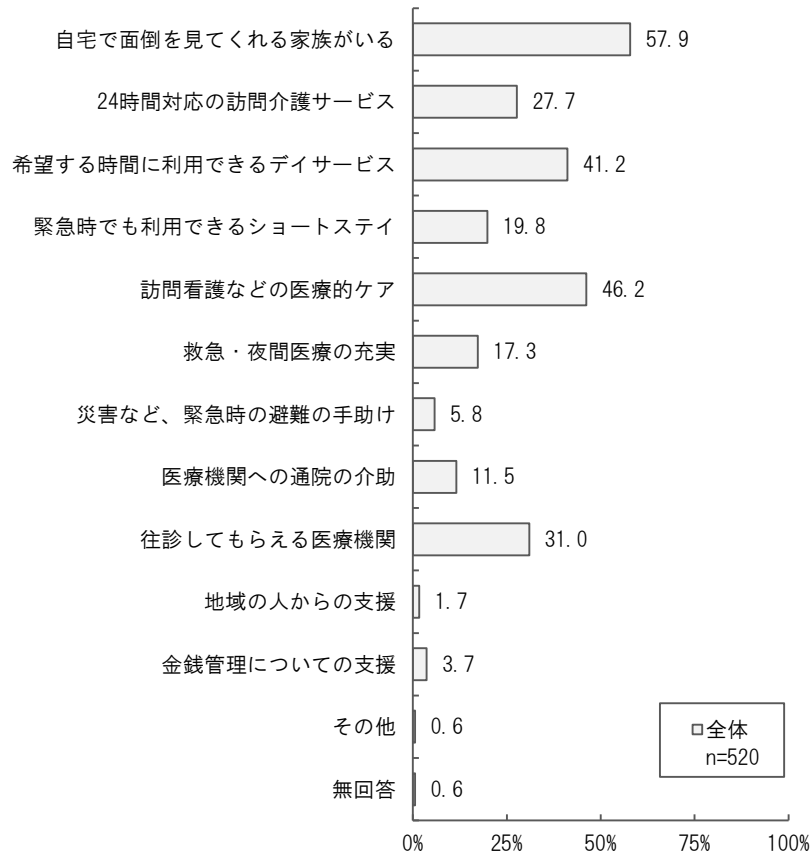
(1) どのような介護を受けながら生活したいか

○どのような介護を受けながら生活したいかをみると、「自宅で支援を受けながら生活したい」(46.4%)が最も高く、次いで「想像がつかず、わからない」(21.9%)、「介護施設(特別養護老人ホーム・老人保健施設)などで生活したい」(21.7%)となっています。



○自宅で生活をするために必要と思う支援やサービスをみると、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」(57.9%)が最も高く、次いで「訪問看護などの医療的ケア」(46.2%)、「希望する時間に利用できるデイサービス」(41.2%)、「往診してもらえる医療機関」(31.0%)、「24時間対応の訪問介護サービス」(27.7%)となっています。

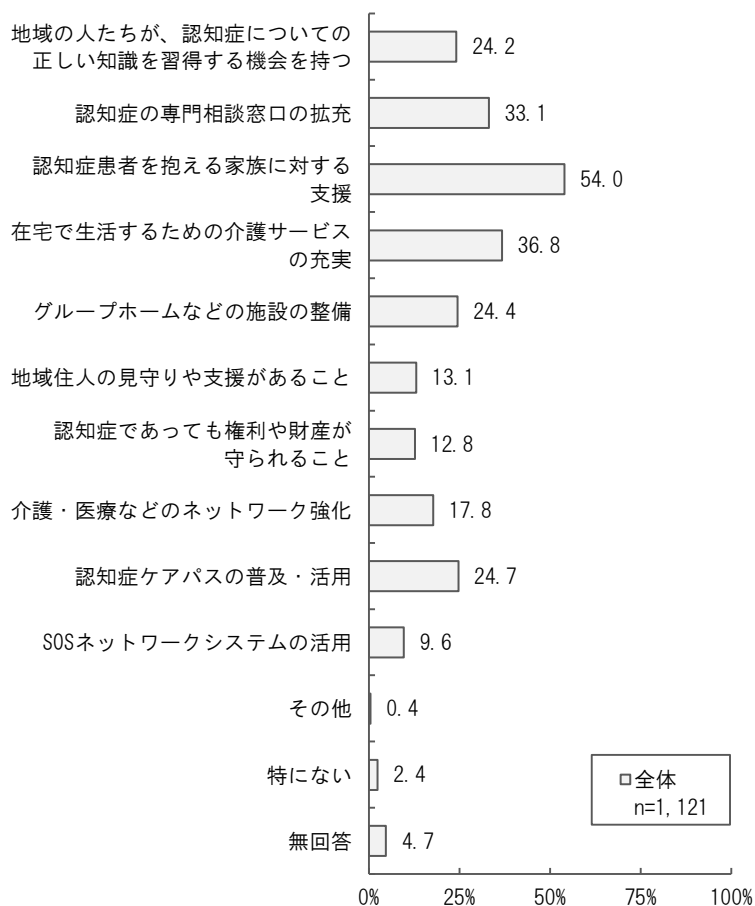
問10-(1).① 自宅で生活をするために必要と思う支援やサービス



(2) 認知症について

○認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「認知症患者を抱える家族に対する支援」(54.0%)が最も高く、次いで「在宅で生活するための介護サービスの充実」(36.8%)、「認知症の専門相談窓口の拡充」(33.1%)、「認知症ケアパスの普及・活用」(24.7%)となっています。

問10-(2) 認知症になっても安心して生活するために必要なこと



■課題分析（今後の介護について）

- ◆介護が必要になった場合の生活場所の問いでは、「自宅で支援を受けながら生活したい」（46.4%）が最も高くなっており、住み慣れた場所で在宅生活を送ることができるよう地域包括ケアシステムを推進していくことが必要です。また、「想像がつかず、わからない」との回答もあり将来どのように過ごしたいかを、元気なうちから考えてもらうための取組み等の検討が必要です。
- ◆自宅で生活をするために必要と思う支援やサービスの問いでは、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」（57.9%）が最も高く、次いで、「訪問看護などの医療的ケア」（46.2%）、「希望する時間に利用できるデイサービス」（41.2%）、「往診してもらえる医療機関」（31.0%）、「24時間対応の訪問介護サービス」（27.7%）となっており、給付実績分析結果と社会資源の突合分析により、不足するサービスを特定し、住み慣れた場所で在宅生活を送ることができるよう、地域包括ケアシステムの推進が必要です。
- ◆認知症になっても安心して生活するために必要なことの問いでは、「認知症患者を抱える家族に対する支援」（54.0%）が最も高く、次いで「在宅で生活するための介護サービスの充実」（36.8%）、「認知症の専門相談窓口の拡充」（33.1%）、「認知症ケアパスの普及・活用」（24.7%）となっており、引き続き認知症に関する周知啓蒙や見守り体制の周知と体制の強化等が必要です。

第3章

在宅介護実態調査

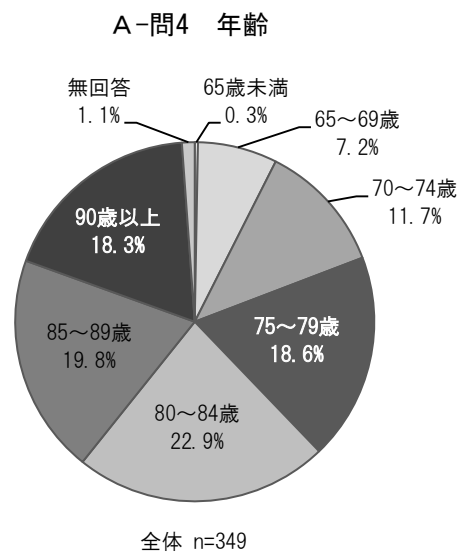
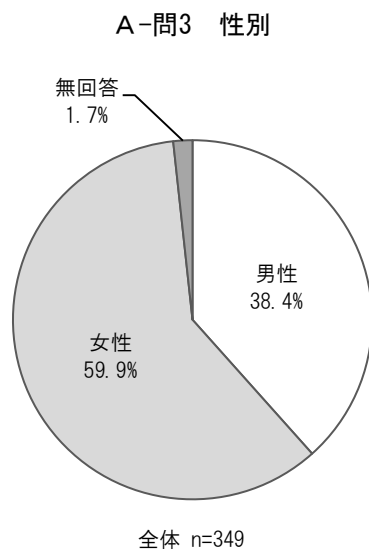
第3章 在宅介護実態調査

1 ご本人（要介護者）の状況について

(1) 要介護者の属性

○調査回答者の性別をみると「男性」（38.4%）、「女性」（59.9%）となっています。

○年齢をみると、「80～84歳」（22.9%）が最も高く、次いで「85～89歳」（19.8%）、「75～79歳」（18.6%）となっています。

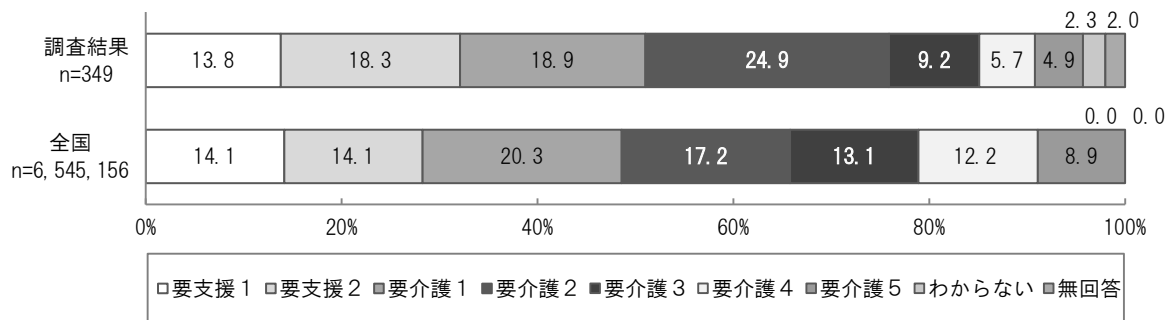


(2) 要介護者の要介護度

○要介護者の介護度をみると、「要介護2」（24.9％）が最も高く、次いで「要介護1」（18.9％）、「要支援2」（18.3％）、「要支援1」（13.8％）となっており、全国と比較しても「介護度2」の割合は高くなっています。

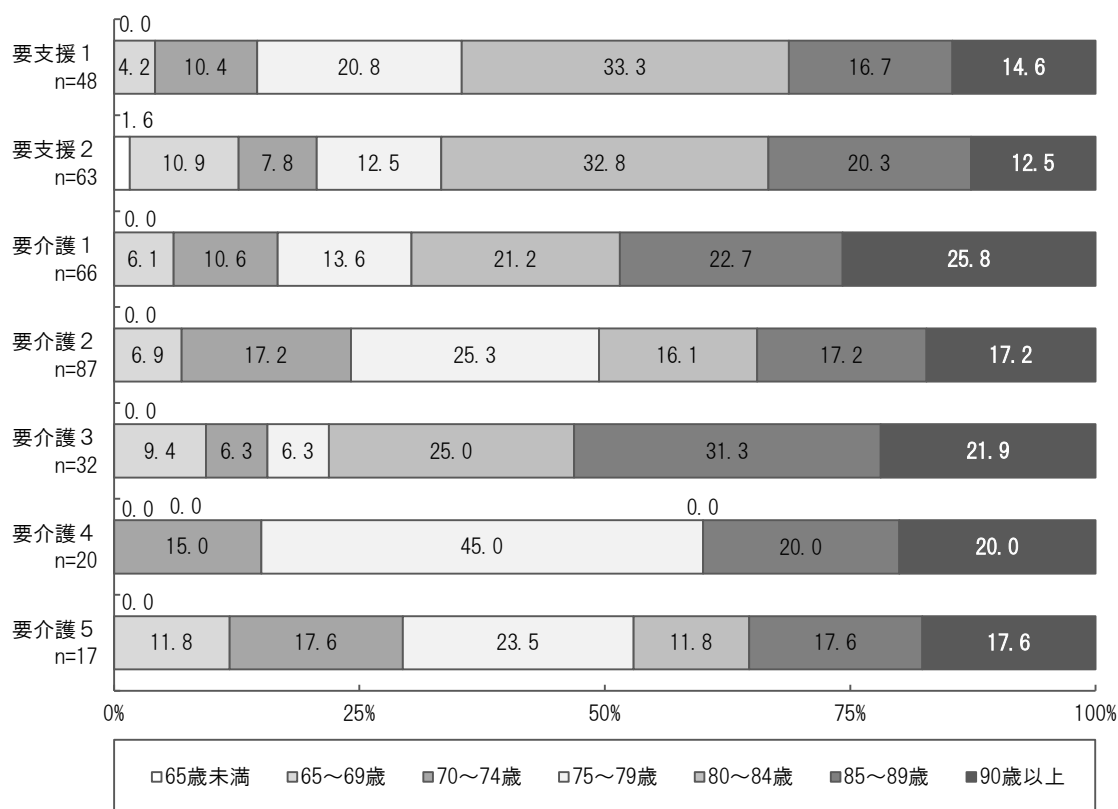
○介護度別にみると、「介護度2」（24.1％）、「介護度5」（29.4％）で前期高齢者（65～74歳）の割合が高くなっています。

A-問5 要介護者の介護度別構成比



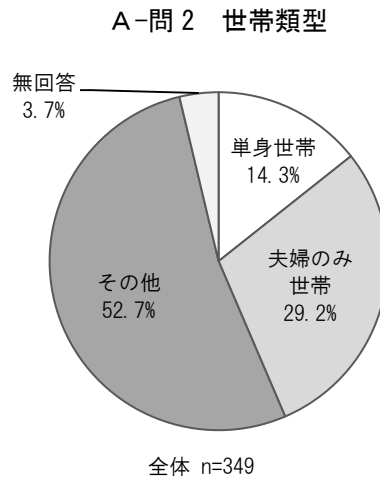
出典：「全国」は介護保険事業状況報告（令和2年1月）月報より

「A-問5 介護度」×「A-問4 年齢」



(3) 要介護者の世帯類型

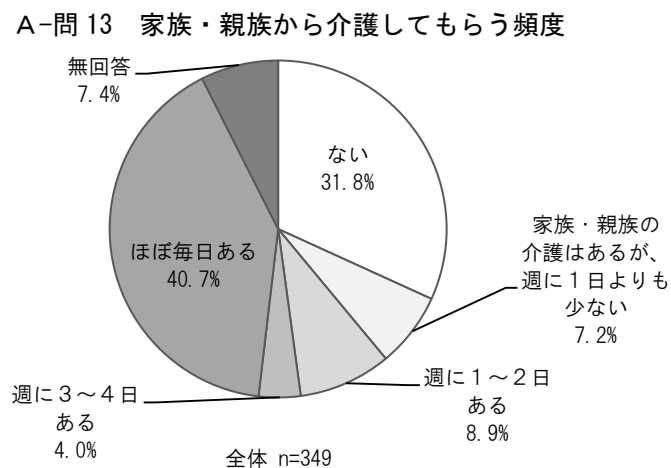
○世帯類型をみると、「夫婦のみ世帯」は29.2%、「単身世帯」は14.3%となっており、「その他」の世帯は52.7%と最も高くなっています。



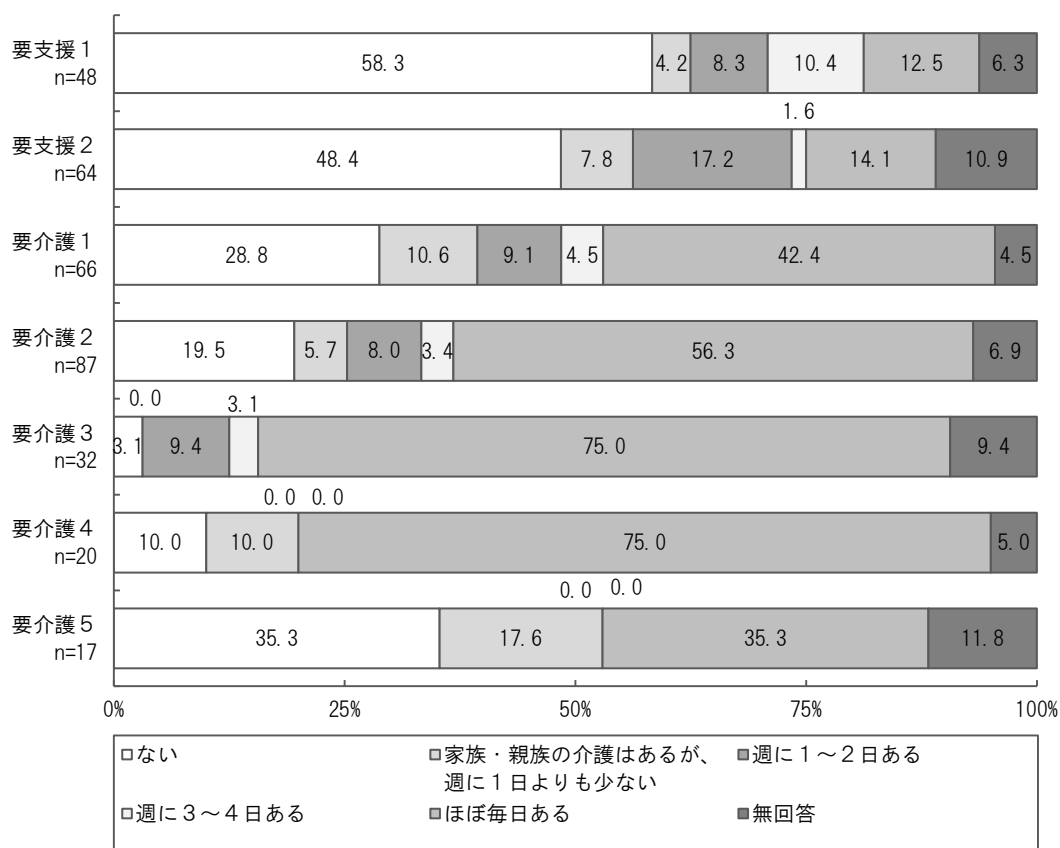
(4) 家族・親族から介護してもらう頻度

○家族・親族による介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」(40.7%)が最も高く、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」(7.2%)、「週に1～2日ある」(8.9%)、「週に3～4日ある」(4.0%)と合わせると60.8%の方が家族・親族による介護を受けています。

○また介護度別にみると、要介護1～4では「ほぼ毎日ある」(42.4～75.0%)、要支援1・2では「ない」(48.4～58.3%)が最も高く、要介護5では「ない」(35.3%)、と「ほぼ毎日ある」(35.3%)が同数となっています。



「A-問5 介護度」×「A-問13 家族・親族から介護してもらう頻度」



※介護度において「わからない」8名「無回答」7名を除く。

■課題分析（ご本人（要介護者）の状況について）

- ◆要介護者の介護度の問いでは、「要介護2」（24.9%）が最も高くなっており、全国と比較しても、軽度認定者（要支援1・2）と中度認定者（要介護1・2）の割合が高くなっています。重度化防止施策の成果として軽・中度認定者割合が高くなっているのか、他の要因があるのかを、給付費分析結果も踏まえて検証することが大切です。また、介護度別では、「要介護5」（29.4%）で前期高齢者（65～74歳）の割合が高くなっており、「脳血管疾患（脳卒中）」等による介護度の重度化の状況が懸念されます。第2号被保険者への生活習慣病予防施策や前期高齢者への介護予防・健康づくり施策を推進し、生活習慣病やそれに起因する疾患予防施策を推進することが必要です。
- ◆「介護度」と「家族・親族から介護してもらう頻度」のクロス集計では、「ほぼ毎日」介護をしてもらう割合は要介護3・4が最も高く7割強となっているため、介護度3・4の世帯の家族の介護負担が懸念されます。

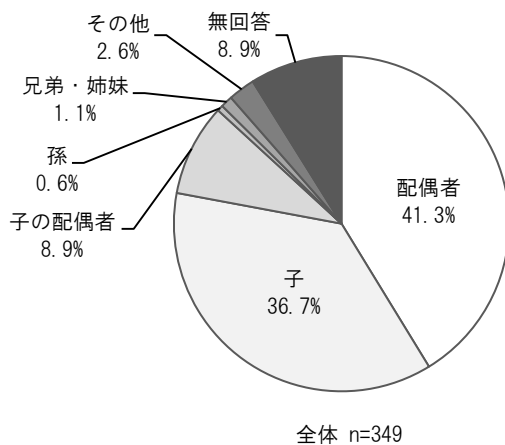
2 主な介護者等の状況（属性等）について

(1) 主な介護者の状況

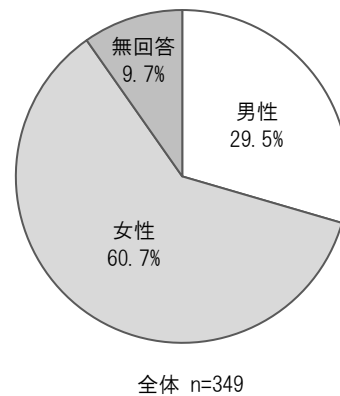
○要介護者からみた主な介護者は、「配偶者」(41.3%)が最も高く、次いで「子」(36.7%)、「子の配偶者」(8.9%)となっています。

○主な介護者の性別は、「女性」(60.7%)が多く、「男性」(29.5%)とは約2：1の割合となっています。

B-問2 要介護者からみた主な介護者

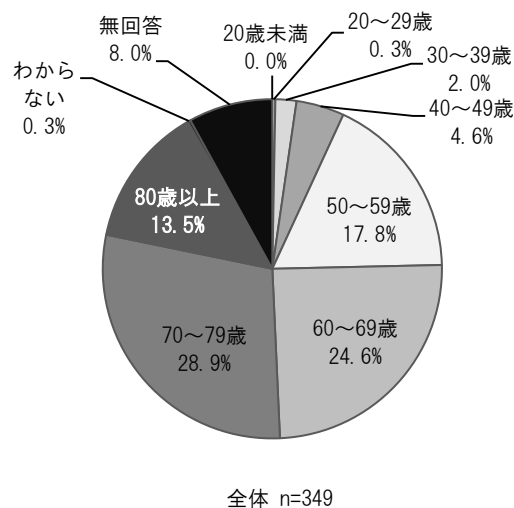


B-問3 主な介護者の性別



○主な介護者の年齢は、「70～79歳」(28.9%)が最も高く、次いで「60～69歳」(24.6%)、「50～59歳」(17.8%)、「80歳以上」(13.5%)となっています。

B-問4 主な介護者の年齢

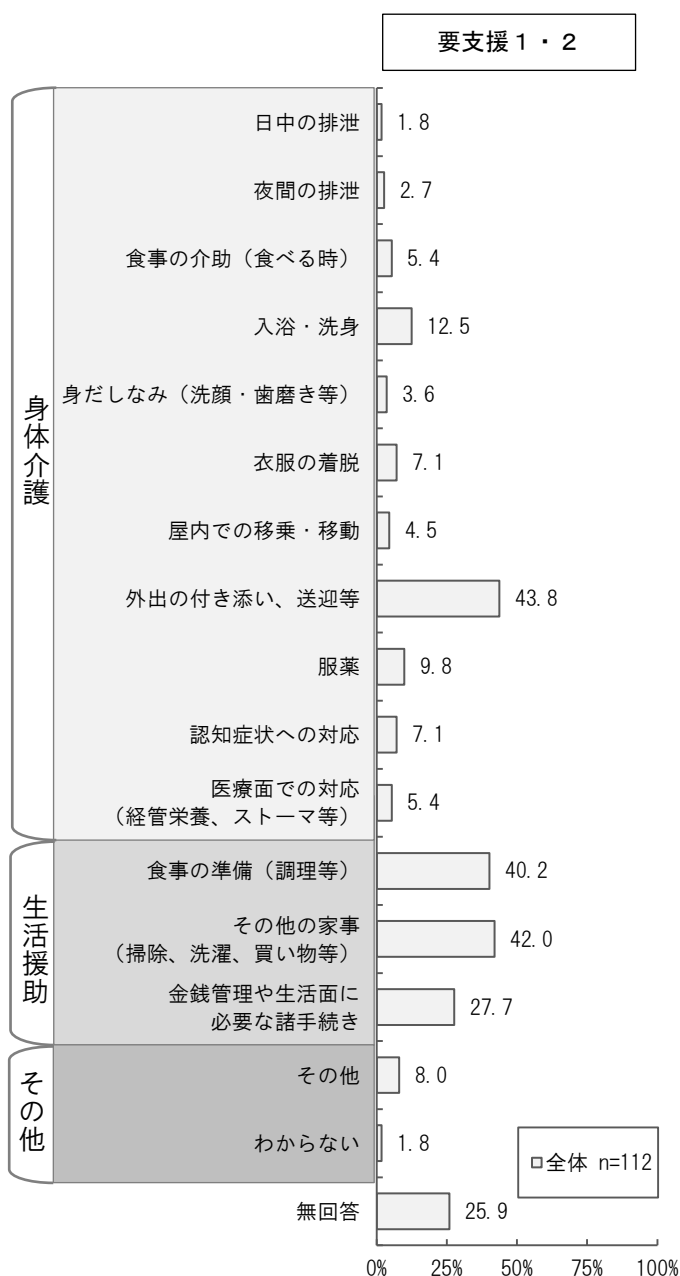


(2) 主な介護者の介護実態

○要支援1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(43.8%)が最も高く、次いで「入浴・洗身」(12.5%)「服薬」(9.8%)となっています。

○生活援助では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が42.0%、「食事の準備(調理等)」が40.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が27.7%となっています。

B-問5 主な介護者が行っている介護等

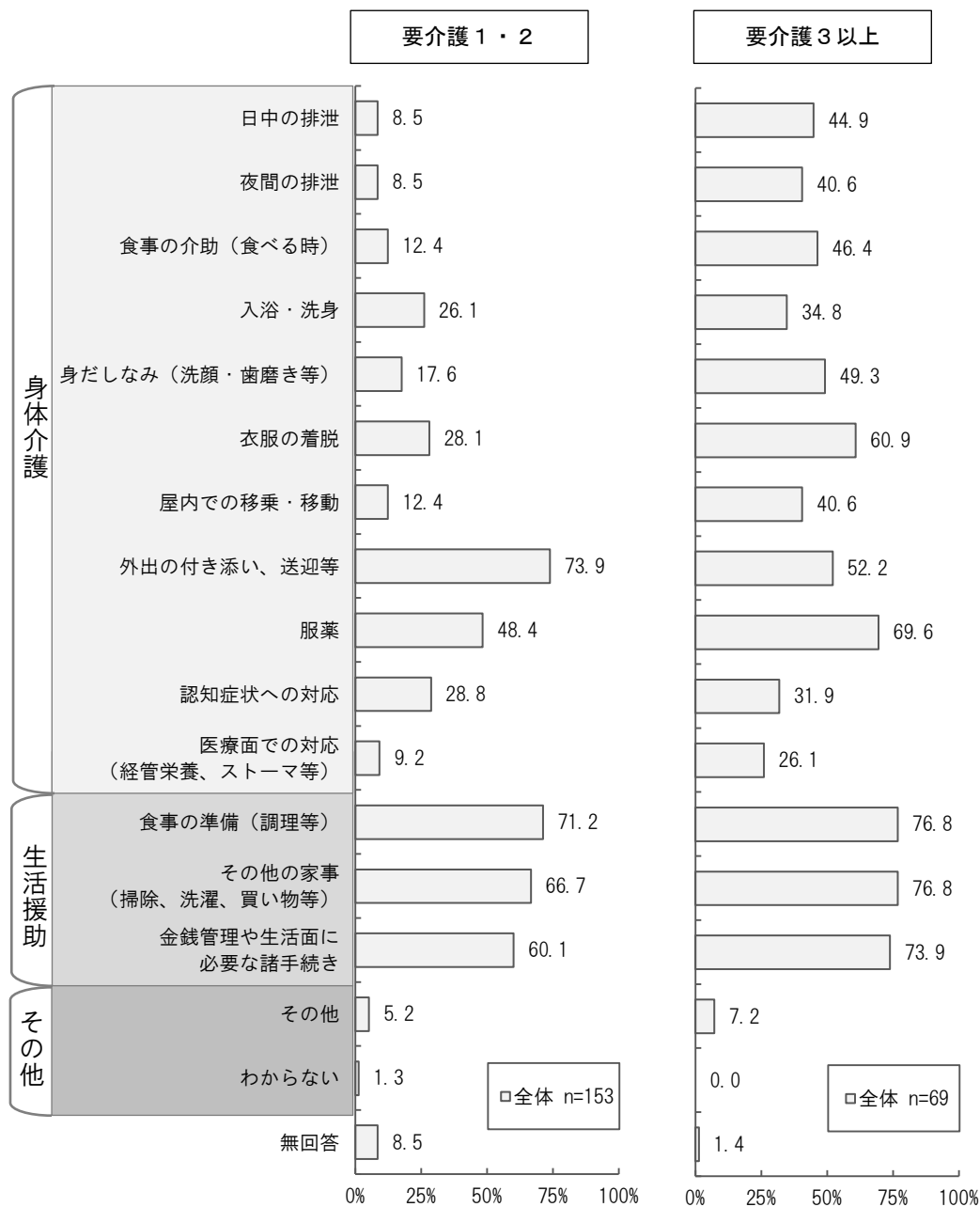


○要介護1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(73.9%)が最も高く、次いで「服薬」(48.4%)、「認知症状への対応」(28.8%)となっています。

○生活援助では「食事の準備(調理等)」が71.2%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が66.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が60.1%となっています。

○要介護3以上の方の身体介護では「服薬」(69.6%)が最も高く、次いで「衣服の着脱」(60.9%)、「外出の付き添い、送迎等」(52.2%)となっています。

○生活援助では「食事の準備(調理等)」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が各76.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が73.9%となっています。

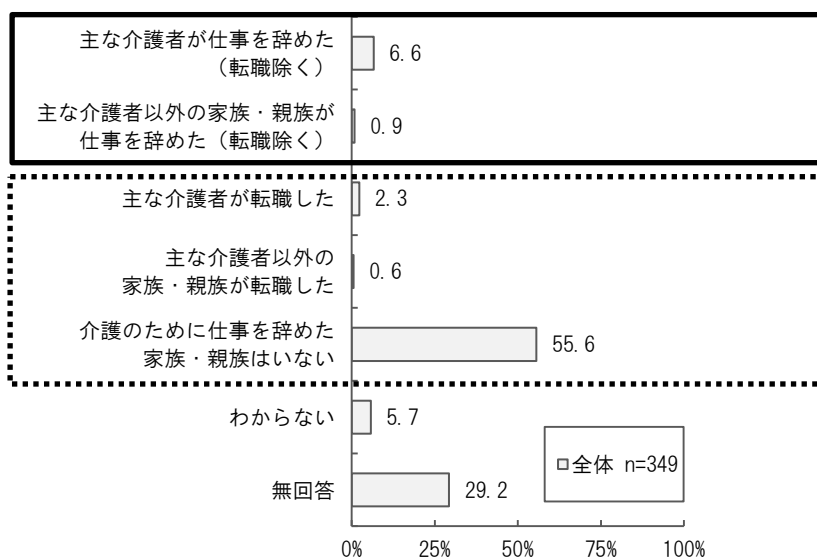


(3) 家族・親族が介護のために離職した状況

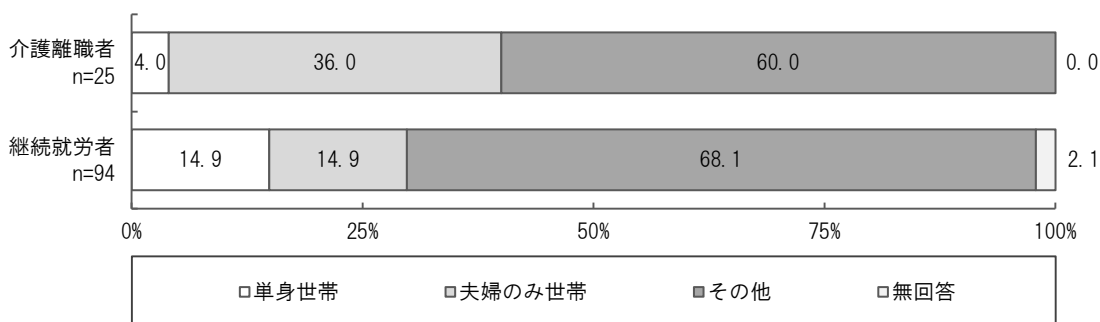
○家族・親族が介護を理由に退職・転職した状況をみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（6.6%）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（0.9%）が離職し、また2.3%が転職しています。

○世帯類型別では、介護離職者と継続就労者とも「その他」の世帯（60.0%・68.1%）が最も高く、次いで介護離職者では「夫婦のみ世帯」（36.0%）、「単身世帯」（4.0%）、継続就労者では「単身世帯」「夫婦のみ世帯」（各14.9%）となっています。

B-問1 家族・親族の介護による退職・転職状況



「介護離職者・継続就労者別」×「A-問2 世帯類型」

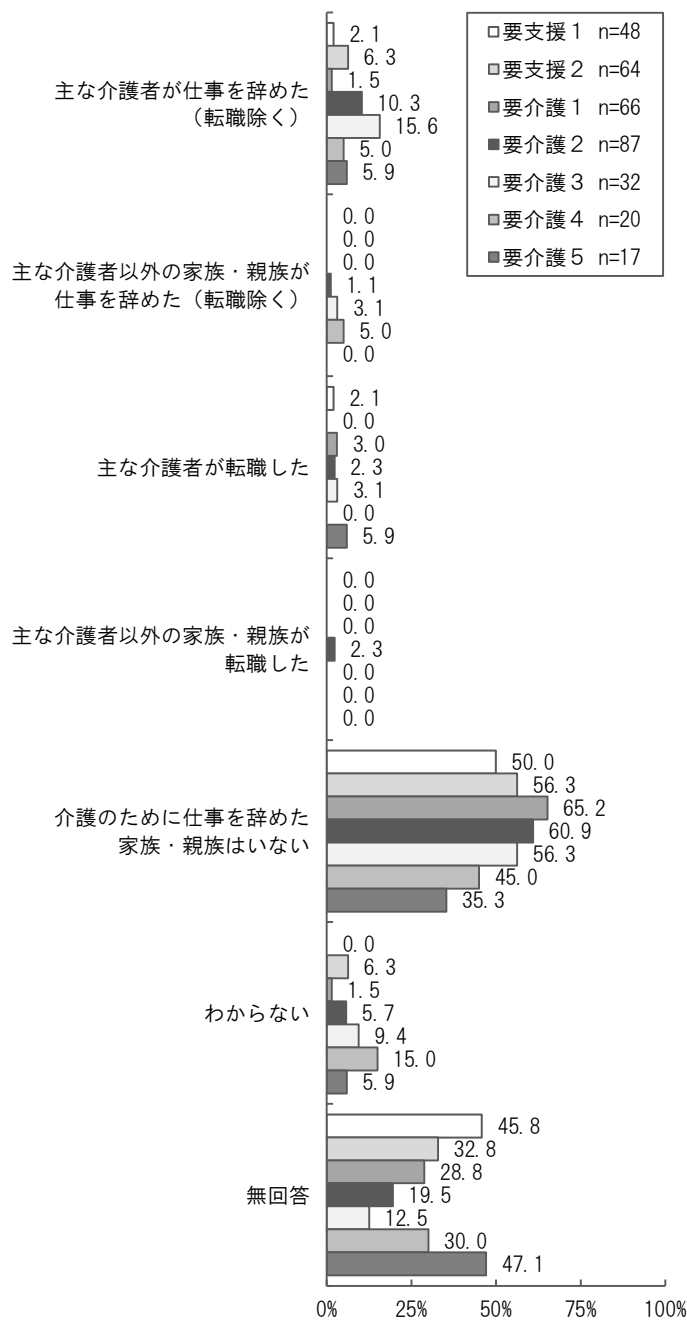


※介護離職者：B-問1で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。

※継続就労者：①B-問1で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②B-問1で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、B-問7で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

○家族・親族が介護を理由に退職・転職した状況を介護度別にみると、全ての要支援、要介護度で「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(35.3~65.2%)が最も高く、次いで要支援1は「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」「主な介護者が転職した」(各2.1%)、要支援2、要介護2・3は「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」(5.0~15.6%)、要介護1は「主な介護者が転職した」(3.0%)、要介護4は「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)」(各5.0%)、要介護5は「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」「主な介護者が転職した」(各5.9%)となっています。

「A-問5 介護度」×「B-問1 家族・親族の介護による退職・転職状況」



■課題分析（主な介護者等の状況（属性等）について）

- ◆要介護者からみた主な介護者の間では「配偶者」（41.3%）、「子」（36.7%）「子の配偶者」（8.9%）となっています。また、主な介護者の年齢は、「70～79歳」（28.9%）、「60～69歳」（24.6%）、「50～59歳」（17.8%）、「80歳以上」（13.5%）となっており、介護者の高齢化に伴い在宅介護が継続困難になる可能性があります。
- ◆主な介護者の介護実態の間では、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」（43.8%）、「食事の準備（調理等）」（40.2%）、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（42.0%）が4割台で最も高く、要介護1～5でも高い割合を示しています。要介護1・2では「服薬」（48.4%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（60.1%）等が加わり、要介護3以上では、身体介護・生活援助のほとんどの項目で介護が必要な状況がみられます。介護負担の軽減を図るためには、主な介護者の生活状況を考慮のうえ、最適なサービスの提供及び適切なケアプランの組み立てが引き続き必要です。
- ◆「介護離職者・継続就労者別」と「世帯類型」のクロス集計では、介護離職者と継続就労者とも「その他」の世帯（60.0%・68.1%）が最も高くなっており、3人以上の家族がいる世帯や親子世帯等の「その他」世帯であっても要介護者がいる場合、就労を継続することが困難な状況がみられます。また、介護離職者では「夫婦のみ世帯」が就労継続者より多くなっていることから、「夫婦のみ世帯」「その他」世帯に対して働きながらも継続的な介護が可能となるような環境づくりが必要です。
- ◆家族・親族が介護を理由に退職・転職した状況の問いを介護度別にみると、すべての介護度において介護離職者または介護転職者が存在しており、介護度に関係なく主たる介護者が離職または転職を余儀なくされる状況がみられます。

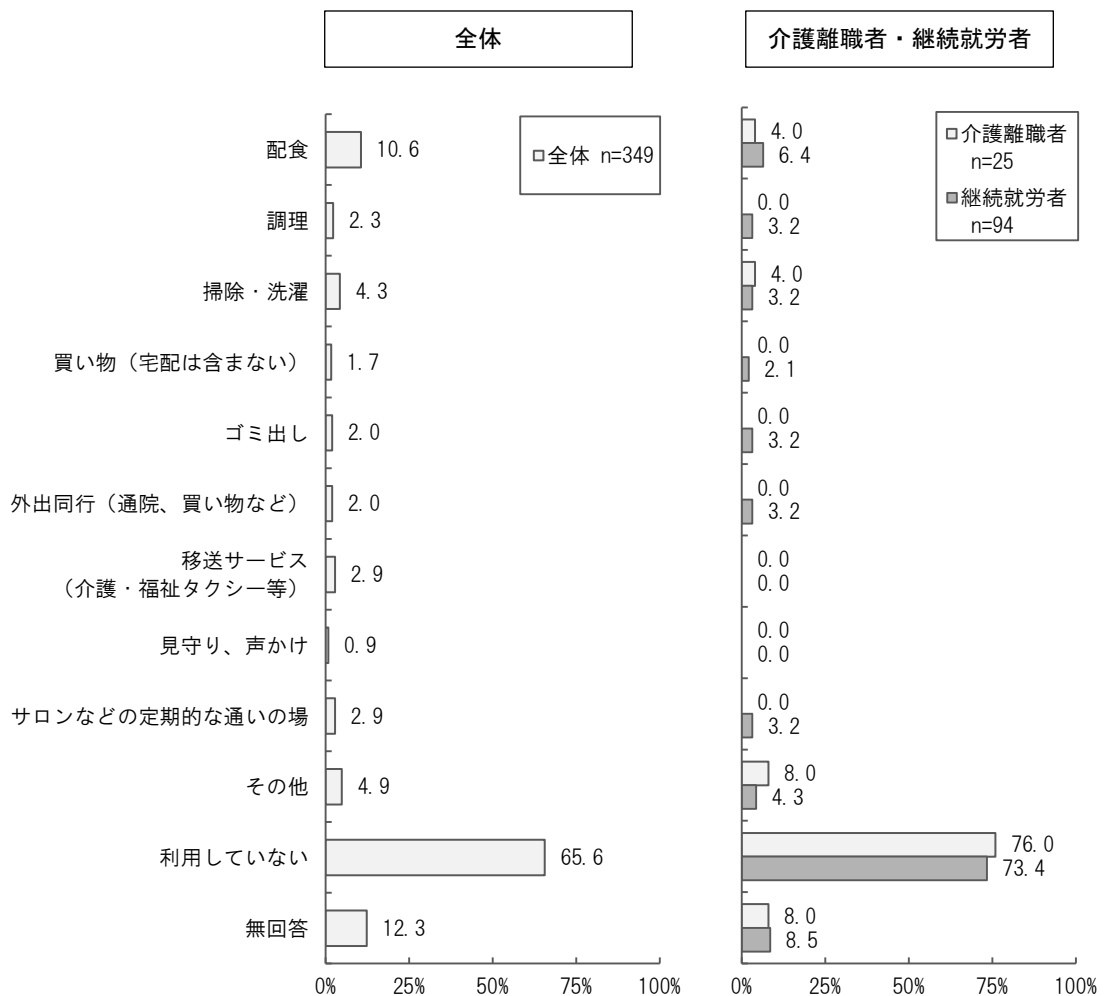
3 支援・サービス・訪問診療の利用状況やニーズについて

(1) 在宅生活を続けていくために必要な支援・サービス

○介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況をみると、全体では「利用していない」(65.6%)が最も高く、次いで「配食」(10.6%)となっています。

○介護離職者と継続就労者ともに「利用していない」(76.0%・73.4%)が最も高く、次いで介護離職者では「その他」(8.0%)、「配食」「掃除・洗濯」(各4.0%)、継続就労者では「配食」(6.4%)となっています。

A-問12 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況



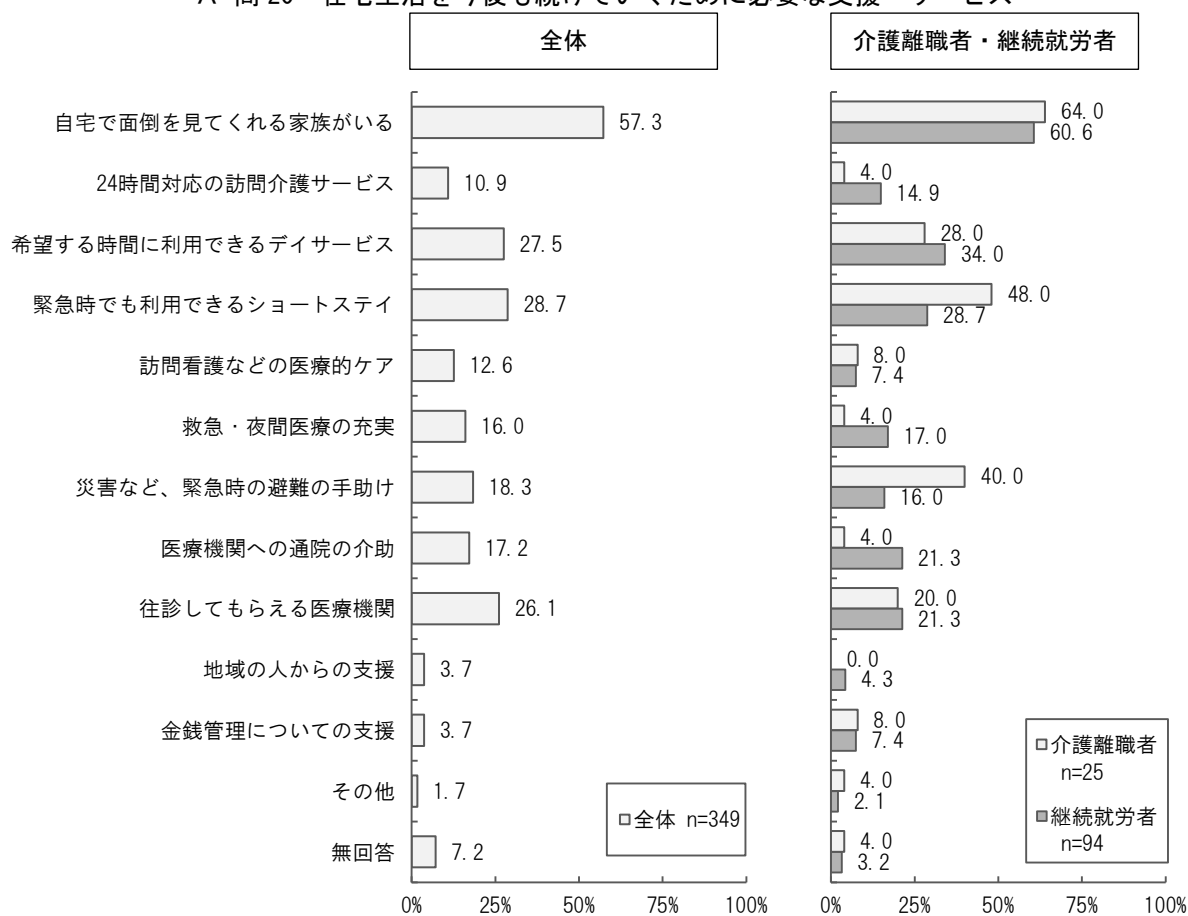
※介護離職者：B-問1で「仕事を辞めた(転職除く)」と回答(「1」「2」を選択)した方です。

※継続就労者：①B-問1で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方と、②B-問1で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、B-問7で「働いている」と回答(「1」「2」を選択)した方の計です。

○在宅生活を続けていくために必要な支援・サービスをみると、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」(57.3%)が最も高く、次いで「緊急時でも利用できるショートステイ」(28.7%)、「希望する時間に利用できるデイサービス」(27.5%)、「往診してもらえる医療機関」(26.0%)となっています。

○介護離職者・継続就労者ともに、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」(64.0%・60.6%)が最も高く、次いで介護離職者では「緊急時でも利用できるショートステイ」(48.0%)、「災害など、緊急時の避難の手助け」(40.0%)、継続就労者では「希望する時間に利用できるデイサービス」(34.0%)、「緊急時でも利用できるショートステイ」(28.7%)となっています。

A-問 20 在宅生活を今後も続けていくために必要な支援・サービス



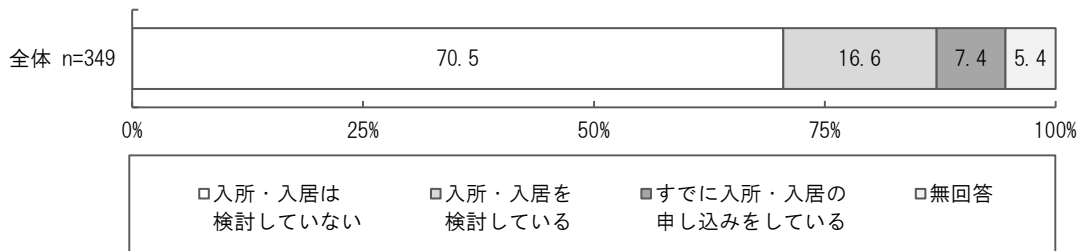
※介護離職者：B-問1で「仕事を辞めた(転職除く)」と回答(「1」「2」を選択)した方です。

※継続就労者：①B-問1で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方と、B-問1で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、B-問7で「働いている」と回答(「1」「2」を選択)した方の計です。

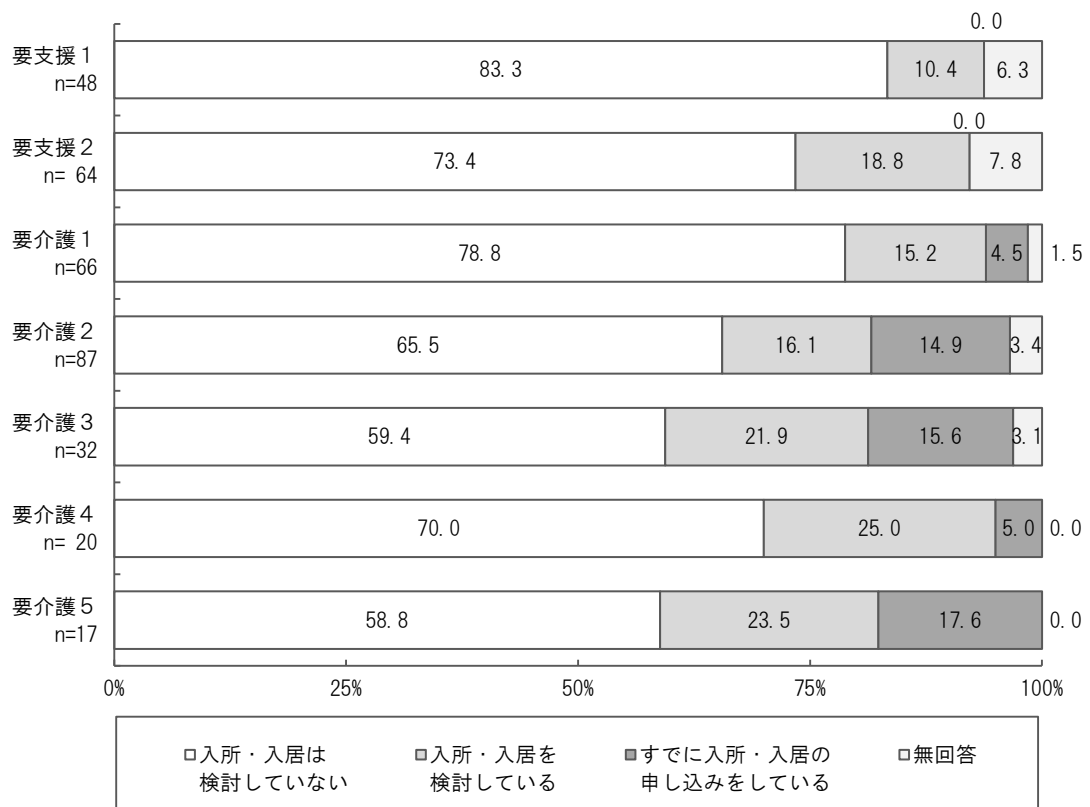
○施設等への入所・入居に関する検討状況をみると、全体では「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居の申し込みをしている」を合わせた24.0%が、入所・入居予定または検討中となっています。

○介護度別の検討状況では、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居の申し込みをしている」を合わせた入所・入居予定または検討中の方は、要支援1では10.4%、要支援2では18.8%、要介護1では19.7%、要介護2では31.0%、要介護3では37.5%、要介護4では30.0%、要介護5では41.1%となっています。

A-問6 施設等への入所・入居に関する検討状況



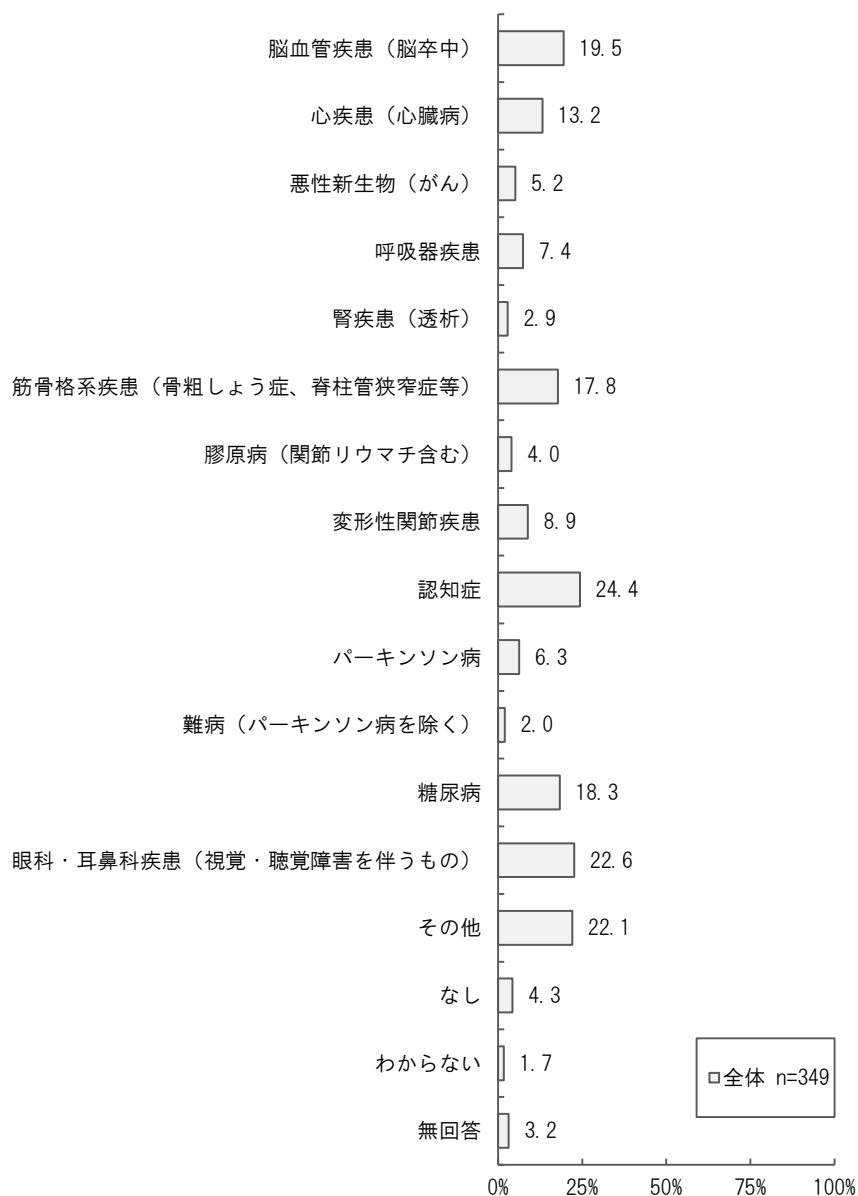
「A-問5 介護度」 × 「A-問6 施設等への入所・入居に関する検討状況」



(2) 訪問診療の利用状況

○要介護者が現在抱えている傷病名をみると、「認知症」(24.4%)が最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(22.6%)、「その他」(22.1%)、「脳血管疾患(脳卒中)」(19.5%)、「糖尿病」(18.3%)、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(17.8%)となっています。

A-問7 要介護者が現在抱えている傷病名



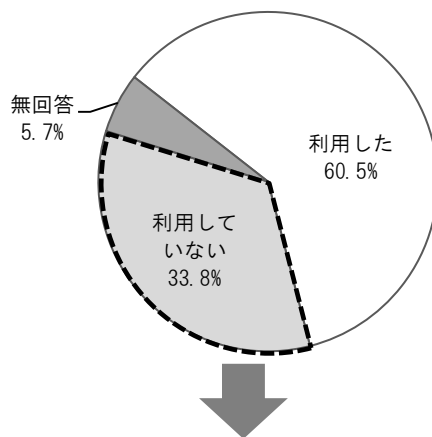
(3) 介護保険サービスの利用状況

○介護保険サービスの利用状況を見ると、「利用した」は60.5%、「利用していない」は33.8%となっています。

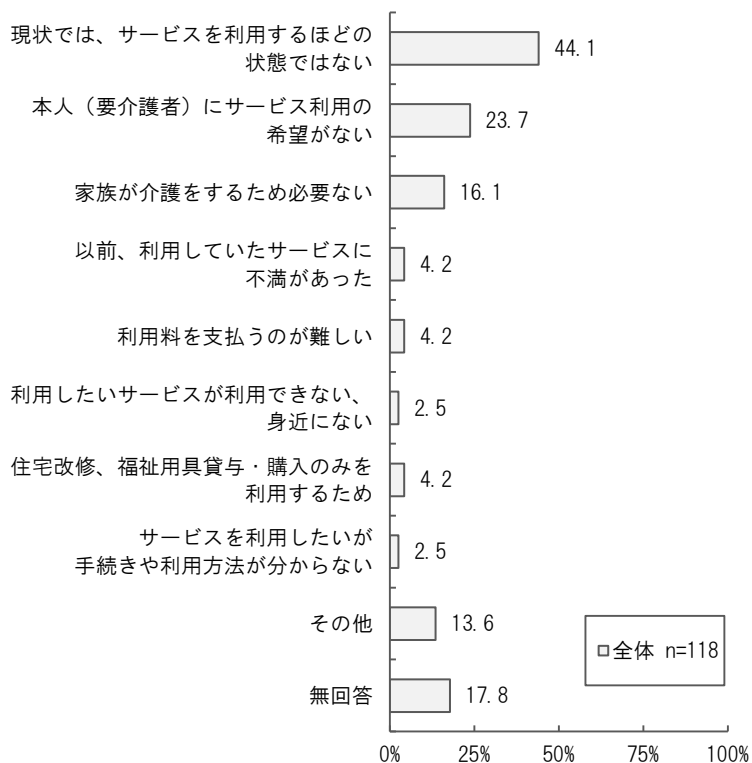
○介護保険サービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(44.1%)が最も高く、次いで「本人(要介護者)にサービス利用の希望がない」(23.7%)となっています。

A-問8 介護保険サービスの利用状況

全体 n=349

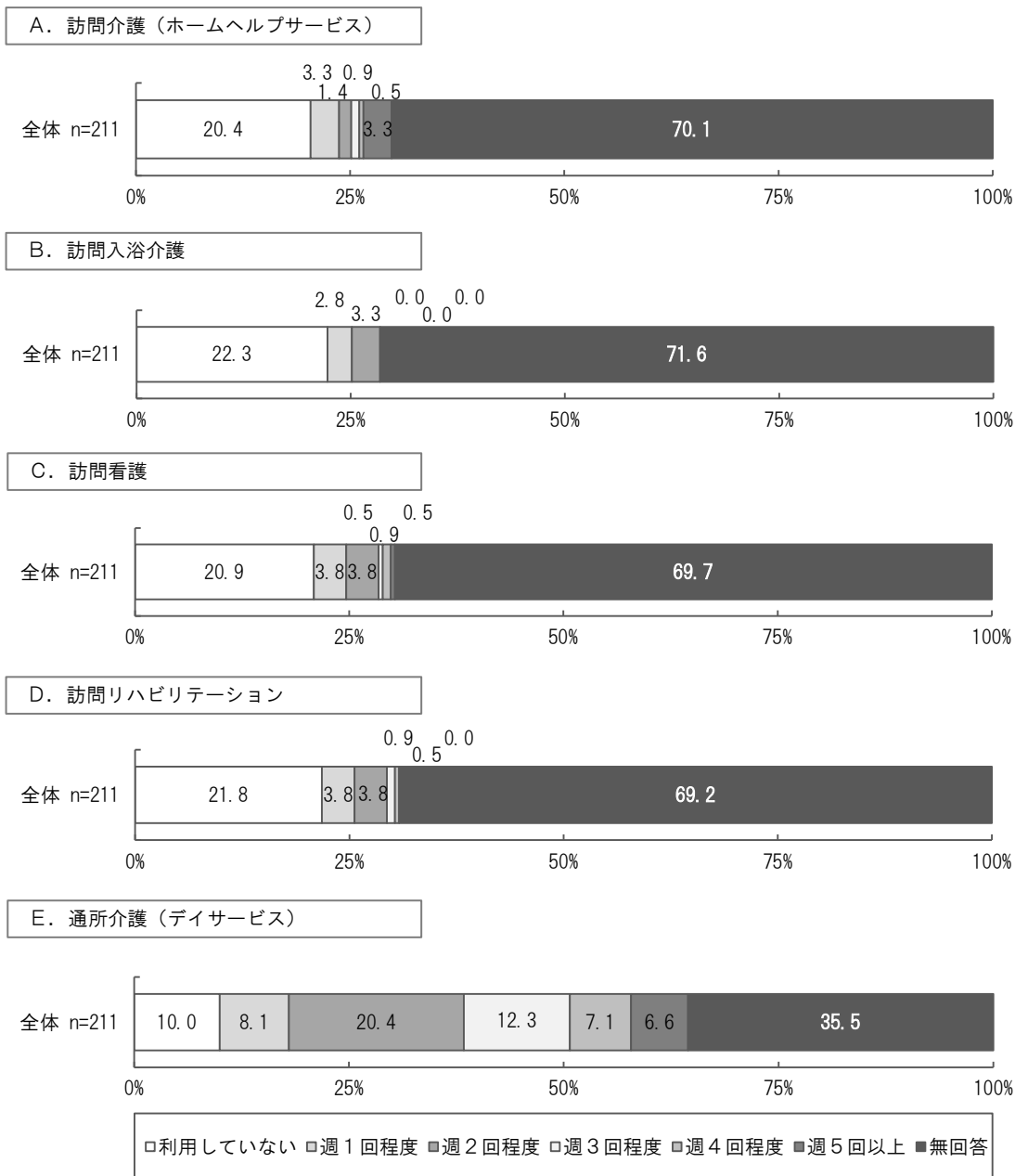


A-問11 介護保険サービスを利用していない理由

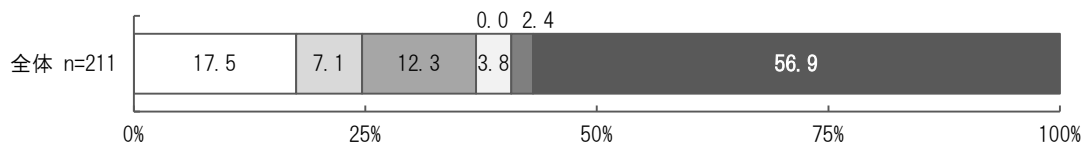


○介護保険サービスの利用状況を見ると、通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）を除いて「無回答」が約7割、「利用していない」が約2割を占めております。利用があるサービスでは「週1回程度」「週2回程度」の割合が高くなっています。

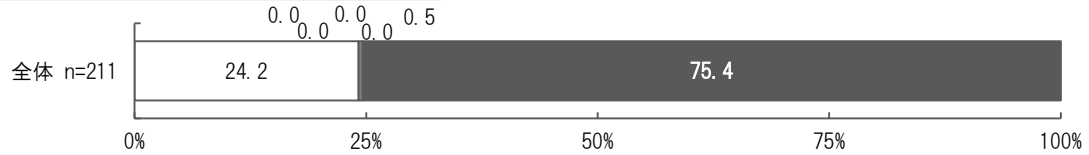
A-問9 介護保険サービスの利用状況



F. 通所リハビリテーション（デイケア）

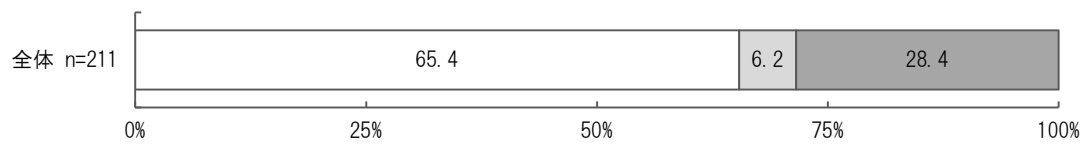


G. 夜間対応型訪問介護

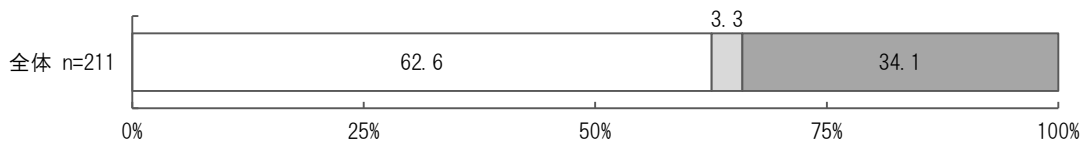


□利用していない □週1回程度 □週2回程度 □週3回程度 □週4回程度 □週5回以上 ■無回答

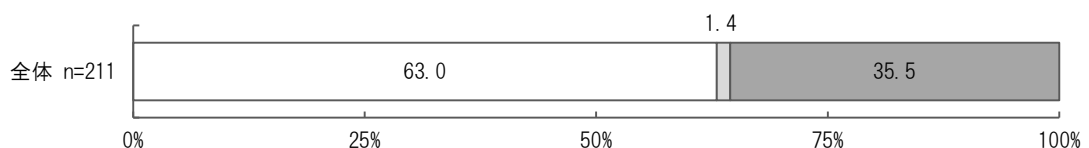
H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護



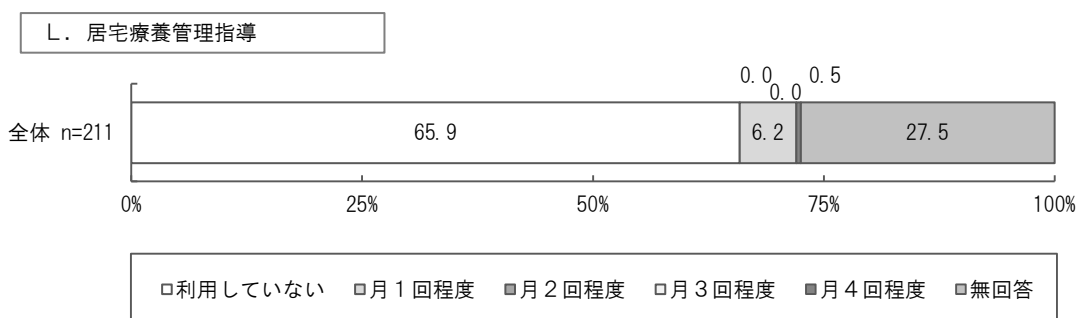
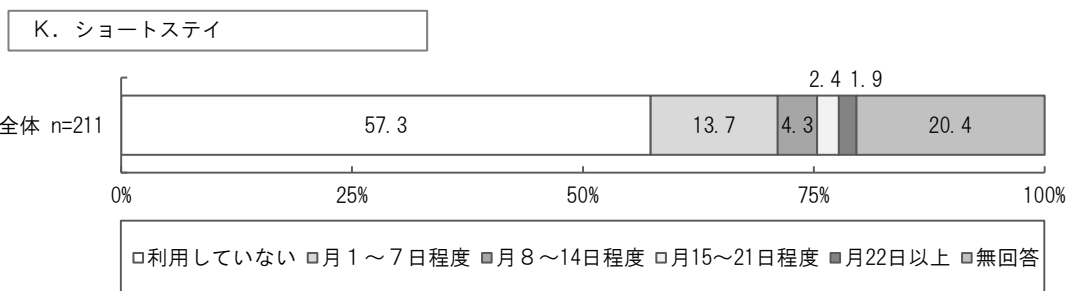
I. 小規模多機能型居宅介護



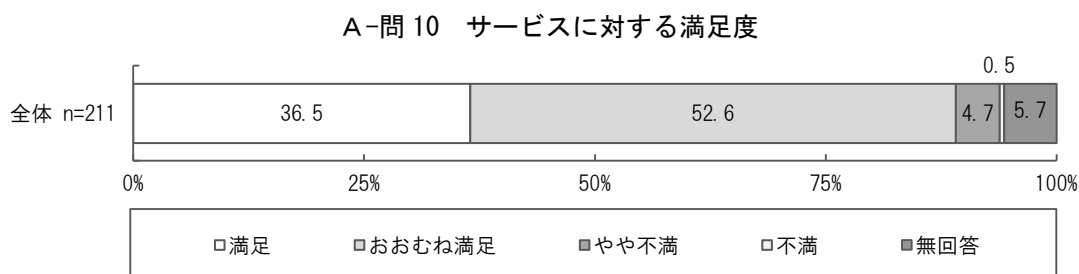
J. 看護小規模多機能型居宅介護



□利用していない □利用した ■無回答



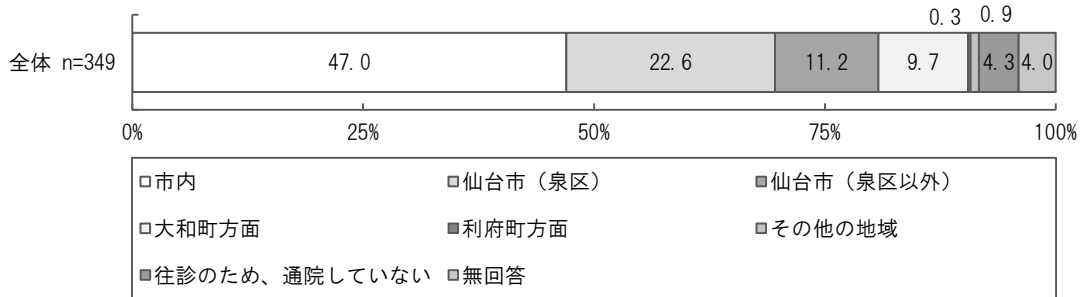
○利用しているサービスの満足度をみると、「満足」(36.5%)と「やや満足」(52.6%)を合わせた89.1%が満足と回答しています。



(4) 要介護者の通院状況

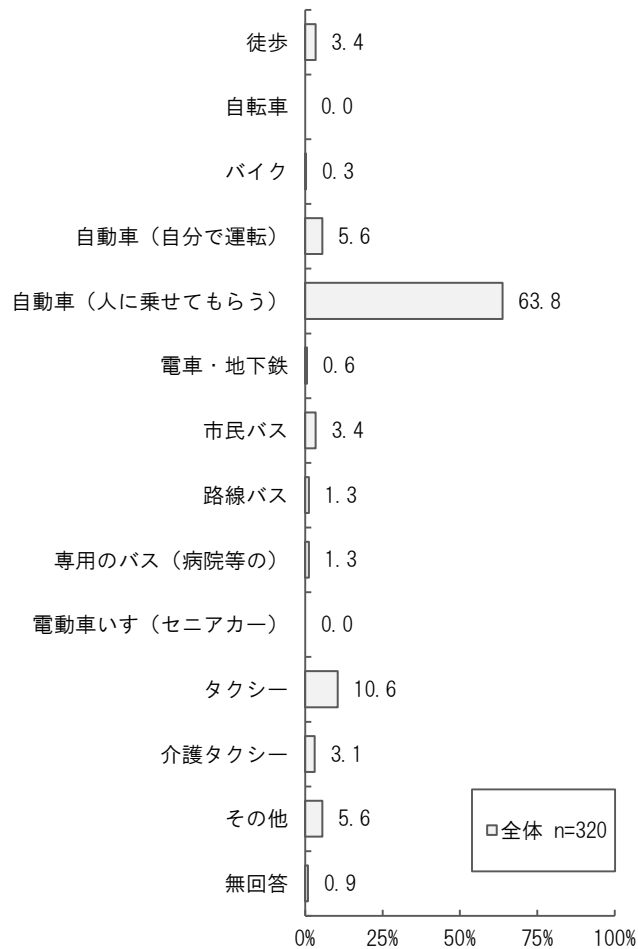
○主に通院している医療機関の地域は、「市内」(47.0%)が最も高く、次いで「仙台市(泉区)」(22.6%)、「仙台市(泉区以外)」(11.2%)となっています。

A-問 14 主に通院している医療機関の地域



○医療機関への移動手段をみると、「自動車(人に乗せてもらう)」(63.8%)が最も高く、次いで「タクシー」(10.6%)となっています。

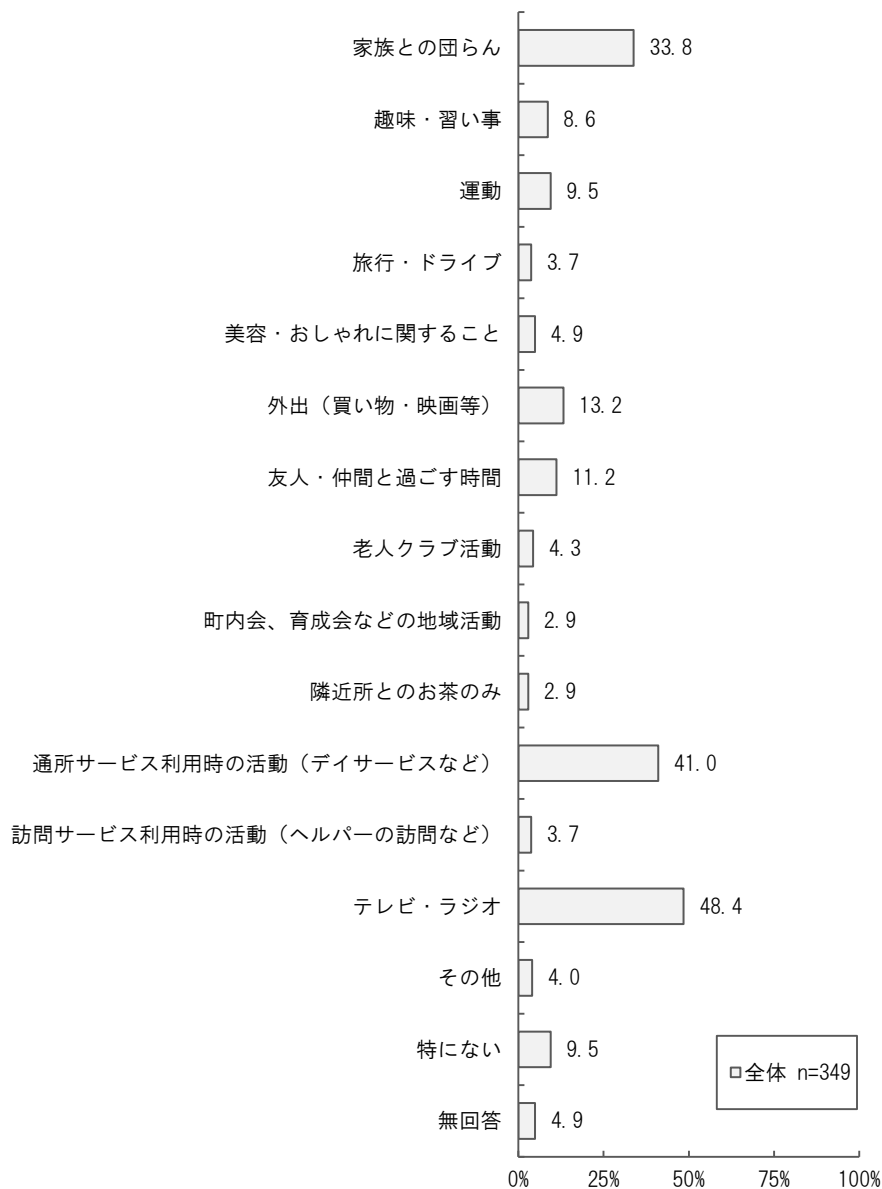
A-問 15 医療機関への移動手段



(5) 要介護者の生活状況

○生きがいや楽しみのある生活のためにしていることをみると、「テレビ・ラジオ」(48.4%)が最も高く、次いで「通所サービス利用時の活動(デイサービスなど)」(41.0%)、「家族との団らん」(33.8%)となっています。

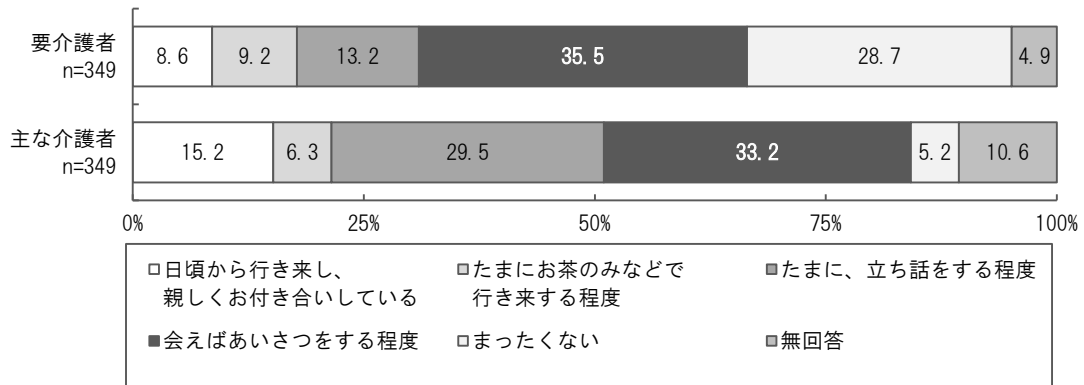
A-問 16 生きがいや楽しみのある生活のためにしていること



(6) 家族以外との付き合いと制度の周知状況

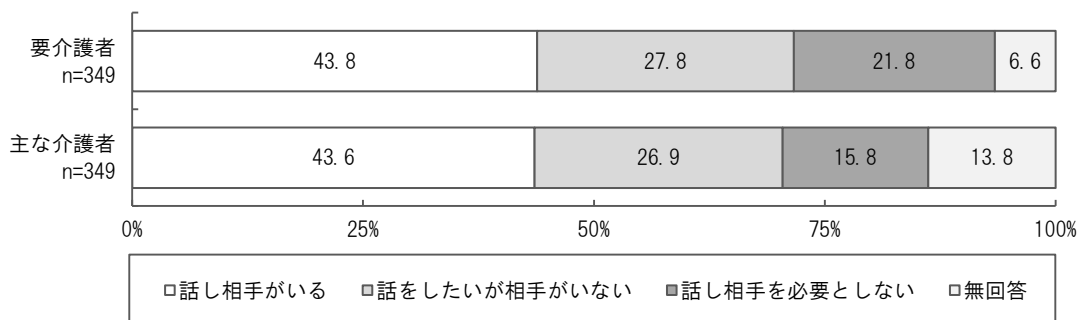
○隣近所との付き合い状況をみると、要介護者・主な介護者ともに「会えばあいさつをする程度」(35.5%・33.2%)が最も高く、次いで要介護者は「まったくない」(28.7%)、主な介護者は「たまに、立ち話をする程度」(29.5%)となっています。

A-問 17・B-問 14 隣近所との付き合い状況



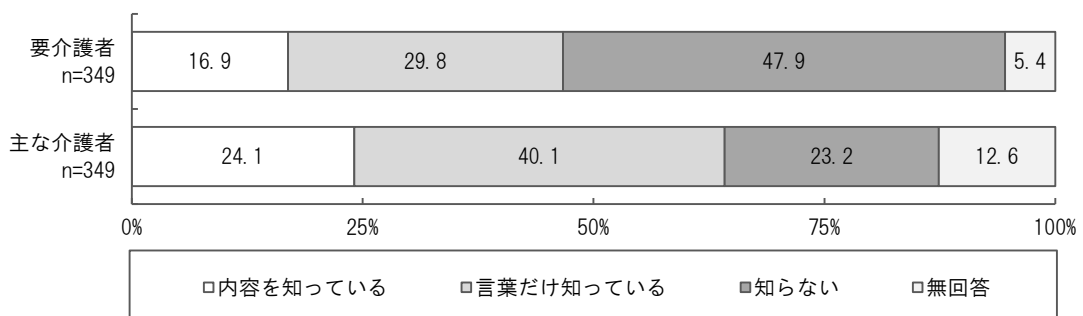
○家族以外に話をする相手の有無をみると、要介護者・主な介護者ともに「話し相手がいる」(43.8%・43.6%)が最も高く、次いで「話をしたいが相手がない」(27.8%・26.9%)となっています。

A-問 18・B-問 15 家族以外に話をする相手の有無



○成年後見制度の周知状況をみると、要介護者は「知らない」(47.9%)が最も高く、次いで「言葉だけ知っている」(29.8%)、「内容を知っている」(16.9%)となっています。主な介護者は「言葉だけ知っている」(40.1%)が最も高く、次いで「内容を知っている」(24.1%)、「知らない」(23.2%)となっています。

A-問 19・B-問 20 成年後見制度の周知状況



■課題分析（支援・サービス・訪問診療の利用状況やニーズについて）

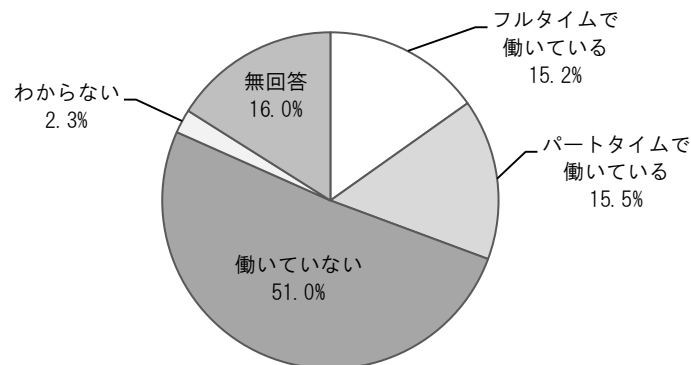
- ◆在宅生活を続けていくために必要な支援・サービスの問いでは、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」（57.3%）が最も高くなっており、介護離職者・継続就労者別にみてもその傾向に変化は見られませんでした。また、介護離職者では、「緊急時でも利用できるショートステイ」「災害など、緊急時の避難の手助け」が就労継続者より割合が大きくなっており、緊急時に対応可能な体制整備が求められます。
- ◆「介護度」と「施設等への入所・入居に関する検討状況」のクロス集計では、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居の申し込みをしている」を合わせた入所・入居予定または検討中の方は、要支援1では10.4%、要支援2では18.8%、要介護1では19.7%、要介護2では31.0%、要介護3では37.5%、要介護4では30.0%、要介護5では41.1%となっており、要介護3と要介護5でダブルピークを迎えている状況がみられます。一般的には在宅生活の限界（家族介護における負担のピーク）が要支援2、要介護3、要介護5の前後で訪れる傾向にあることから、おおむねこの傾向と合致した結果となっています。
- ◆医療機関への移動手段の問いでは、「自動車（人に乗せてもらう）」（63.8%）が最も高く、次いで「タクシー」（10.6%）となっている一方で、公共の交通機関の利用者も少数ながらいます。後述の「主な介護者が不安に感じる介護等」において「外出の付き添い、送迎等」の割合がすべての介護度で3割程度いることから、外出の際の負担軽減の在り方について検討が必要となります。
- ◆生きがいや楽しみのある生活のために行っていることの問いでは、「通所サービス利用時の活動（デイサービスなど）」（41.0%）は「テレビ・ラジオ」（48.4%）に次いで多くっており、要介護認定者となった場合、生きがいや楽しみの面において行動範囲が狭くなっている状況がみられます。
- ◆隣近所との付き合い状況の問いでは、「まったくない」は要介護者28.7%・主な介護者5.2%となっており、地域とのかかわりのない世帯がある状況がみられます。
- ◆家族以外に話をする相手の有無の問いにおいて、「話をしたいが相手がない」が、要介護者27.8%・主な介護者26.9%となっており、家族以外に話し相手がない世帯がみられます。気軽に話することができる相手の存在は重要であるため、そのような世帯に対しては地域コミュニティへ参加するように誘導していくことが必要です。
- ◆成年後見制度の周知状況の問いでは、要介護者では「内容を知っている」（16.9%）と「言葉だけ知っている」（29.8%）を合計した46.7%、主な介護者では「内容を知っている」（24.1%）と「言葉だけ知っている」（40.1%）を合計した64.2%が成年後見制度の言葉を知っている状況となっています。今後も引き続き周知を行い、「内容も知っている」割合を高めることが必要です。

4 主な介護者の就労状況について

(1) 主な介護者の勤務形態

○主な介護者の現在の勤務形態は「フルタイムで働いている」(15.2%)、「パートタイムで働いている」(15.5%)を合わせた30.7%が就労しています。

B-問7 主な介護者の現在の勤務形態

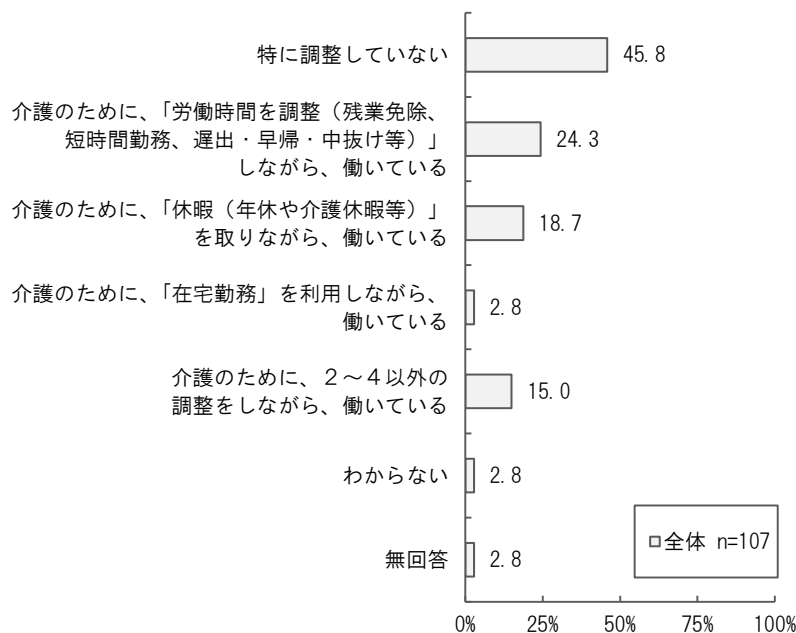


全体 n=349

(2) 継続就労者（フルタイム・パートタイム）の就労実態と意向

○介護による働き方の調整をみると、「特に調整していない」(45.8%)が最も高く、次いで「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」(24.3%)となっています。

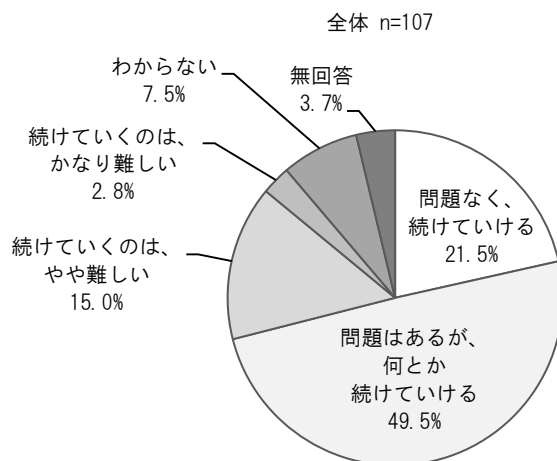
B-問8 働き方を調整しているか



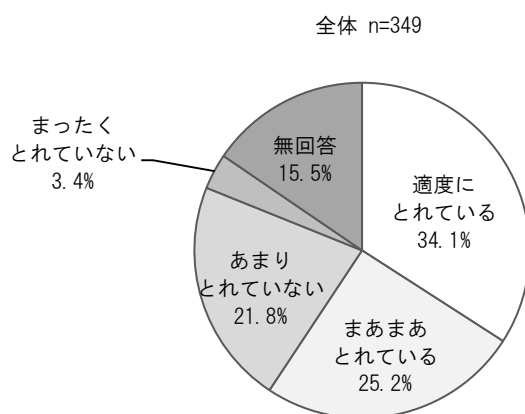
○今後の介護と仕事の両立について、「問題なく、続けていける」(21.5%)と「問題はあるが、何とか続けていける」(49.5%)を合わせた今後も継続できる方は71.0%、一方、「続けていくのは、やや難しい」(15.0%)と「続けていくのは、かなり難しい」(2.8%)を合わせた継続が困難な方は17.8%となっています。

○主な介護者が、ご自身の自由な時間がとれているかをみると、「適度にとれている」(34.1%)が最も高く、次いで「まあまあとれている」(25.2%)、「あまりとれていない」(21.8%)、「まったくとれていない」(3.4%)となっています。

B-問9 今後の介護と仕事の両立について

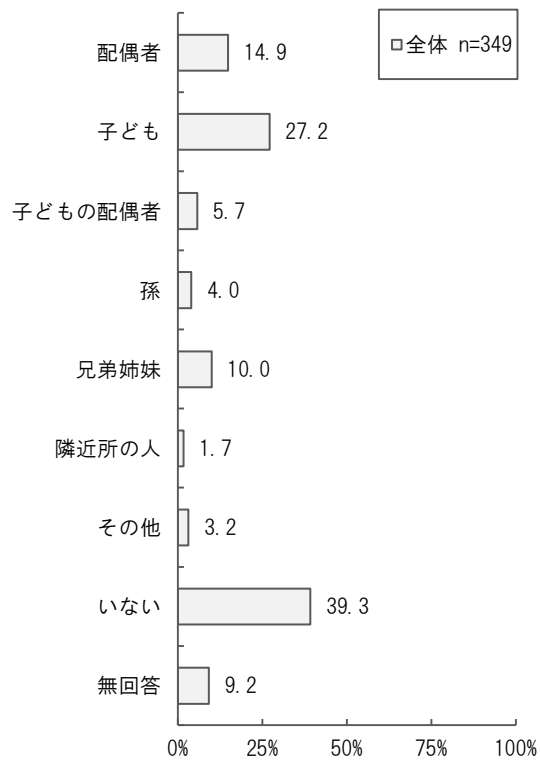


B-問10 自由な時間がとれているか



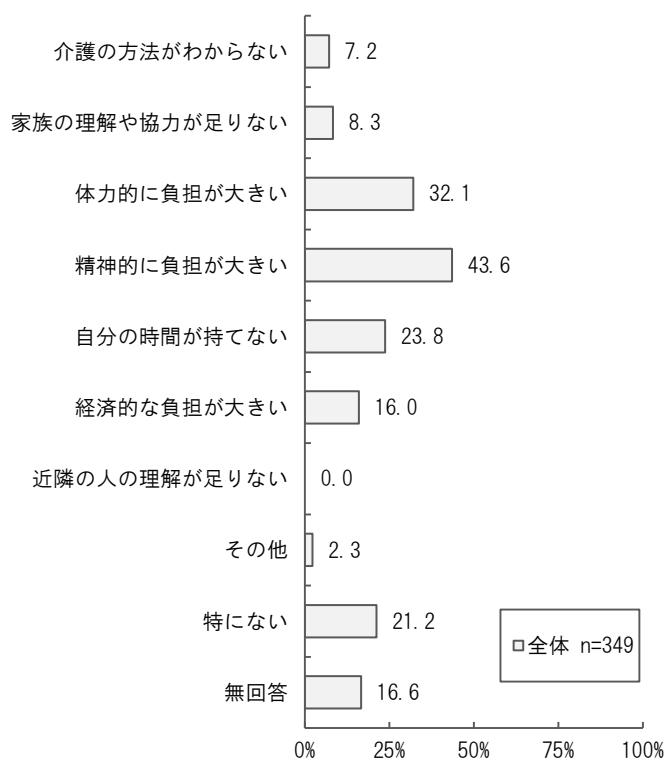
○主な介護者が介護をできない場合に代わってくれる方をみると、「いない」(39.3%)が最も高く、次いで「子ども」(27.2%)、「配偶者」(14.9%)となっています。

B-問 11 介護をできない場合に代わってくれる方



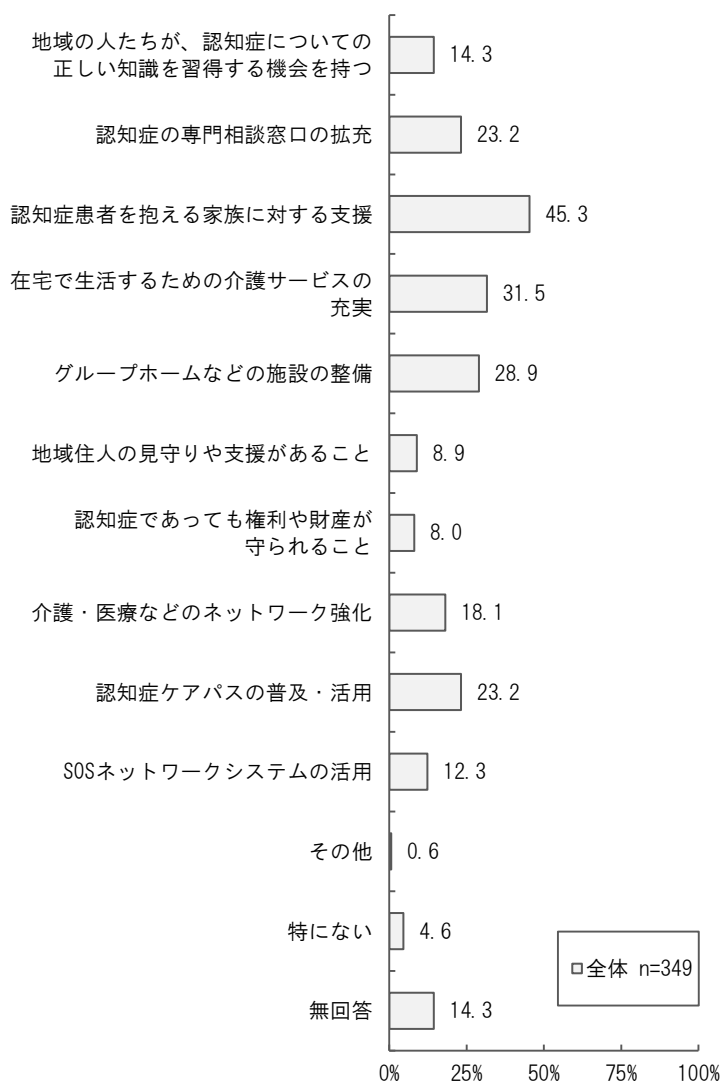
○主な介護者が特に負担に感じていることをみると、「精神的に負担が大きい」(43.6%)が最も高く、次いで「体力的に負担が大きい」(32.1%)、「自分の時間が持てない」(23.8%)となっています。

B-問 12 特に負担に感じていること



○今後、認知症になっても安心して生活するために必要なことをみると、「認知症患者を抱える家族に対する支援」(45.3%)が最も高く、次いで「在宅で生活するための介護サービスの充実」(31.5%)、「グループホームなどの施設の整備」(28.9%)、「認知症の専門相談窓口の拡充」「認知症ケアパスの普及・活用」(各23.2%)となっています。

B-問 13 今後、認知症になっても安心して生活するために必要なこと



■課題分析（主な介護者の就労状況について）

- ◆介護による働き方の調整の問いでは、「特に調整していない」（45.8%）が半数近くいる一方で、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」（24.3%）、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」（18.7%）、「介護のために『労働時間の調整』『休暇取得』『在宅勤務』以外の調整をしながら、働いている」（15.0%）となっており、通常勤務と介護の両立が困難である状況が伺えます。
- ◆今後の介護と仕事の両立についての問いでは、「続けていくのは、やや難しい」（15.0%）と「続けていくのは、かなり難しい」（2.8%）を合わせた17.8%が継続が困難となっています。主な介護者の方がご自身の自由な時間がとれているかの問いでは、「あまりとれていない」（21.8%）と「まったくとれていない」（3.4%）を合わせた25.2%がとれていないと回答しています。在宅介護にあっても自由な時間がとれたり、働きながらも継続的な介護が可能となるような環境づくりが必要です。
- ◆主な介護者が介護をできない場合に代わってくれる方の問いでは、「いない」（39.3%）が最も高くなっており、在宅における介護が「主たる介護者」に重くのしかかっている状況が伺えます。また、主な介護者が特に負担に感じていることの問いでは、「精神的に負担が大きい」（43.6%）が最も高く、次いで「体力的に負担が大きい」（32.1%）となっており、精神・身体の両面で負担になっている状況もみられるため、介護サービスの利用を促し介護者の負担を軽減することが必要です。
- ◆今後、認知症になっても安心して生活するために必要なことの問いでは、「認知症患者を抱える家族に対する支援」（45.3%）が最も高く、次いで「在宅で生活するための介護サービスの充実」（31.5%）、「グループホームなどの施設の整備」（28.9%）、「認知症の専門相談窓口の拡充」「認知症ケアパスの普及・活用」（各23.2%）となっており、回答結果からは家族への支援、在宅サービス・施設サービス両面の充実、相談体制の強化等、認知症施策を全般的に推進していくことが望まれています。

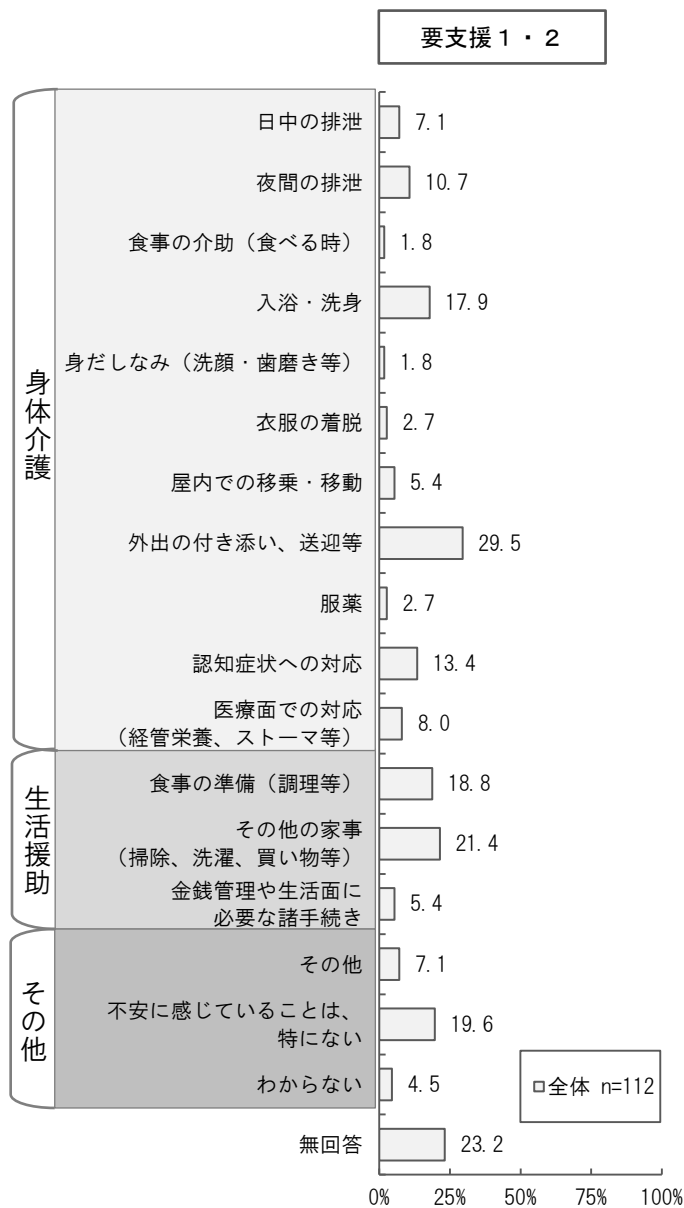
5 介護生活を続ける際の不安や困りごと

(1) 主な介護者が不安に感じる介護等の内容

○主な介護者が不安に感じる介護内容をみると、要支援1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(29.5%)、「入浴・洗身」(17.9%)、「認知症状への対応」(13.4%)、「夜間の排泄」(10.7%)で割合が高くなっています。

○生活援助では、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(21.4%)、「食事の準備(調理等)」(18.8%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(5.4%)となっています。

B-問6 主な介護者が不安に感じる介護等

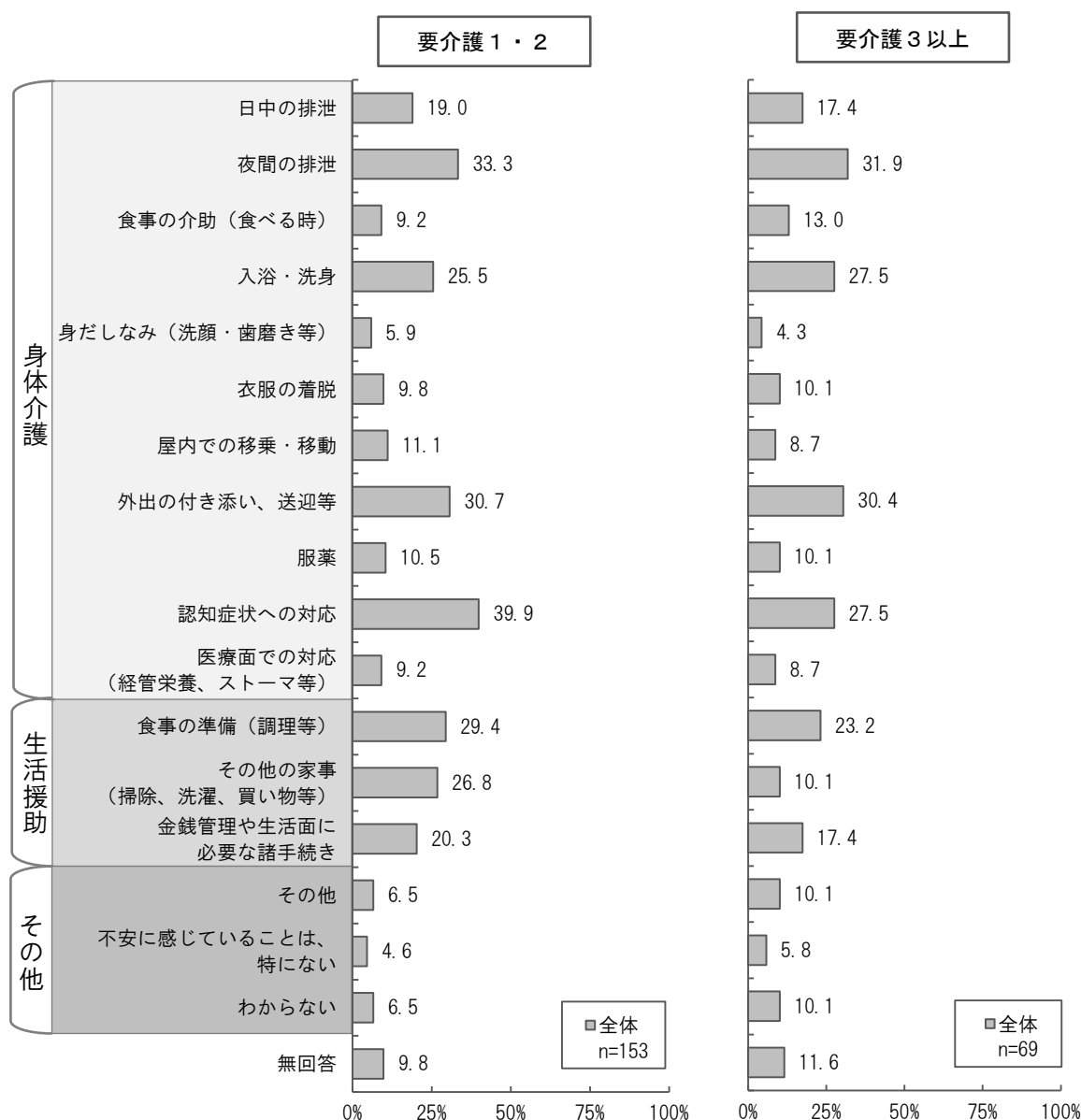


○要介護1・2の方の身体介護では、「認知症状への対応」(39.9%)、「夜間の排泄」(33.3%)、「外出の付き添い、送迎等」(30.7%)で割合が高くなっています。

○生活援助では、「食事の準備(調理等)」が29.4%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が26.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が20.3%となっています。

○要介護3以上の方の身体介護をみると、「夜間の排泄」(31.9%)、「外出の付き添い、送迎等」(30.4%)、「入浴・洗身」「認知症状への対応」(各27.5%)で割合が高くなっています。

○生活援助では、「食事の準備(調理等)」が23.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が17.4%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が10.1%となっています。



■課題分析（介護生活が続ける際の不安や困りごと）

◆主な介護者が不安に感じる介護内容の問いでは、要支援1・2の方では「外出の付き添い、送迎等」（29.5%）が最も高くなっています。要介護1・2の方では身体介護・生活援助のすべての項目で要支援1・2の方よりも不安に感じる割合が高くなっており、特に「認知症状への対応」（39.9%）は要支援1・2の方の13.4%から26.5ポイントも上昇しています。要介護3以上の方では「認知症への対応」（27.5%）は要介護1・2の方の割合よりも12.4ポイント減少するとともに、生活援助（10.1～23.2%）は全面的に低くなり、その他の身体介護についてはおおむね横ばいの割合となっています。在宅生活を維持するためには、要介護1・2で不安のピークとなる「認知症状への対応」を軽減することが必要です。

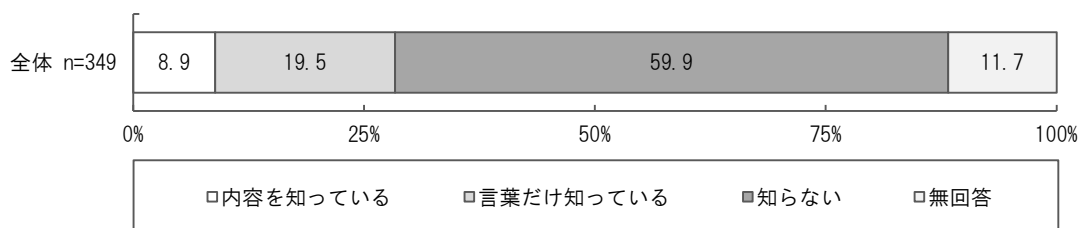
6 主な介護者の生活状況

(1) 災害時の対応について

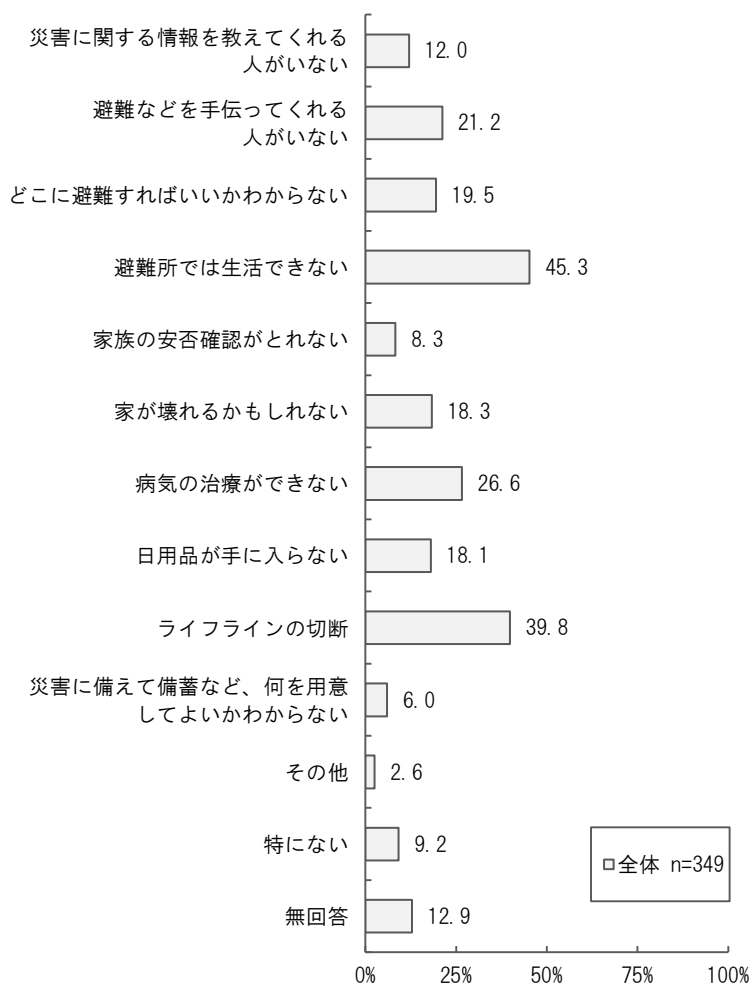
○福祉避難所の周知状況をみると、「知らない」(59.9%)が最も高く、次いで「言葉だけ知っている」(19.5%)となっており、「内容を知っている」は8.9%となっています。

○災害時に不安に感じることは、「避難所では生活できない」(45.3%)が最も高く、次いで「ライフラインの切断」(39.8%)、「病気の治療ができない」(26.6%)、「避難などを手伝ってくれる人がいない」(21.2%)となっています。

B-問 16 福祉避難所の周知状況



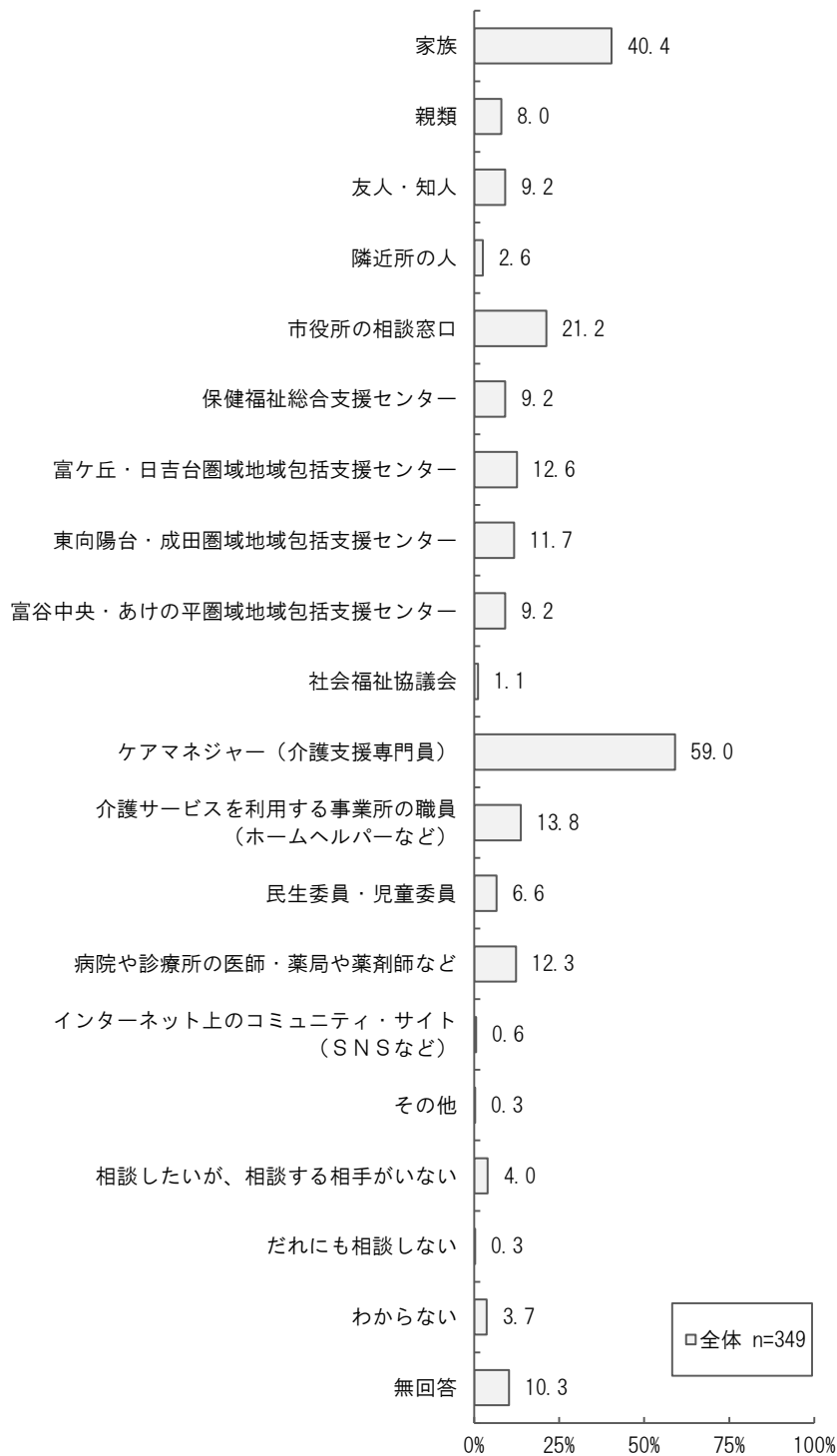
B-問 17 災害時に不安に感じること



(2) 相談窓口などについて

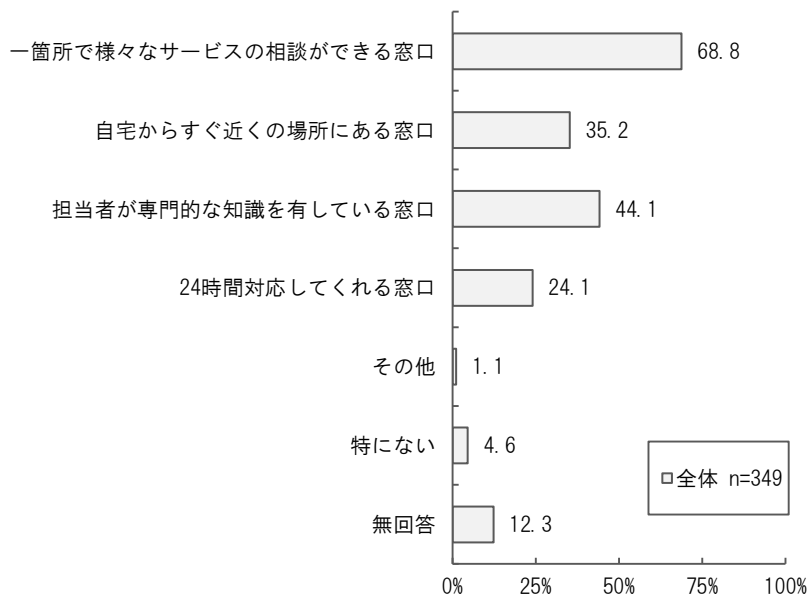
○介護について相談したい相手を見ると、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（59.0%）が最も高く、次いで「家族」（40.4%）、「市役所の相談窓口」（21.2%）となっています。

B-問 18 介護について相談したい相手



○介護に関する相談窓口に求めるものをみると、「一箇所で様々なサービスの相談ができる窓口」(68.8%)が最も高く、次いで「担当者が専門的な知識を有している窓口」(44.1%)、「自宅からすぐ近くの場所にある窓口」(35.2%)、「24時間対応してくれる窓口」(24.1%)となっています。

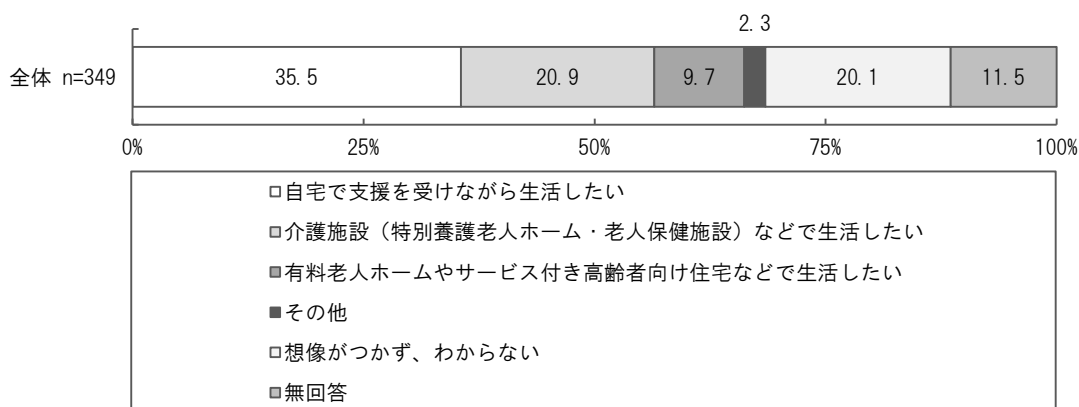
B-問 19 介護に関する相談窓口を求めるもの



(3) どのような介護を受けながら生活したいか

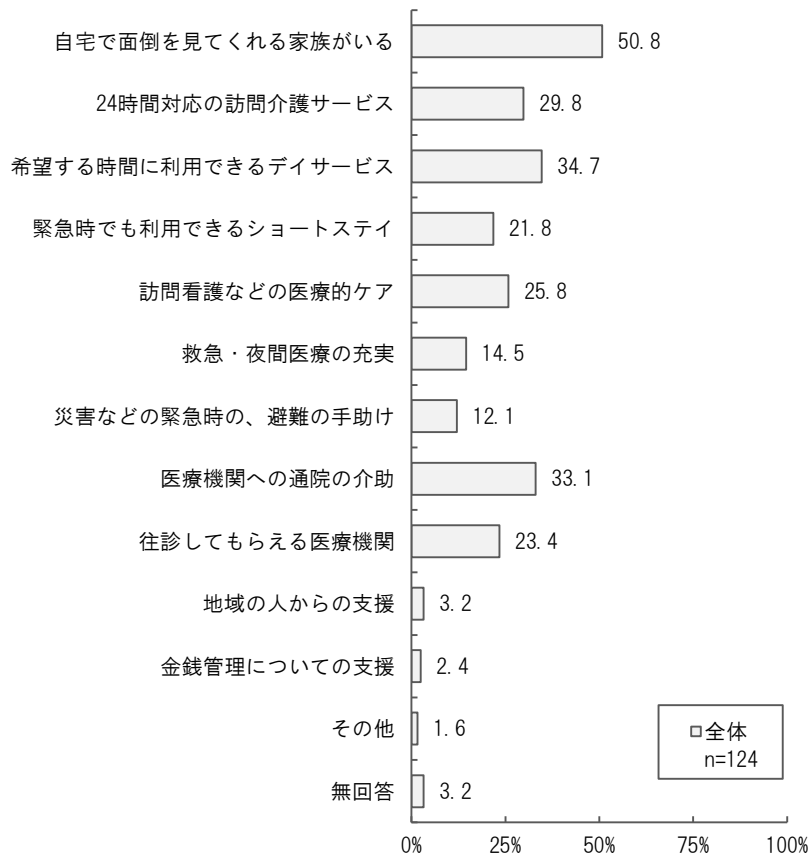
○どのような介護を受けながら生活したいかをみると、「自宅で支援を受けながら」(35.5%)が最も高く、次いで「介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設）などで生活したい」(20.9%)、「想像がつかず、わからない」(20.1%)となっています。

B-問 21 どのような介護を受けながら生活したいか



○自宅で生活をするために必要と思うことをみると、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」(50.8%)が最も高く、次いで「希望する時間に利用できるデイサービス」(34.7%)、「医療機関への通院の介助」(33.1%)、「24時間対応の訪問介護サービス」(29.8%)「訪問看護などの医療的ケア」(25.8%)となっています。

B-問 21-1 自宅で生活をするために必要と思う支援やサービス



■課題分析（主な介護者の生活状況）

- ◆福祉避難所の周知状況の問いでは、「知らない」（59.9%）が最も高くなっており、特に要配慮者に対して認知度を高めるための周知が引き続き必要です。また、災害時に不安に感じることの問いでは、「災害に関する情報を教えてくれる人がいない」（12.0%）、「避難などを手伝ってくれる人がいない」（21.2%）、「どこに避難すればいいかわからない」（19.5%）となっており、災害時に備えた体制の整備が必要となります。
- ◆介護について相談したい相手の問いでは、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（59.0%）が最も高くなっており、要介護者やその家族の相談先として重要な役割を担っていることが伺える一方で、「相談したいが、相談する相手がない」が4.0%となっています。ケアマネジャーを中心とした相談体制の推進が必要です。
- ◆介護に関する相談窓口を求めるものの問いでは、「一箇所で様々なサービスの相談ができる窓口」（68.8%）が最も高いことから、相談体制については一本化を図り、支援機関等の情報連携の強化に努めながら、要介護者やその家族の相談における負担の軽減に努めることが必要です。
- ◆どのような介護を受けながら生活したいかの問いでは、「自宅で支援を受けながら」（35.5%）が最も高くなっており、住み慣れた自宅で生活を送ることができるよう地域包括ケアシステムを推進していく必要があります。また、「想像がつかず、わからない」（20.1%）と回答した約2割の介護者に対して家族等で話し合いの機会を持つよう発信していくことが必要です。
- ◆自宅で生活続けるために必要と思うことの問いでは、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」（50.8%）が最も高く、次いで「希望する時間に利用できるデイサービス」（34.7%）、「医療機関への通院の介助」（33.1%）、「24時間対応の訪問介護サービス」（29.8%）、「訪問看護などの医療的ケア」（25.8%）となっており、住み慣れた場所に住み続けながら在宅介護が可能となるよう支援体制の整備をすることが必要です。

7 介護離職の要因について

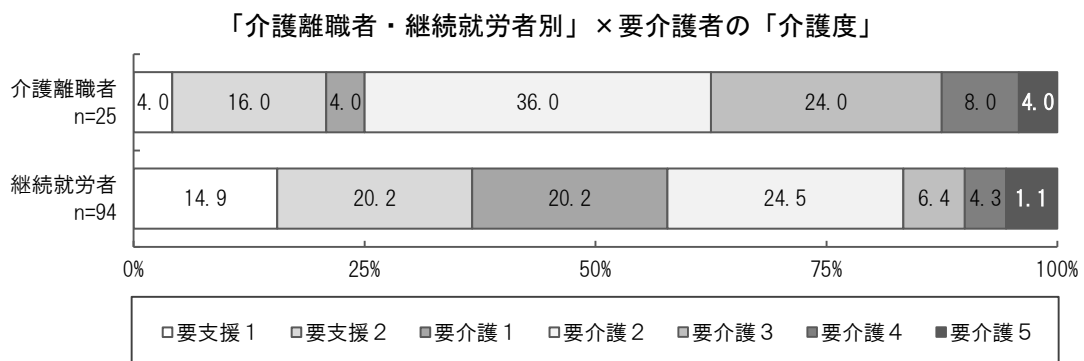
主な介護者の介護離職に関する要因を調べるために、(1) 主な介護者の介護環境、(2) 主な介護者の就労環境、(3) 要介護者の様態と介護実態について介護離職者と継続就労者との差を比較しました。

(1) 主な介護者を取り巻く介護環境等

① 要介護者の様態

○要介護者の介護度をみると、介護離職者は、「要介護2」(36.0%) が最も高く、次いで「要介護3」(24.0%)、「要支援2」(16.0%) となっています。

○一方、継続就労者では、「要介護2」(24.5%) が最も高く、次いで「要支援2」「要介護1」(各20.2%)、「要支援1」(14.9%) となっています。



※介護離職者：B-問1で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。

※継続就労者：①B-問1で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、B-問1で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、B-問7で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

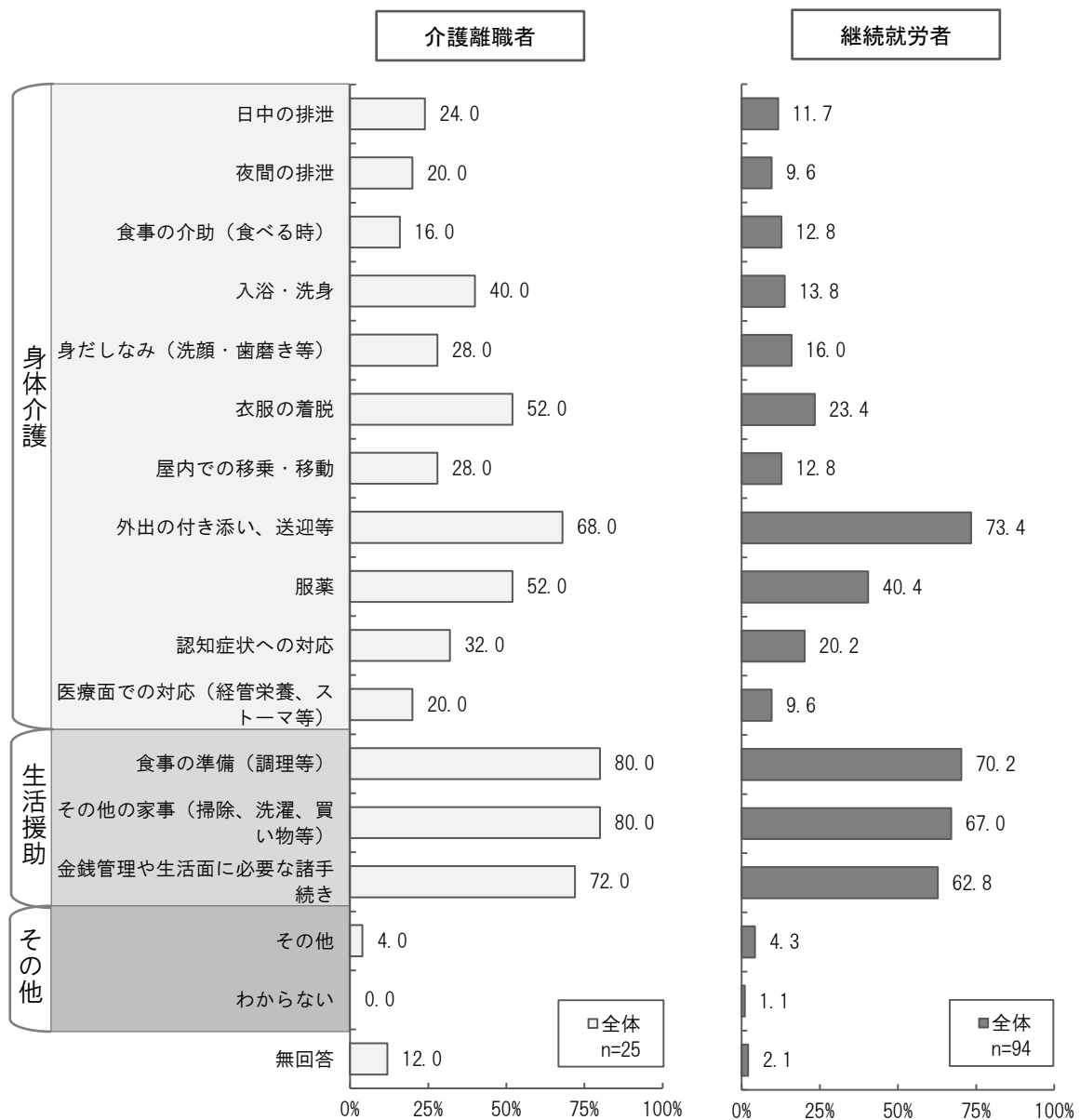
② 介護者が行っている介護内容

○介護離職者が行っている身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(68.0%)が最も高く、次いで「衣服の着脱」「服薬」(各52.0%)となっています。また、生活援助では「食事の準備(調理等)」「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(各80.0%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(72.0%)となっています。

○一方、継続就労者では「外出の付き添い、送迎等」(73.4%)が最も高く、次いで「服薬」(40.4%)、「衣服の着脱」(23.4%)となっています。また、生活援助では「食事の準備(調理等)」(70.2%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(67.0%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(62.8%)となっています。

○介護離職者では継続就労者に比べて、「外出の付き添い、送迎等」を除く全ての介護内容で割合が高くなっています。

「介護離職者・継続就労者別」×「B-問5 主な介護者が行っている介護等」



※介護離職者：B-問1で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。

※継続就労者：①B-問1で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、B-問1で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、B-問7で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

(2) 就業中の主な介護者に関する就労環境

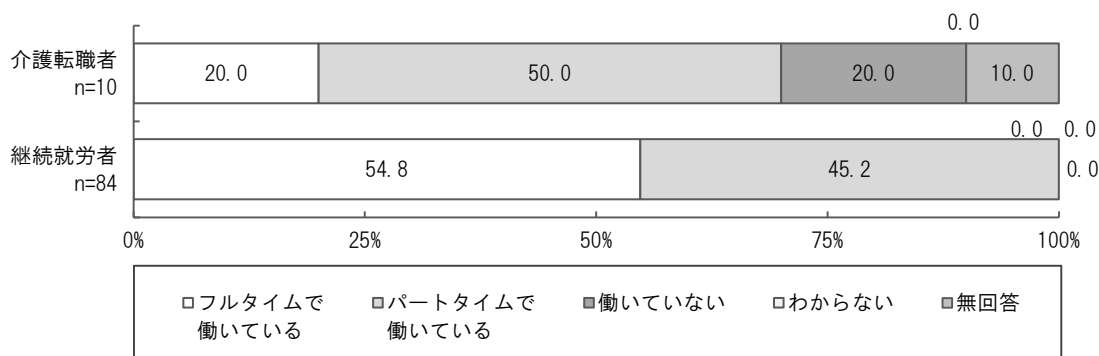
ここでは、就労している主な介護者を介護のために転職をした介護転職者と継続就労者に分け、比較しています。

① 現在の勤務形態

○介護転職者の現在の勤務形態は、「パートタイムで働いている」(50.0%)が最も高く、次いで「フルタイムで働いている」(20.0%)となっています。

○一方、継続就労者では、「パートタイムで働いている」が45.2%、「フルタイムで働いている」が54.8%となっています。

「介護転職者・継続就労者別」×「B-問7 主な介護者の現在の勤務形態」



※介護離職者：B-問1で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方です。

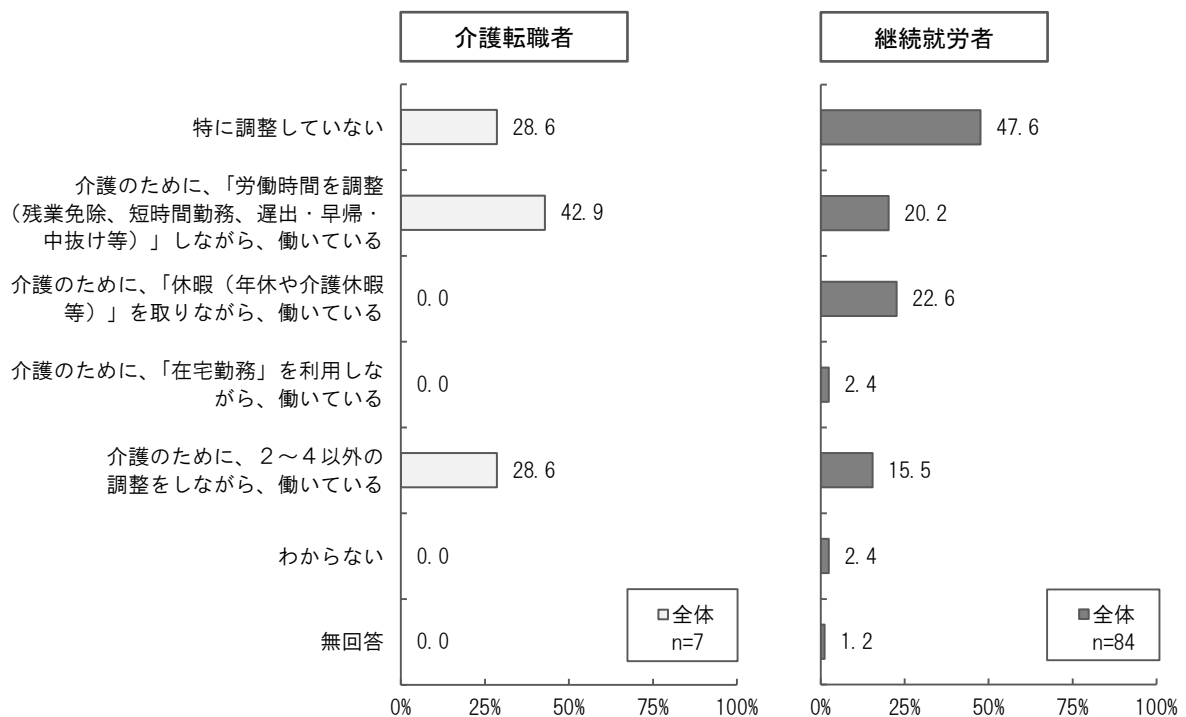
※継続就労者：①B-問1で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、B-問1で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、B-問7で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

② 介護のために働き方の調整等

○働き方の調整状況をみると、介護転職者は対象者が少数ですが「介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」(42.9%)が最も高く、次いで、「特に調整していない」「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」(各28.6%)となっています。

○継続就労者は、「特に調整していない」(47.6%)が最も高く、次いで「介護のために、『休暇』を取りながら、働いている」(22.6%)、「介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」(20.2%)となっています。

「介護転職者・継続就労者別」×「B-問8 働き方を調整しているか」



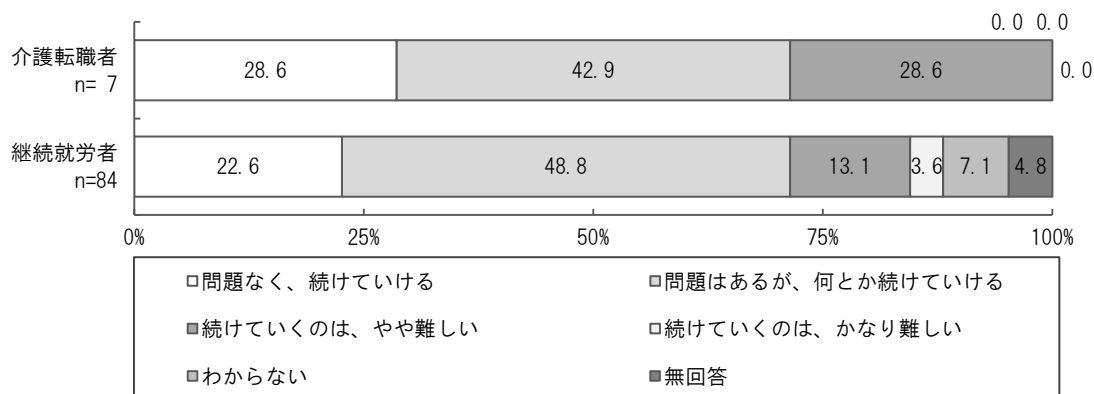
※介護転職者：B-問1で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方です。

※継続就労者：①B-問1で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、B-問1で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、B-問7で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

③ 仕事と介護の両立に関して継続する意向

○継続就労者における今後の就労継続に関する意向をみると、「問題なく、続けていける」(22.6%)と「問題はあるが、何とか続けている」(48.8%)を合わせた今後も継続できる方は71.4%、「続けていくのは、やや難しい」(13.1%)と「続けていくのは、かなり難しい」(3.6%)を合わせた継続が困難な方は16.7%となっています。
(介護転職者は対象者が少数のためコメントを省略します。)

「介護転職者・継続就労者別」×「B-問9 今後も働きながら介護を続けていけそうか」



※介護転職者：B-問1で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方です。

※継続就労者：①B-問1で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、B-問1で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、B-問7で「働いている」と回答（「1」「2」を選択）した方の計です。

■課題分析（介護離職の要因について）

- ◆要介護者の介護度の問いでは、介護離職者は、「要介護2」（36.0%）が最も高く、次いで「要介護3」（24.0%）、「要支援2」（16.0%）となっており、継続就労者では、「要介護2」（24.5%）が最も高く、次いで「要支援2」「要介護1」（各20.2%）、「要支援1」（14.9%）となっています。介護離職者では、就労継続が困難となる壁が「要介護2」や「要介護3」で発生しており、継続就労者においては、「要介護3以上」で就労を継続することが困難である傾向が伺えます。要介護2～3の介護者世帯に対して働きながらも継続的な介護が可能となるような環境づくりが必要です。
- ◆介護者が行っている介護内容の問いでは、介護離職者・継続就労者でおおむね同傾向であるものの、「入浴・洗身」「衣服の着脱」については介護離職者が就労継続者を大きく上回っています。また、「外出の付き添い、送迎等」を除き、全体的に介護離職者の方が就労継続者よりも割合が高くなっており、就労継続者よりも介護離職者が行っている介護の項目が多くなっています。
- ◆働き方の調整状況の問いでは、介護転職者と継続就労者で比較した場合、継続就労者では「介護のために『休暇』（年休や介護休暇等）を取りながら、働いている」割合が高く、継続就労するためには「休暇」の取得の有無に左右される結果となっています。
- ◆仕事と介護の両立に関して継続する意向の問いでは、回答人数が少ないものの、介護転職者では「続けていくのは、かなり難しい」という回答はなく、介護転職により在宅介護を継続できる状況が伺えます。一方で、継続就労者は「問題なく続けていける」（22.6%）割合は介護転職者と比較した場合、割合が低くなっており、継続就労者の中でも在宅で仕事と両立しながら介護を継続することが容易ではない状況がみられます。

第4章

若年者調査結果

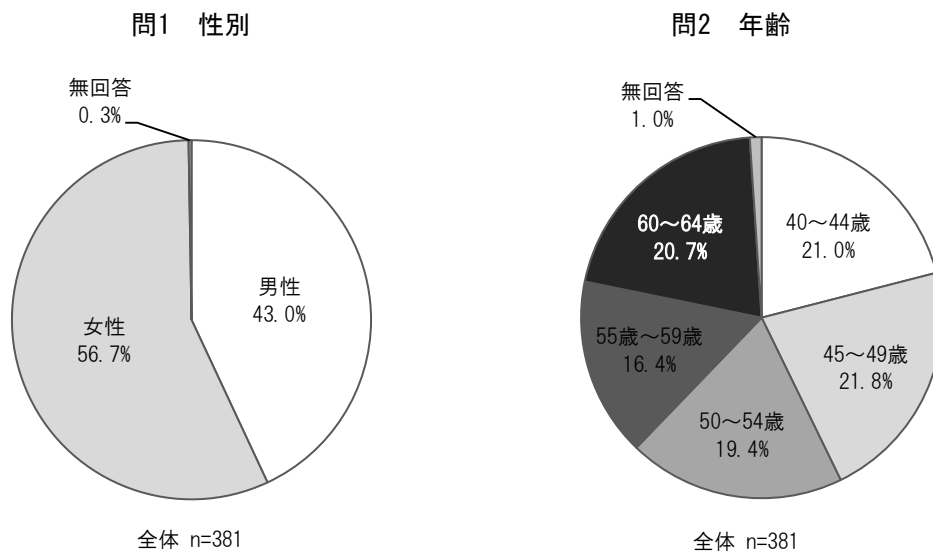
第4章 若年者調査結果

1 あなたご自身のことについて

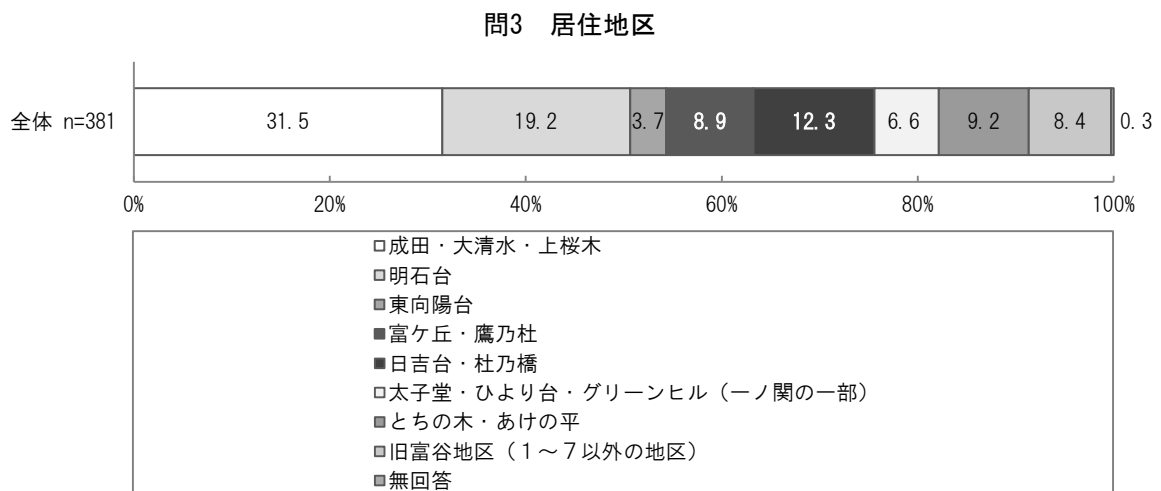
(1) 調査回答者の属性

○調査回答者の性別をみると「男性」(43.0%)、「女性」(56.7%)となっています。

○年齢をみると、「45～49歳」(21.8%)が最も高く、次いで「60～64歳」(20.7%)、「40～44歳」(21.0%)、「50～54歳」(19.4%)、「55歳～59歳」(16.4%)となっています。



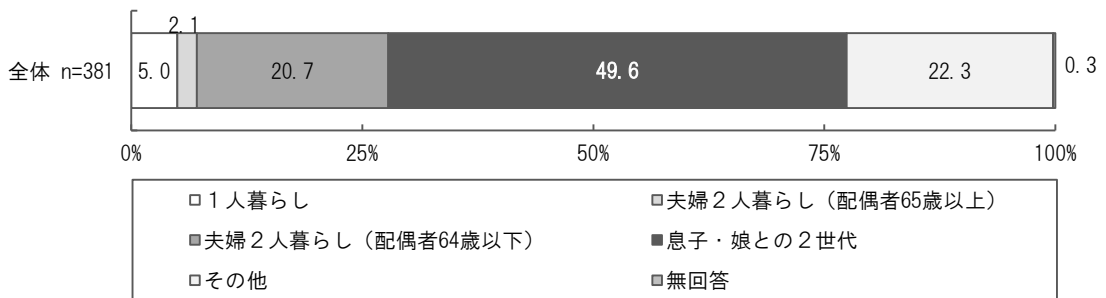
○居住地区は、「成田・大清水・上桜木」(31.5%)が最も高く、次いで「明石台」(19.2%)、「日吉台・杜乃橋」(12.3%)、「とちの木・あけの平」(9.2%)、「富ヶ丘・鷹乃杜」(8.9%)となっています。



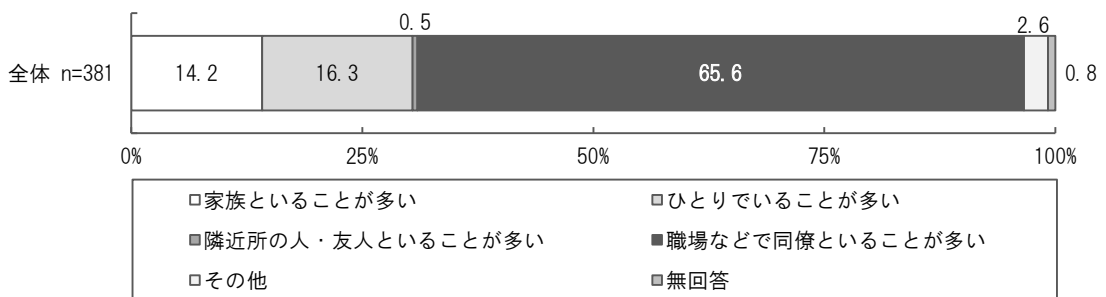
○家族構成は、「息子・娘との2世代」(49.6%)が最も高く、次いで「その他」(22.3%)、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」(20.7%)となっています。

○日中、主に過ごす相手は、「職場などで同僚といることが多い」(65.6%)が最も高く、次いで「ひとりであることが多い」(16.3%)、「家族といることが多い」(14.2%)となっています。

問4 家族構成



問5 日中、主に過ごす相手

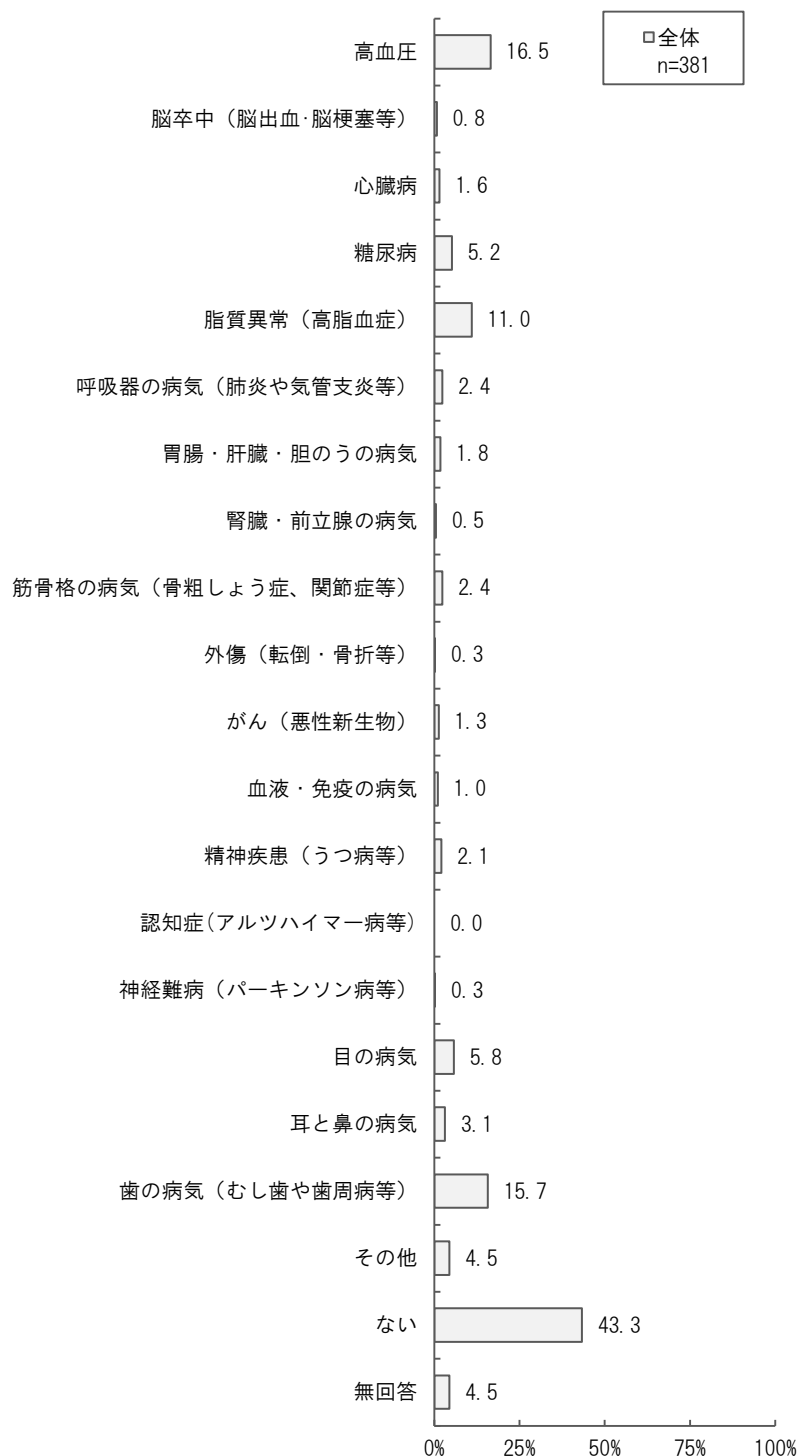


2 あなた自身の健康状況について

(1) 治療中、または後遺症のある病気

○現在治療中、または後遺症のある病気をみると、「高血圧」(16.5%)が最も高く、次いで「歯の病気(むし歯や歯周病等)」(15.7%)、「脂質異常(高脂血症)」(11.0%)、「目の病気」(5.8%)、「糖尿病」(5.2%)となっています。

問6 現在治療中、または後遺症のある病気

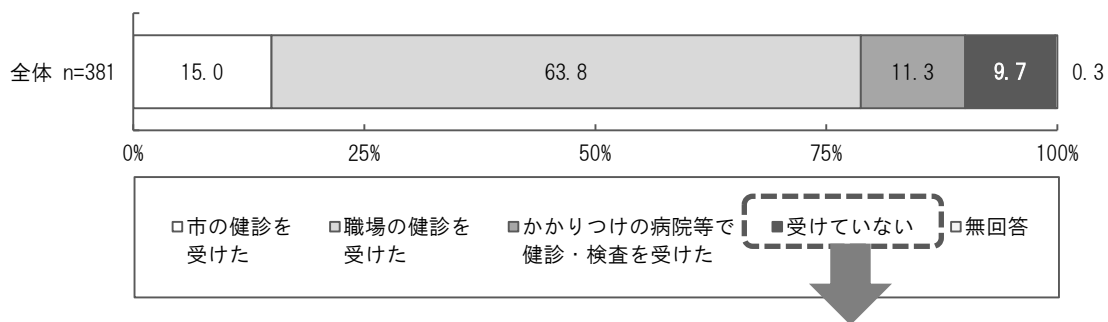


(2) 健診や人間ドックについて

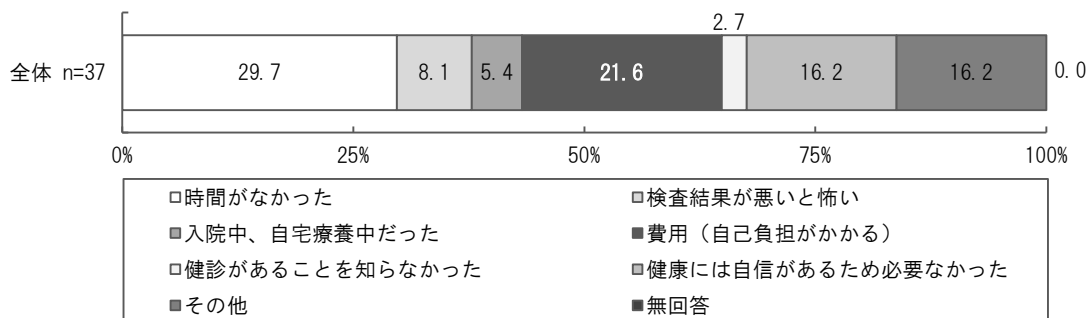
○過去1年以内の健診や人間ドックの受診状況をみると、「職場の健診を受けた」(63.8%)が最も高く、次いで「市の健診を受けた」(15.0%)となっています。

○健診や人間ドックを受診しない理由をみると、「時間がなかった」(29.7%)が最も高く、次いで「費用(自己負担がかかる)」(21.6%)となっています。

問7 健診や人間ドックの受診状況

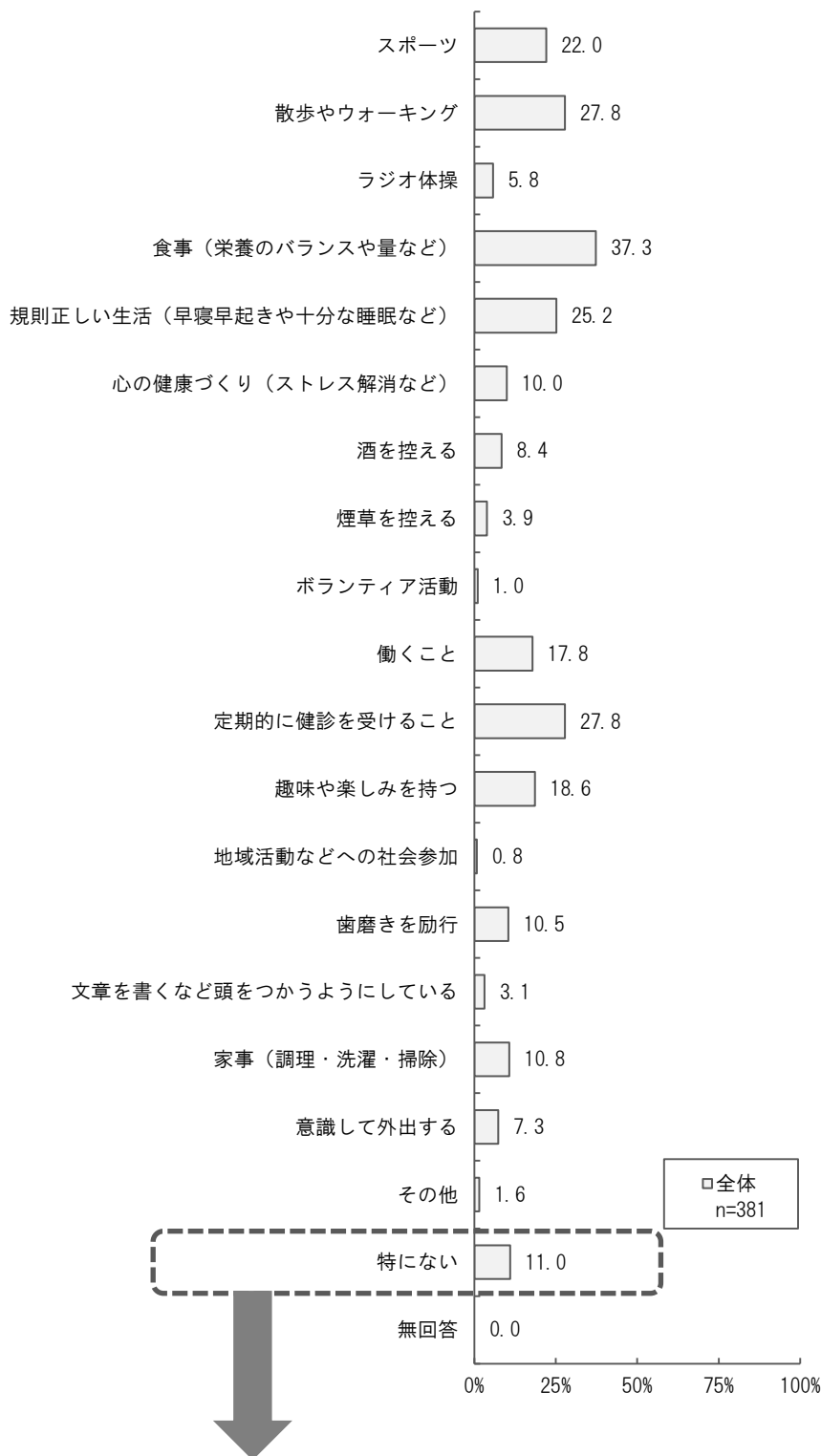


問7-① 受診しない理由



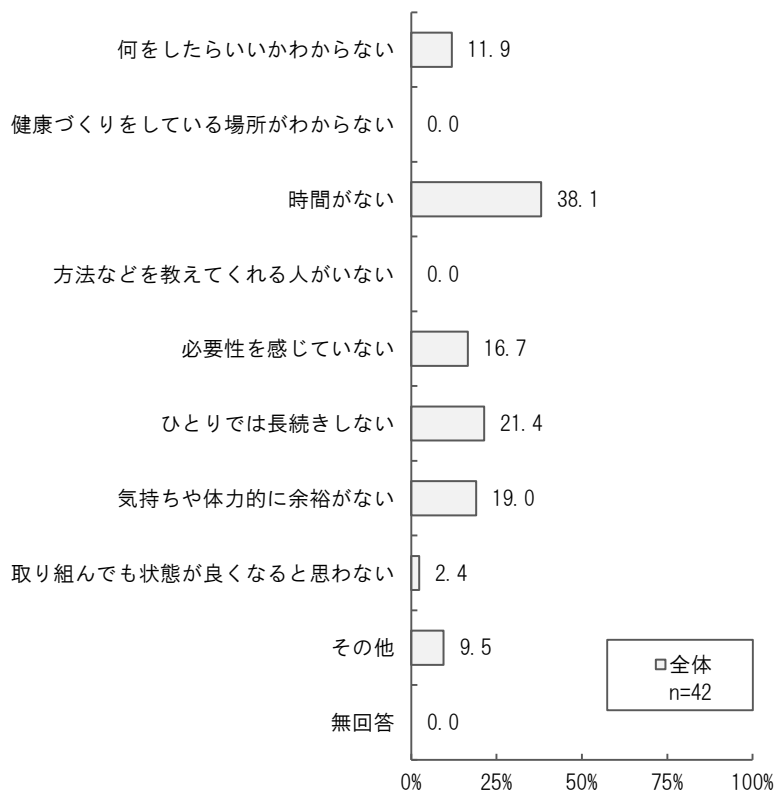
○健康のために意識していることや取り組んでいることをみると、「食事（栄養のバランスや量など）」（37.3%）が最も高く、次いで「散歩やウォーキング」「定期的に健診を受けること」（各27.8%）、「規則正しい生活（早寝早起きや十分な睡眠など）」（25.2%）、「スポーツ」（22.0%）となっています。

問8 健康のために意識していることや取り組んでいること



○特にないと回答した人の取組を行っていない理由をみると、「時間がない」(38.1%)が最も高く、次いで「ひとりでは長続きしない」(21.4%)、「気持ちや体力的に余裕がない」(19.0%)、「必要性を感じていない」(16.7%)となっています。

問8-① 取り組めない理由



■課題分析（自身の健康状況について）

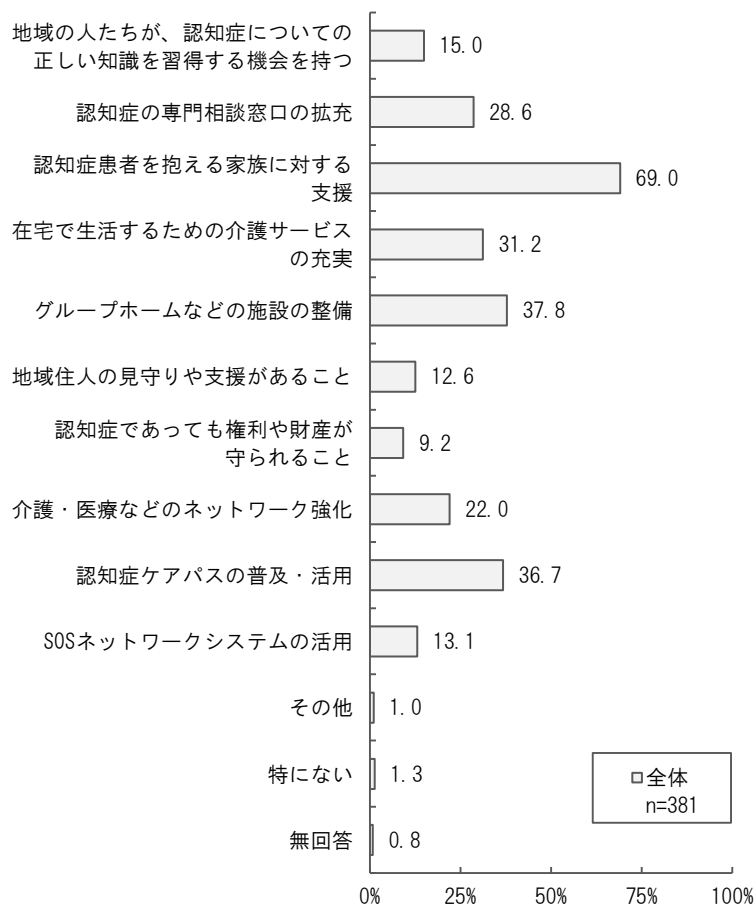
- ◆現在治療中、または後遺症のある病気の問いでは、ニーズ調査と同様に「高血圧」(16.5%)、「脂質異常（高脂血症）」(11.0%)、「目の病気」(5.8%)、「糖尿病」(5.2%)等が上位に位置しています。また、過去1年以内の健診や人間ドックの受診状況の問いでは、「受けていない」が9.7%おり、受診しない理由は「時間がなかった」が29.7%となっています。将来要介護状態とならないために、若いうちから、食生活や運動、定期的な健診や人間ドックの受診による生活習慣病等の疾病予防について周知啓蒙することが必要です。
- ◆健康のために意識していることや取り組んでいることの問いでは、「特にない」が11.0%となっており、取り組めない理由では、「時間がない」が38.1%となっています。民間企業等に就業している方については民間企業や健保組合と、また自営業等の国保に加入している方については健康増進課等と連携を取りながら、健康づくりへの取組やワークライフバランスの実現を周知啓蒙することが必要です。

3 認知症について

(1) 安心して生活するために必要なこと

○認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「認知症患者を抱える家族に対する支援」(69.0%)が最も高く、次いで「グループホームなどの施設の整備」(37.8%)、「認知症ケアパスの普及・活用」(36.7%)、「在宅で生活するための介護サービスの充実」(31.2%)となっています。

問9 認知症になっても安心して生活するために必要なこと



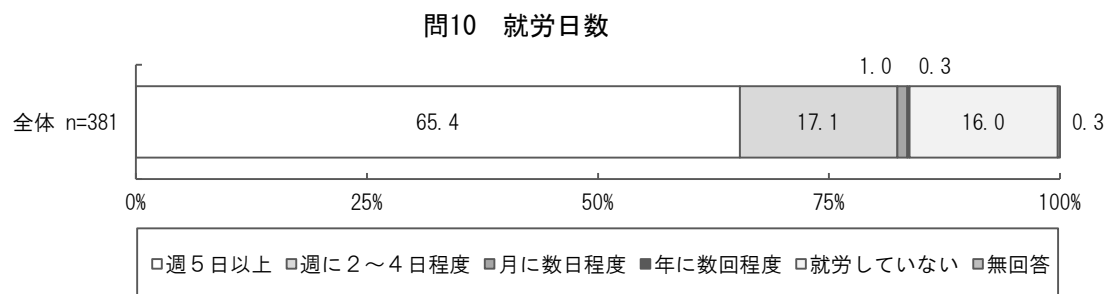
■課題分析（認知症について）

◆認知症になっても安心して生活するために必要なことの問いでは、家族への支援・施設整備・認知症ケアパスの普及・介護サービスの充実・相談窓口の拡充等の回答が上位を占めており、認知症施策の全般に及んでいます。認知症になっても安心して暮らせるよう、引き続き認知症施策全般を推進していくことが必要です。

4 生活状況について

(1) 就労状況

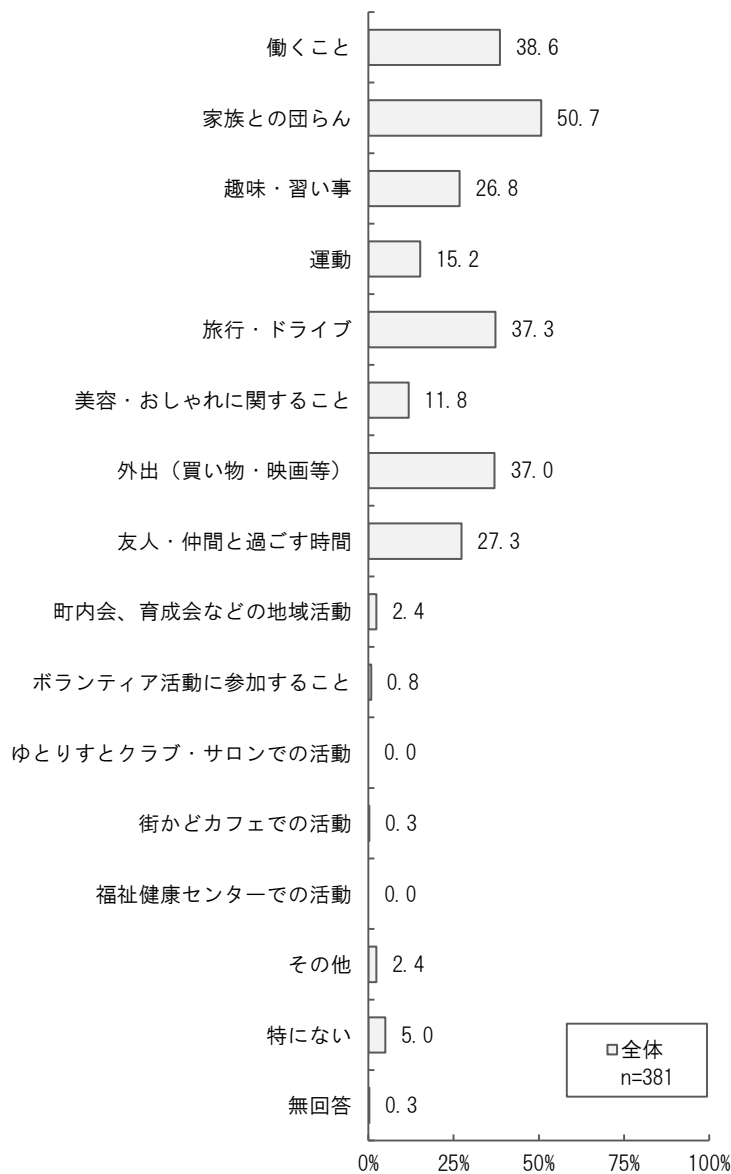
○就労日数をみると「週5日以上」(65.4%)が最も高く、次いで「週に2～4日程度」(17.1%)、「就労していない」(16.0%)となっています。



(2) 生きがいや余暇の過ごし方

○生きがいや楽しみのある生活のために行っていることをみると、「家族との団らん」(50.7%)が最も高く、次いで「働くこと」(38.6%)、「旅行・ドライブ」(37.3%)、「外出(買い物・映画等)」(37.0%)、「友人・仲間と過ごす時間」(27.3%)となっています。

問11 生きがいや楽しみのある生活のために行っていること



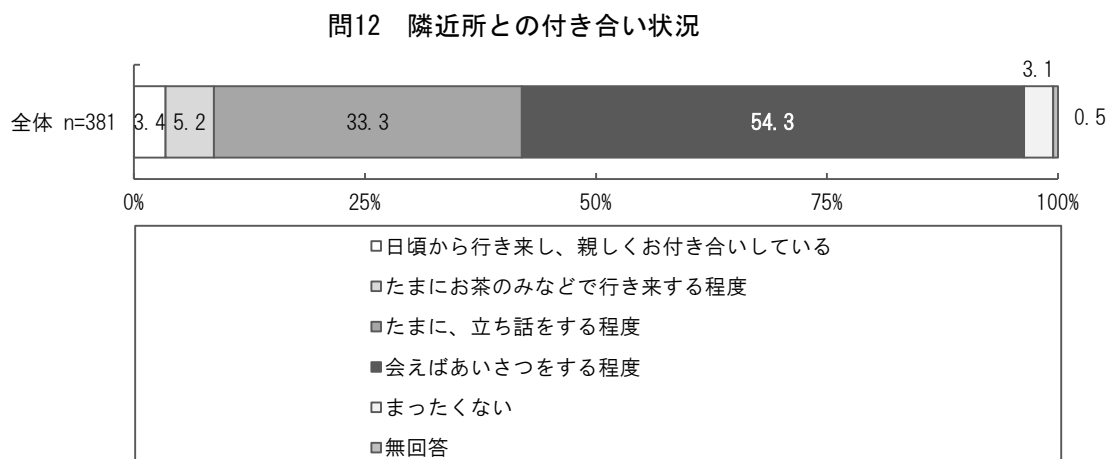
■課題分析(生活状況について)

◆生きがいや楽しみのある生活のために行っていることの間いでは、「家族との団らん」(50.7%)が最も高い一方で、「町内会、育成会などの地域活動」(2.4%)や「ボランティア活動に参加すること」(0.8%)の割合が低くなっています。若年者の地域活動への参加により地域の活性化も期待できるため、家族との団らんの中で地域活動やボランティア活動等についての話題が上がるよう引き続き周知啓蒙を行うことが必要です。

5 地域との関わりについて

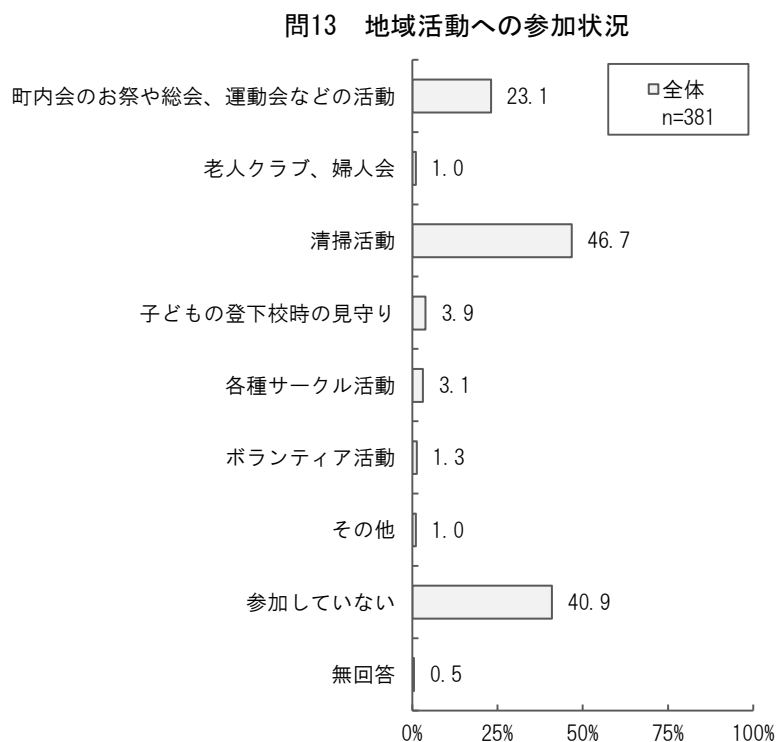
(1) 隣近所との関わり

○隣近所との付き合い状況をみると、「会えばあいさつをする程度」(54.3%)が最も高く、次いで「たまに、立ち話をする程度」(33.3%)となっています。



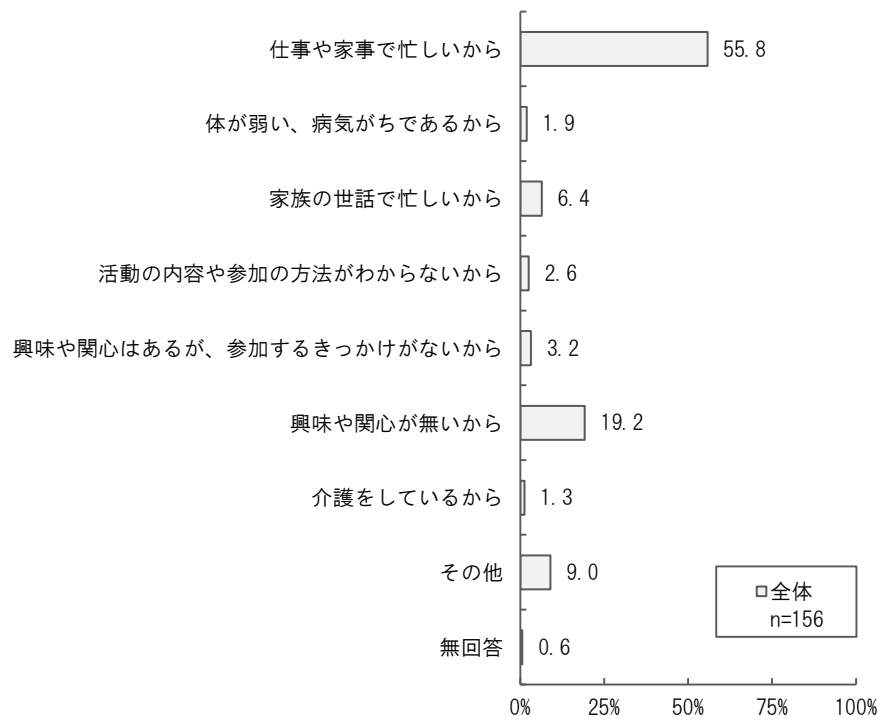
(2) 地域活動への参加状況

○地域活動への参加状況をみると、「清掃活動」(46.7%)が最も高く、次いで「町内会のお祭や総会、運動会などの活動」(23.1%)となり、「参加していない」は40.9%となっています。



○地域活動へ参加していない理由をみると、「仕事や家事で忙しいから」(55.8%)が最も高く、次いで「興味や関心が無いから」(19.2%)となっています。

問13-① 地域活動へ参加していない理由

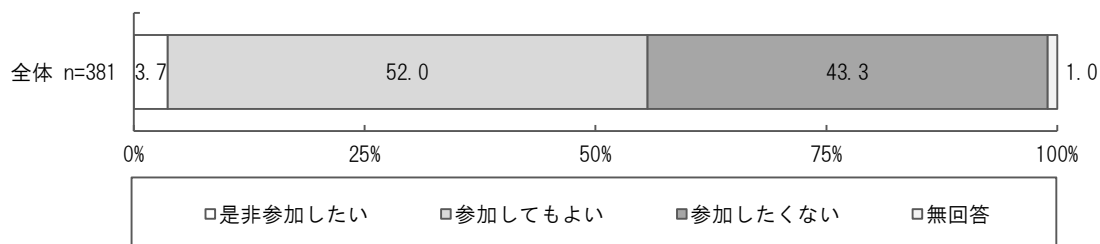


(3) 地域活動への参加意向

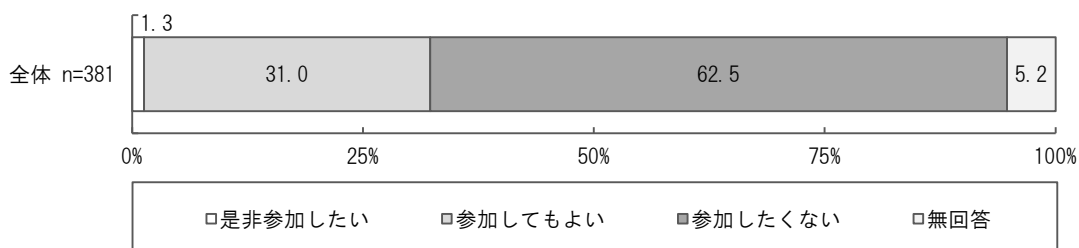
○参加者として地域活動へ参加してみたいかでは、「是非参加したい」(3.7%)と「参加してもよい」(52.0%)を合わせた55.7%の方が参加の意向です。

○企画・運営として地域活動へ参加してみたいかでは、「是非参加したい」(1.3%)と「参加してもよい」(31.0%)を合わせた32.3%の方が参加の意向です。一方、「参加したくない」は6割以上となっています。

問14 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか



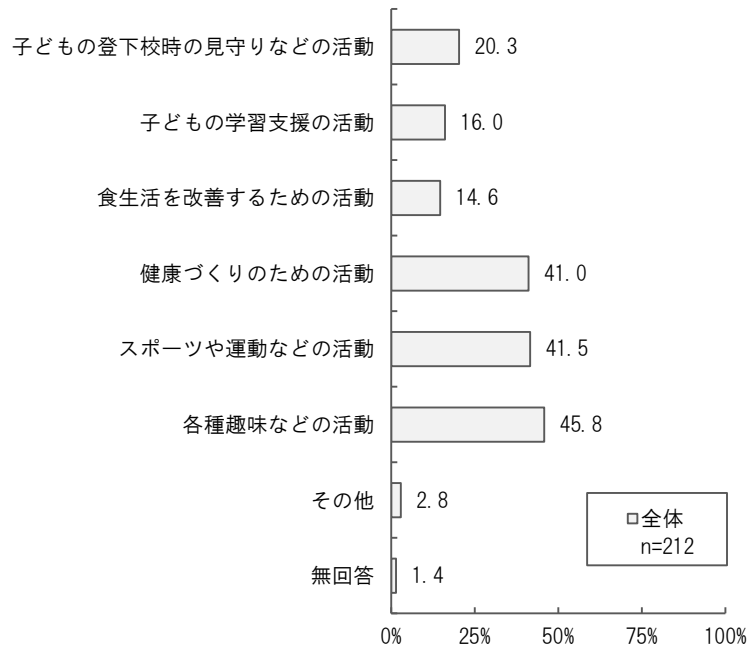
問15 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか



(4) 地域でできる支援と地域生活に必要なサービスや支援

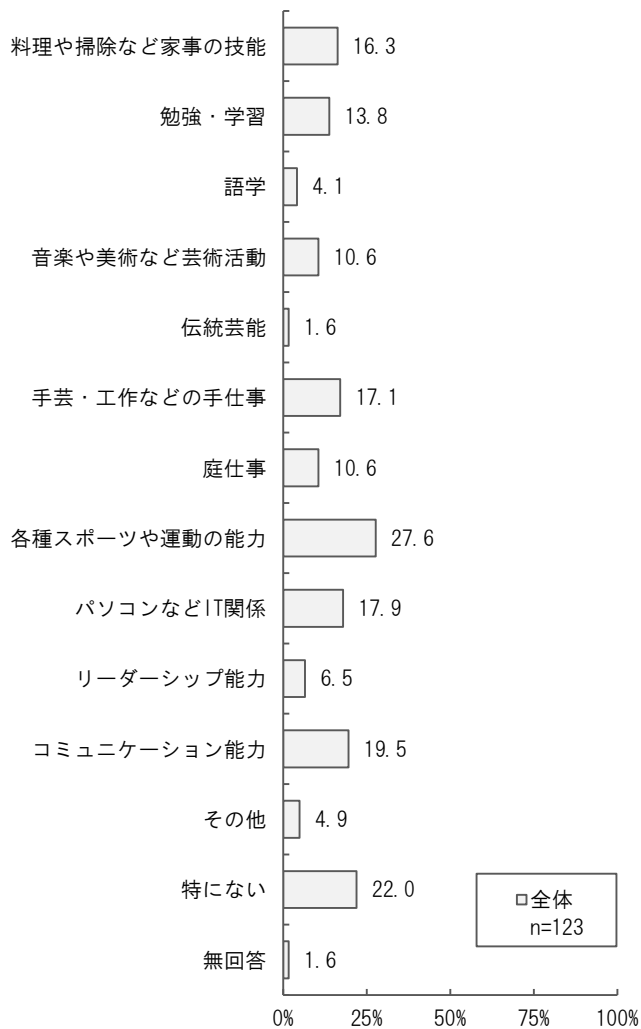
○地域でできる支援では、「各種趣味などの活動」(45.8%)が最も高く、次いで「スポーツや運動などの活動」(41.5%)、「健康づくりのための活動」(41.0%)、「子どもの登下校時の見守りなどの活動」(20.3%)となっています。

問14-① 地域でできる支援



○地域活動に企画・運営（お世話役）として参加したい方のスキルをみると、「各種スポーツや運動の能力」（27.6%）が最も高く、次いで「コミュニケーション能力」（19.5%）、「パソコンなどIT関係」（17.9%）、「手芸・工作などの手仕事」（17.1%）、となっており、「特にない」方も22.0%います。

問15-① スキル(知識や各種能力)

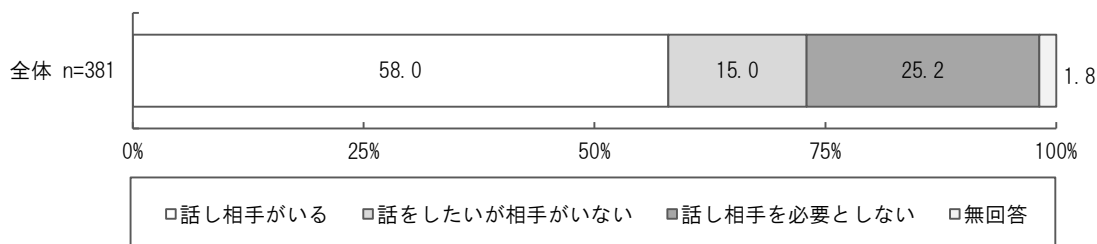


(5) 困った際に頼る相手または頼られる相手

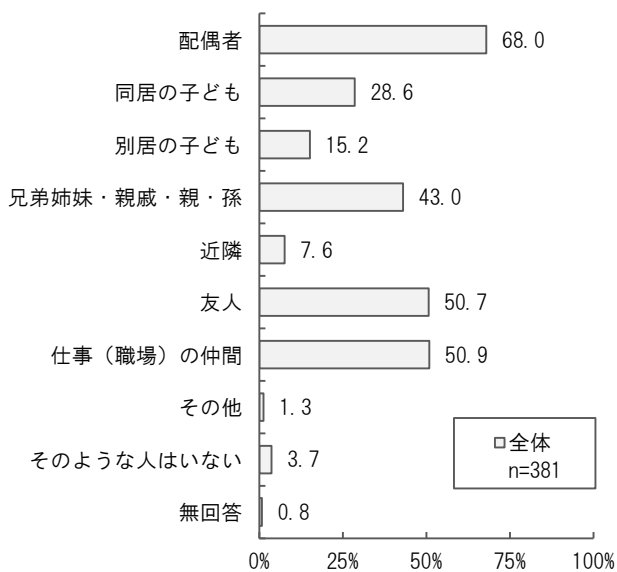
○家族以外に、地域の中で話をする相手がいるかをみると、「話し相手がいる」(58.0%)が最も高く、次いで「話し相手を必要としない」(25.2%)となっています。

○心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人は、「配偶者」(68.0%)が最も高く、次いで「仕事(職場)の仲間」(50.9%)、「友人」(50.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(43.0%)となっています。一方、「そのような人はいない」は3.7%います。

問16 家族以外に、地域の中で話をする相手の有無

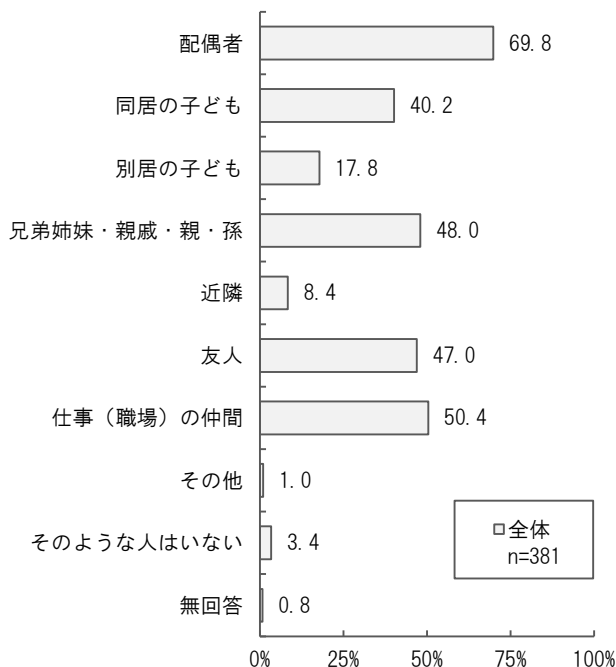


問17 心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人



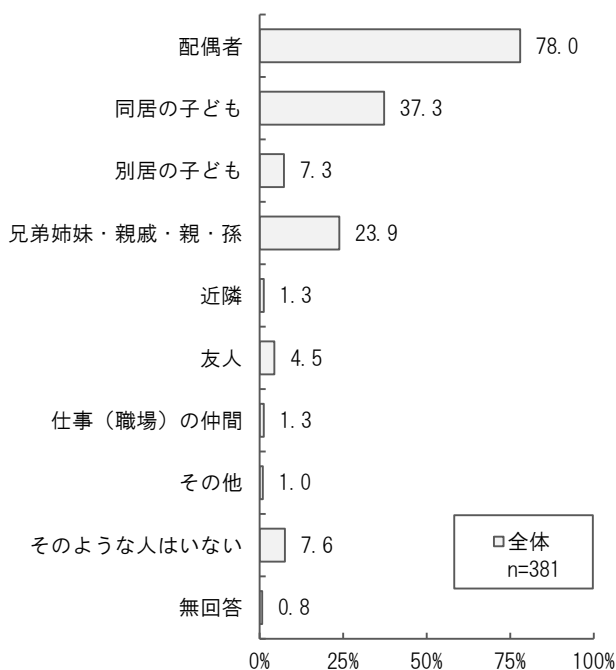
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」（69.8%）が最も高く、次いで「仕事（職場）の仲間」（50.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（48.0%）、「友人」（47.0%）「同居の子ども」（40.2%）となっています。一方、「そのような人はいない」方は3.4%います。

問18 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人



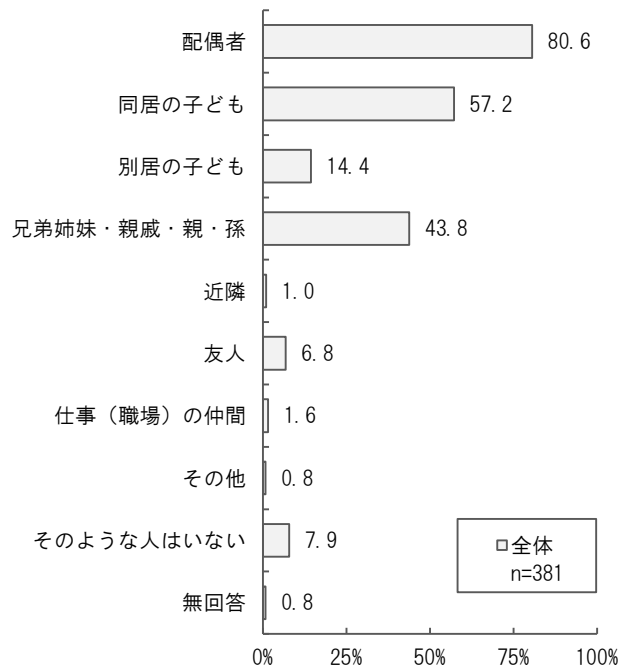
○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」（78.0%）が最も高く、次いで「同居の子ども」（37.3%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（23.9%）となっています。

問19 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



○看病や世話をしあける人は、「配偶者」(80.6%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(57.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(43.8%)となっています。

問20 看病や世話をしあける人

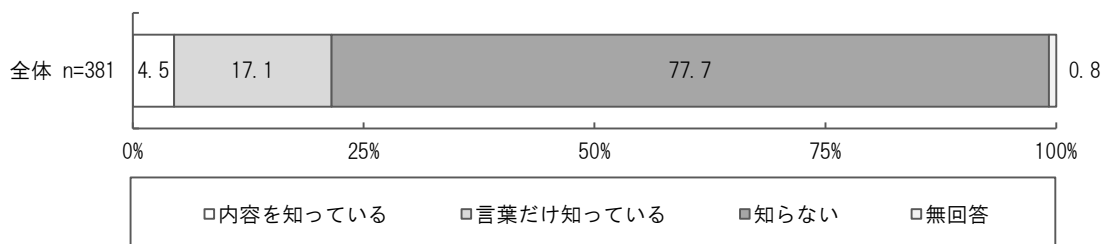


(6) 災害時の対応について

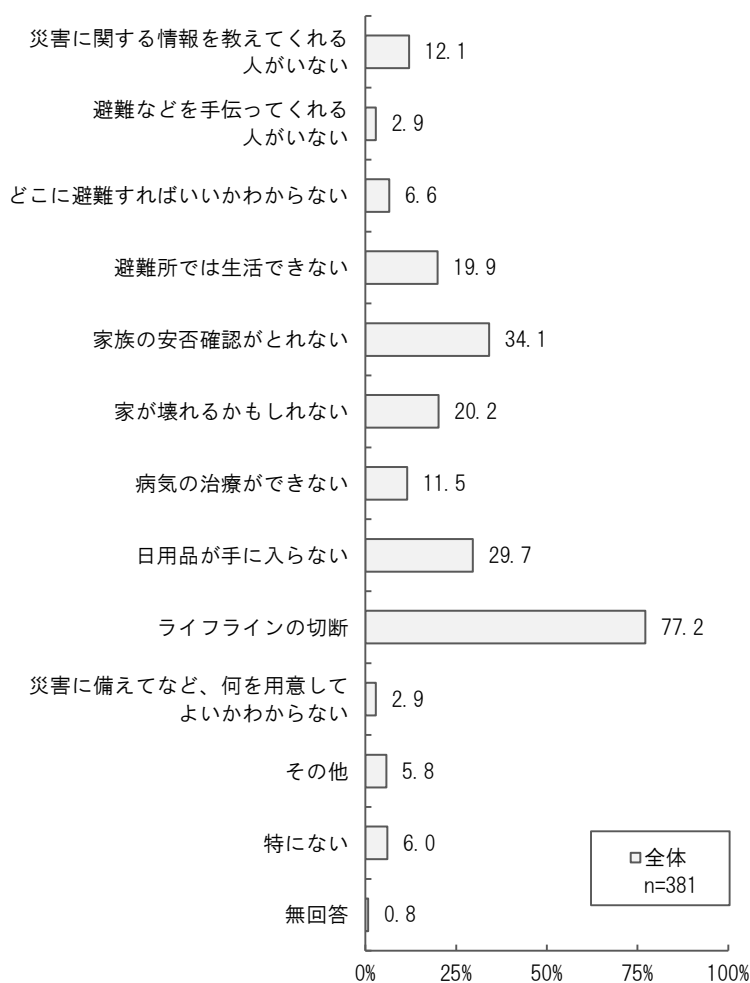
○福祉避難所の周知状況をみると、「知らない」(77.7%)が最も高く、次いで「言葉だけ知っている」(17.1%)となっており、「内容を知っている」は4.5%となっています。

○災害時に不安に感じることは、「ライフラインの切断」(77.2%)が最も高く、次いで「家族の安否確認がとれない」(34.1%)、「日用品が手に入らない」(29.7%)、「家が壊れるかもしれない」(20.2%)となっています。

問21 福祉避難所の周知状況

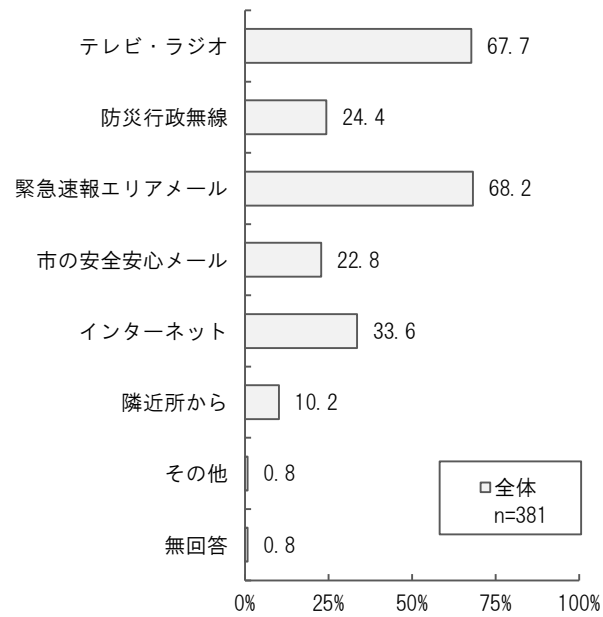


問22 災害時に不安に感じること



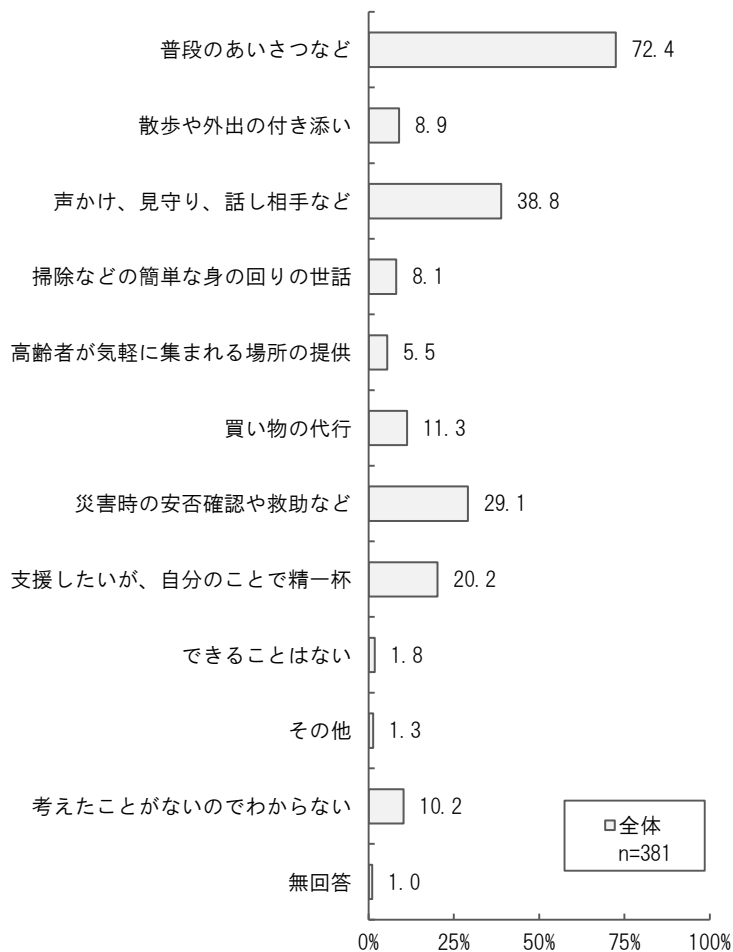
○災害時の情報収集手段は、「緊急速報エリアメール」(68.2%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(67.7%)、
「インターネット」(33.6%)となっています。

問23 災害時の情報収集手段



○高齢者が地域の中で安心して生活するためにできることをみると、「普段のあいさつなど」（72.4%）が最も高く、次いで「声かけ、見守り、話し相手など」（38.8%）、「災害時の安否確認や救助など」（29.1%）となっています。一方、「支援したいが、自分のことで精一杯」も20.2%います。

問24 高齢者が地域の中で安心して生活するためにできること



■課題分析（地域との関わりについて）

- ◆地域活動への参加状況の問いでは、「清掃活動」（46.7%）が最も高く、次いで「町内会のお祭や総会、運動会などの活動」（23.1%）となっており、町内会に関連する活動への参加が中心となっています。一方で、「参加していない」は40.9%となっており、参加していない理由でも「興味や関心がないから」が19.2%となっていることから、地域包括ケアシステムの一翼を担う地域の若年者に対する啓蒙活動が必要です。
- ◆参加者として地域活動へ参加してみたいかの問いでは、「是非参加したい」（3.7%）と「参加してもよい」（52.0%）を合わせた55.7%の方が参加の意向を示しており、企画・運営として地域活動へ参加してみたいかの問いでは、「是非参加したい」（1.3%）と「参加してもよい」（31.0%）を合わせた32.3%の方が参加の意向を示しています。地域における支援の実践者として育成を図ることが必要です。
- ◆地域でできる支援の問いでは、「各種趣味などの活動」（45.8%）、「スポーツや運動などの活動」（41.5%）、「健康づくりのための活動」（41.0%）、「子どもの登下校時の見守りなどの活動」（20.3%）となっており、地域活動に企画・運営（お世話役）として参加したい方のスキルの問いでは、「各種スポーツや運動の能力」（27.6%）、「コミュニケーション能力」（19.5%）、「パソコンなどIT関係」（17.9%）、「手芸・工作などの手仕事」（17.1%）となっています。様々なスキルを持つ方が一定程度いることから、地域活動における活動内容を充実させ参加者を増やすことで、新たな交流を生み出すことが必要です。
- ◆家族以外に、地域の中で話をする相手がいるかの問いでは、「話をしたいが相手がない」が15.0%、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人では、「そのような人はいない」が3.7%となっています。これらの方々に地域活動への参加等を促し、地域とのつながりを持ってもらうことで、地域活動の活性化・充実を図ることが必要です。
- ◆病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人の問いでは、「そのような人はいない」が7.6%あり、将来、年齢を重ねて要介護状態となった場合のことが懸念されるため、地域とのつながりや福祉サービスの充実も検討することが必要です。
- ◆福祉避難所の周知状況の問いでは、「知らない」（77.7%）が最も高くなっており、引き続き周知が必要です。
- ◆災害時に不安に感じることの問いでは、「災害に関する情報を教えてくれる人がいない」が12.1%、「避難などを手伝ってくれる人がいない」が2.9%となっているため、引き続き災害に関する情報発信や避難の在り方等を検討することが必要です。
- ◆高齢者が地域の中で安心して生活するためにできることの問いでは、「普段のあいさつなど」（72.4%）、「声かけ、見守り、話し相手など」（38.8%）、「災害時の安否確認や救助など」（29.1%）となっており、これらの支援ができる人を実際の地域活動へとマッチングさせていくことが必要です。

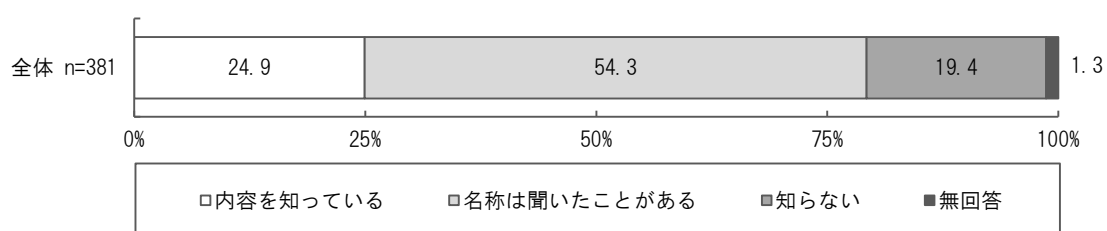
6 相談窓口などについて

(1) 介護保険制度の周知状況

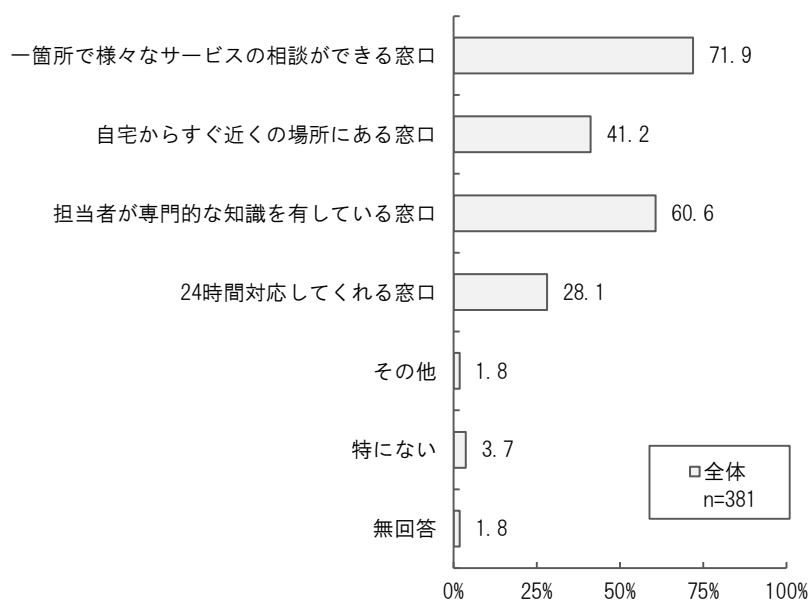
○介護保険制度の内容理解度をみると、「名称は聞いたことがある」(54.3%)が最も高く、次いで「内容を知っている」(24.9%)、「知らない」(19.4%)となっています。

○介護に関する相談窓口に求めるものをみると、「一箇所で様々なサービスの相談ができる窓口」(71.9%)が最も高く、次いで「担当者が専門的な知識を有している窓口」(60.6%)、「自宅からすぐ近くの場所にある窓口」(41.2%)、「24時間対応してくれる窓口」(28.1%)となっています。

問25 介護保険制度の内容理解度



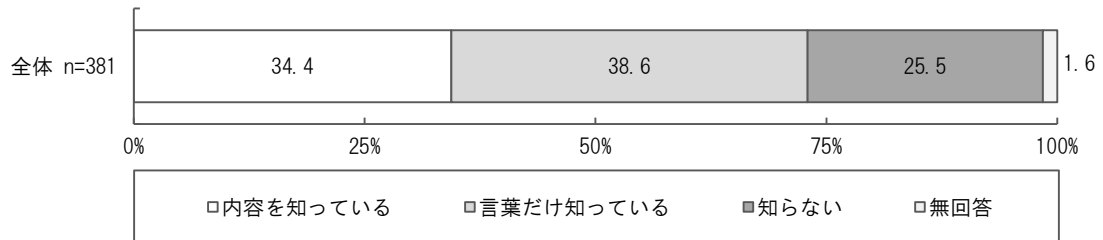
問26 介護に関する相談窓口を求めるもの



(2) 成年後見制度について

○成年後見制度の周知状況をみると、「言葉だけ知っている」(38.6%)が最も高く、次いで「内容を知っている」(34.4%)、「知らない」(25.5%)となっています。

問27 成年後見制度の周知状況



■課題分析（相談窓口などについて）

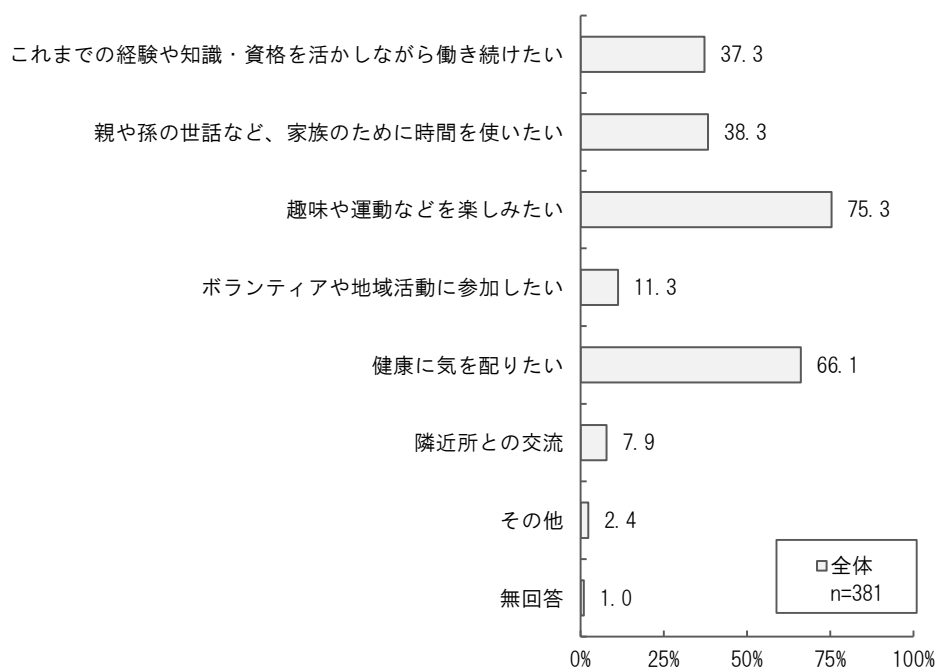
- ◆介護に関する相談窓口に求めるものの問いでは、「一箇所で様々なサービスの相談ができる窓口」(71.9%)が最も高く、相談窓口の一本化が望まれています。
- ◆成年後見制度の周知状況の問いでは、「内容を知っている」(34.4%)、「言葉だけ知っている」(38.6%)と合わせた7割強の方に認知されている一方で、「知らない」が25.5%となっています。認知症等により判断力が低下した際、財産管理等において本人にとって不利益な判断がされないようにするため、「言葉だけ知っている」方も含めて、引き続き成年後見制度を広く周知することが必要です。

7 将来の生活（介護の考え方を含む）について

（1）65歳以降の生活について

○65歳以降の過ごし方の考えをみると、「趣味や運動などを楽しみたい」（75.3%）が最も高く、次いで「健康に気を配りたい」（66.1%）、「親や孫の世話など、家族のために時間を使いたい」（38.3%）、「これまでの経験や知識・資格を活かしながら働きたい」（37.3%）となっています。

問28 65歳以降の過ごし方

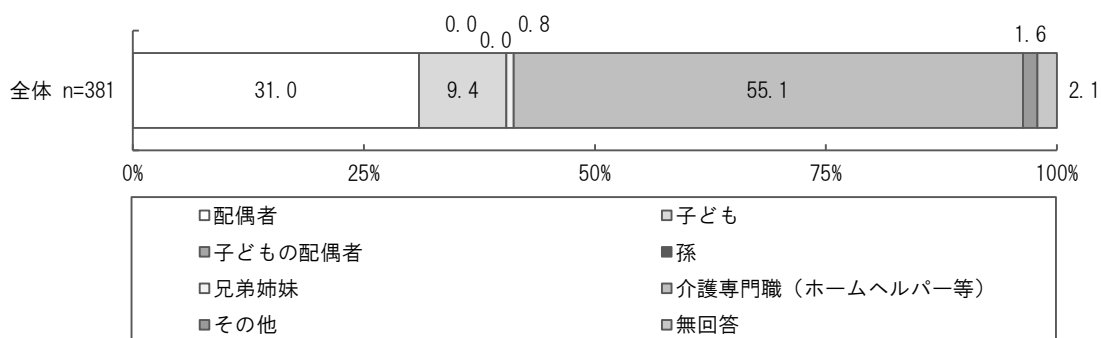


(2) 介護が必要となった場合の生活

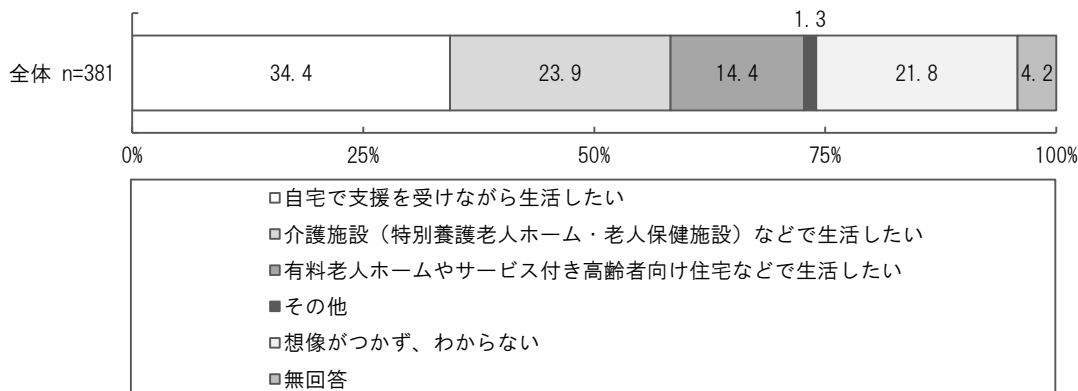
○介護が必要になった場合の介護者をみると、「介護専門職(ホームヘルパー等)」(55.1%)が最も高く、次いで「配偶者」(31.0%)となっています。なお、「子どもの配偶者」「孫」と回答された方はいませんでした。

○介護が必要になった場合どのような介護を受けながら生活したいかをみると、「自宅で支援を受けながら生活したい」(34.4%)が最も高く、次いで「介護施設(特別養護老人ホーム・老人保健施設)などで生活したい」(23.9%)、「想像がつかず、わからない」(21.8%)となっています。

問30 介護が必要になった場合の介護者

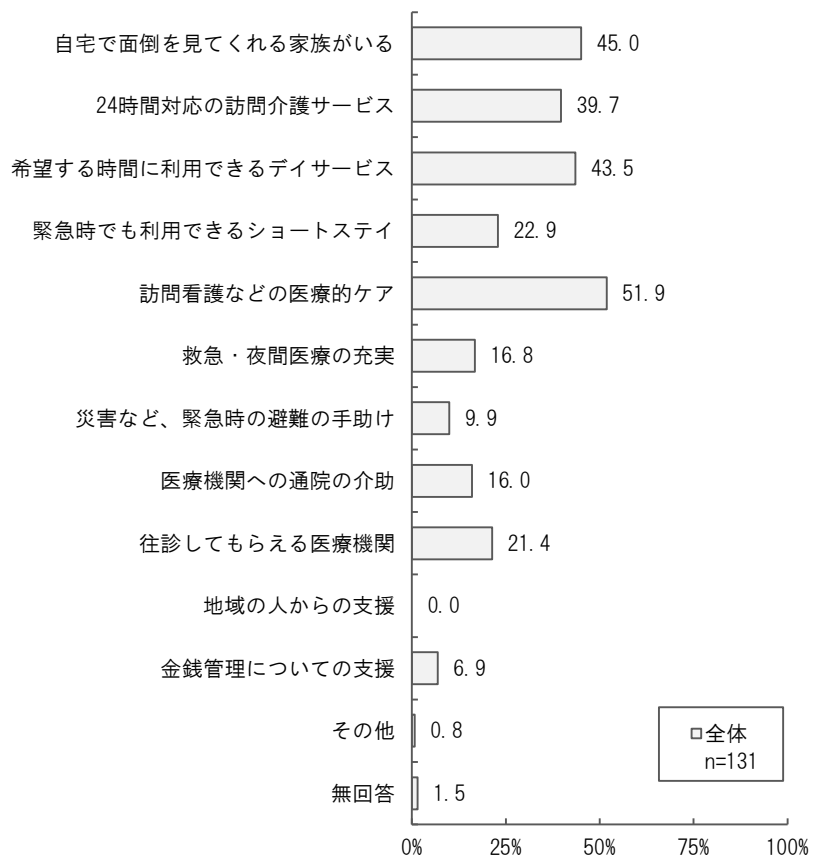


問31 介護が必要になった場合どのような介護を受けながら生活したいか



○自宅で生活をするために必要と思う支援やサービスをみると、「訪問看護などの医療的ケア」(51.9%)が最も高く、次いで「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」(45.0%)、「希望する時間に利用できるデイサービス」(43.5%)、「24時間対応の訪問介護サービス」(39.7%)「緊急時でも利用できるショートステイ」(22.9%)となっています。

問31-① 自宅で生活をするために必要と思う支援やサービス



■課題分析（将来の生活（介護の考え方を含む）について）

- ◆65歳以降の過ごし方の考えの問いでは、「趣味や運動などを楽しみたい」（75.3%）の回答が最も高い割合となっており、それぞれの趣味や運動のスキルを地域活動へ還元するとともに、共通の趣味や運動を共有することで地域コミュニティの更なる形成に期待が持てます。また、「健康に気を配りたい」（66.1%）との回答も高いので、若いうちからの健康管理の意識付けを引き続き行うことが必要です。
- ◆介護が必要になった場合の介護者の問いでは、「介護専門職（ホームヘルパー等）」（55.1%）となっており、介護が必要になった場合どのような介護を受けながら生活したいかをみると、「自宅で支援を受けながら生活したい」（34.4%）となっています。住み慣れた自宅で、専門職に介護してもらいたいとの希望が多くなっていることから、地域包括ケアシステムの充実を図っていくことが必要です。一方で、「想像がつかずわからない」が21.8%となっているため、地域で支える役割を担う若年者に対してより身近に感じてもらえるよう介護保険制度のさらなる周知を引き続き図ることが必要です。

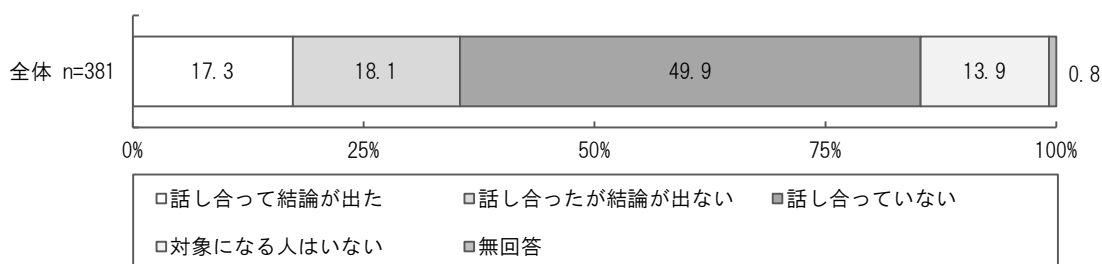
8 ご両親の介護について

(1) ご両親の介護に関する検討状況

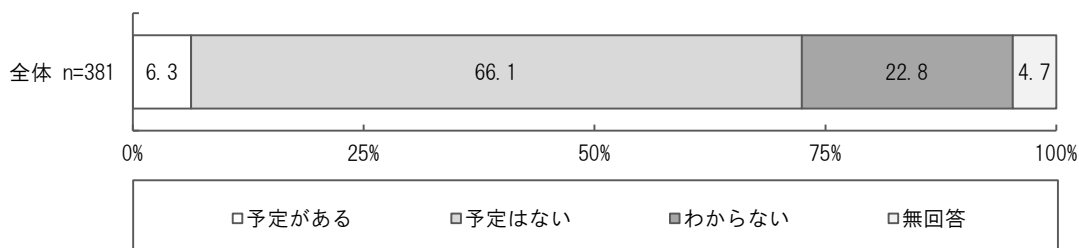
○ご両親の介護について話し合いの有無をみると、「話し合っていない」(49.9%)が最も高く、次いで「話し合ったが結論が出ない」(18.1%)、「話し合って結論が出た」(17.3%)となっています。

○ご両親を呼び寄せて介護をする予定をみると、「予定はない」(66.1%)が最も高く、次いで「わからない」(22.8%)、「予定がある」(6.3%)となっています。

問32 ご両親の介護について話し合いの有無



問33 ご両親を呼び寄せて介護をする予定



■課題分析（ご両親の介護に関する検討状況）

◆ご両親の介護について話し合いの有無の問いでは、「話し合っていない」が49.9%と約半数となっています。また、ご両親を呼び寄せて介護をする予定では「わからない」が22.8%となっているため、家族や兄弟の間で将来の両親の介護について話し合いの機会を設けることが必要です。

第5章

共通設問等の分析

第5章 共通設問等の分析

第5章は「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」「在宅介護実態調査」「若年者調査」の共通・類似設問の調査結果について分析を行いました。なお、課題分析の前の分析コメントについては、第2章～第4章までの分析コメントを再掲しています。

1 健康状況について

(1) 治療中、または後遺症のある病気や要介護者が現在抱えている傷病名

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、現在治療中、または後遺症のある病気の有無をみると、全体では「高血圧」(47.2%)が最も高く、次いで「目の病気」(25.5%)、「高脂血症(脂質異常)」(15.0%)となっています。また、現在治療中、または後遺症のある病気が「ない」は14.5%となっています。【ニーズ：問7(6) p.38】

○在宅介護実態調査において、要介護者が現在抱えている傷病名をみると、「認知症」(24.4%)が最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(22.6%)、「その他」(22.1%)、「脳血管疾患(脳卒中)」(19.5%)、「糖尿病」(18.3%)、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(17.8%)となっています。【在宅：A問7 p.68】

○若年者調査において、現在治療中、または後遺症のある病気をみると、「高血圧」(16.5%)が最も高く、次いで「歯の病気(むし歯や歯周病等)」(15.7%)、「脂質異常(高脂血症)」(11.0%)、「目の病気」(5.8%)、「糖尿病」(5.2%)となっています。【若年：問6 p.103】

(2) 健診や人間ドックについて

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、過去1年以内の健診や人間ドックの受診状況をみると、「市の健診を受けた」(54.7%)が最も高く、次いで「かかりつけの病院等で健診・検査を受けた」(25.0%)となっています。また、健診や人間ドックを受診しない理由をみると、「健康には自信があるため必要なかった」(19.5%)が最も高く、次いで「時間がなかった」(18.4%)となっています。【ニーズ：問7(8) p.39、問7(8)① p.43】

○若年者調査において、過去1年以内の健診や人間ドックの受診状況をみると、「職場の健診を受けた」(63.8%)が最も高く、次いで「市の健診を受けた」(15.0%)となっています。また、健診や人間ドックを受診しない理由をみると、「時間がなかった」(29.7%)が最も高く、次いで「費用(自己負担がかかる)」(21.6%)となっています。【若年：問7、問7① p.104】

(3) 健康のために意識していることや取り組んでいること

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、健康のために意識していることや取り組んでいることは、「散歩やウォーキング」(42.3%)が最も高く、次いで「食事(栄養のバランスや量など)」(39.8%)、「規則正しい生活(早寝早起きや十分な睡眠など)」(29.9%)、「趣味や楽しみを持つ」(22.7%)、「家事(調理・洗濯・掃除)」(21.9%)となっています。また、特にないと回答した人の取組を行っていない理由をみると、「必要性を感じていない」「気持ちや体力的に余裕がない」(各21.2%)が最も高く、次いで「ひとりで

は長続きしない」(17.3%)、「何をしたらいいかわからない」「時間がない」(各15.4%)、「取り組んでも状態が良くなると思わない」(13.5%)となっています。

【ニーズ：問7(9) p.40、問7(9)① p.41】

○若年者調査において、健康のために意識していることや取り組んでいることをみると、「食事(栄養のバランスや量など)」(37.3%)が最も高く、次いで「散歩やウォーキング」「定期的に健診を受けること」(各27.8%)、「規則正しい生活(早寝早起きや十分な睡眠など)」(25.2%)、「スポーツ」(22.0%)となっています。また、特にないと回答した人の取組を行っていない理由をみると、「時間がない」(38.1%)が最も高く、次いで「ひとりでは長続きしない」(21.4%)、「気持ちや体力的に余裕がない」(19.0%)、「必要性を感じていない」(16.7%)となっています。【若年：問8 p105、問8① p106】

■課題分析(健康状況について)

◆介護予防・日常生活圏域ニーズ調査や若年者調査において、現在治療中、または後遺症のある病気の有無の問いでは「高血圧」「脂質異常(高脂血症)」等の病気が上位を占めていること、また在宅介護実態調査において、要介護者が現在抱えている傷病名の問いでは「脳血管疾患(脳卒中)」が上位にあることから、高齢者・若年者を問わず、血管に悪い影響を及ぼす可能性のある「高血圧」「脂質異常(高脂血症)」等の生活習慣病等の疾病予防が引き続き必要です。

◆介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、健診や人間ドックを受診しない理由の問いでは「健康には自信があるため必要なかった」が最も高くなっており、健診や人間ドック受診の周知啓蒙が引き続き必要とされます。また、若年者調査において、健診や人間ドックを受診しない理由の問いでは「時間がなかった」が最も高くなっており、疾病予防に取り組むための周知啓蒙が必要です。

◆介護予防・日常生活圏域ニーズ調査や若年者調査において、健康のために意識していることや取り組んでいることの前回調査比較では、両調査ともに多くの選択肢で全体的に割合が高くなっており、健康づくりに関する意識の向上がみられます。一方で、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、健康のために意識していることや取り組んでいることで、特にないと回答した人の取組を行っていない理由の問いでは、「必要性を感じていない」「気持ちや体力的に余裕がない」が上位を占めており、健康づくりに取り組んでもらえるよう引き続き周知啓蒙が必要です。また、若年者調査の理由では、「時間がない」が上位となっているため、疾病予防に取り組むための周知啓蒙が必要です。

2 生きがいづくりについて

(1) 生きがいや余暇の過ごし方

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、生きがいや楽しみのある生活のためにしていることをみると、「家族との団らん」(36.8%)が最も高く、次いで「外出(買い物・映画等)」(32.5%)、「旅行・ドライブ」(32.2%)、「友人・仲間と過ごす時間」(31.5%)となっています。【ニーズ：問8(3) p.44】

○在宅介護実態調査において、生きがいや楽しみのある生活のためにに行っていることをみると、「テレビ・ラジオ」(48.4%)が最も高く、次いで「通所サービス利用時の活動(デイサービスなど)」(41.0%)、「家族との団らん」(33.8%)となっています。

【在宅：A問16 p.74】

○若年者調査において、生きがいや楽しみのある生活のためにに行っていることをみると、「家族との団らん」(50.7%)が最も高く、次いで「働くこと」(38.6%)、「旅行・ドライブ」(37.3%)、「外出(買い物・映画等)」(37.0%)、「友人・仲間と過ごす時間」(27.3%)となっています。【若年：問11 p.109】

■課題分析(生きがいづくりについて)

◆在宅介護実態調査において、生きがいや楽しみのある生活のためにに行っていることの間いでは、前回調査結果と同様「テレビ・ラジオ」「通所サービス利用時の活動(デイサービスなど)」が上位を占めていますが、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査や若年者調査と比較すると、身体機能の低下の理由によるものが行動範囲が狭くなっている傾向がみられます。要介護状態となっても住み慣れた地域で生きがいを持った生活をするために、デイサービスや通所リハビリテーション等の介護サービスの利用促進により生活の質の向上を図ることが必要です。

3 認知症について

(1) 安心して生活するために必要なこと

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「認知症患者を抱える家族に対する支援」(54.0%)が最も高く、次いで「在宅で生活するための介護サービスの充実」(36.8%)、「認知症の専門相談窓口の拡充」(33.1%)、「認知症ケアパスの普及・活用」(24.7%)となっています。

【ニーズ：問10(2) p.50】

○在宅介護実態調査において、今後、認知症になっても安心して生活するために必要なことをみると、「認知症患者を抱える家族に対する支援」(45.3%)が最も高く、次いで「在宅で生活するための介護サービスの充実」(31.5%)、「グループホームなどの施設の整備」(28.9%)、「認知症の専門相談窓口の拡充」「認知症ケアパスの普及・活用」(各23.2%)となっています。【在宅：B問13 p.81】

○若年者調査において、認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「認知症患者を抱える家族に対する支援」(69.0%)が最も高く、次いで「グループホームなどの施設の整備」(37.8%)、「認知症ケアパスの普及・活用」(36.7%)、「在宅で生活するための介護サービスの充実」(31.2%)となっています。【若年：問9 p.107】

■課題分析（認知症について）

◆すべての調査において、認知症になっても安心して生活するために必要なことの間いでは、「認知症患者を抱える家族に対する支援」が最も高くなっています。また、「在宅で生活するための介護サービスの充実」「認知症の専門相談窓口の拡充」「認知症ケアパスの普及・活用」「グループホームなどの施設の整備」等、調査によって順位は異なりますが、認知症になっても安心して生活するために必要なことについては、前回調査結果とおおむね共通の認識となっています。認知症サポーターを増やすための「認知症学びの講座」の拡充や、認知症ケアパスの普及、グループホームなどの施設整備等の認知症施策を全般的に推進していくことが必要です。

4 地域とのつながり

（1）隣近所との関わり

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、隣近所との付き合い状況をみると、「会えばあいさつをする程度」（35.9%）が最も高く、次いで「たまに、立ち話をする程度」（35.5%）となっています。【ニーズ：問8（2） p.43】

○在宅介護実態調査において、隣近所との付き合い状況をみると、要介護者・主な介護者ともに「会えばあいさつをする程度」（35.5%・33.2%）が最も高く、次いで要介護者は「まったくない」（28.7%）、主な介護者は「たまに、立ち話をする程度」（29.5%）となっています。【在宅：A問17、B問14 p.75】

○若年者調査において、隣近所との付き合い状況をみると、「会えばあいさつをする程度」（54.3%）が最も高く、次いで「たまに、立ち話をする程度」（33.3%）となっています。【若年：問12 p.110

】

（2）家族以外に、地域の中で話をする相手の有無

○在宅介護実態調査において、家族以外に話をする相手の有無をみると、要介護者・主な介護者ともに「話し相手がいる」（43.8%・43.6%）が最も高く、次いで「話をしたいが相手がいらない」（27.8%・26.9%）となっています。【在宅：A問18、B問15 p.75】

○若年者調査において、家族以外に、地域の中で話をする相手がいるかをみると、「話し相手がいる」（58.0%）が最も高く、次いで「話し相手を必要としない」（25.2%）となっています。【若年：問16 p.115】

（3）心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人の有無

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「配偶者」（61.9%）が最も高く、次いで「友人」（42.5%）、「別居の子ども」（34.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（32.1%）となっています。一方、「そのような人はいない」方は3.4%います。【ニーズ：問6（1） p.33】

○若年者調査において、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「配偶者」（68.0%）が最も高く、次いで「仕事（職場）の仲間」（50.9%）、「友人」（50.7%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（43.0%）となっています。一方、「そのような人はいない」は3.7%です。【若年：問17 p.115】

（4）心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人の有無

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」（60.3%）が最も高く、次いで「友人」（43.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（36.3%）、「別居の子ども」（33.8%）となっています。一方、「そのような人はいない」は3.8%となっています。【ニーズ：問6（2） p.33】

○若年者調査において、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」（69.8%）が最も高く、次いで「仕事（職場）の仲間」（50.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（48.0%）、「友人」（47.0%）、「同居の子ども」（40.2%）となっています。一方、「そのような人はいない」は3.4%となっています。【若年：問18 p.116】

（5）病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人の有無

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」（69.8%）が最も高く、次いで「同居の子ども」「別居の子ども」（各32.6%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（12.3%）となっています。【ニーズ：問6（3） p.34】

○若年者調査において、病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」（78.0%）が最も高く、次いで「同居の子ども」（37.3%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（23.9%）となっています。【若年：問19 p.116】

（6）看病や世話をしてあげる人の有無

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」（70.0%）が最も高く、次いで「別居の子ども」（30.8%）、「同居の子ども」（27.8%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（27.7%）となっています。【ニーズ：問6（4） p.34】

○若年者調査において、看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」（80.6%）が最も高く、次いで「同居の子ども」（57.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（43.8%）となっています。【若年：問20 p.117】

■課題分析（地域とのつながり）

- ◆在宅介護実態調査の主な介護者を除き、隣近所との付き合い状況の問いでは「日頃から行き来し、親しくお付き合いしている」割合は前回調査結果と比較すると低くなっており、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と若年者調査においては、「たまにお茶のみなどで行き来する程度」の割合も同様に低くなっています。また、前回調査結果よりもさらに地域とのつながりが薄れつつある現状であるため、誰でも気軽に参加できる多様な地域活動の充実を図る取組等により、地域におけるつながりを維持・推進していくことが必要です。
- ◆在宅介護実態調査や若年者調査において、家族以外に話をする相手の有無の問いでは、「話し相手がいる」割合は前回調査結果と比較すると若干低くなっています。引き続き日頃から隣近所や地域の人との気軽なつながりを持てる地域づくりの取組が必要です。
- ◆介護予防・日常生活圏域ニーズ調査や若年者調査において、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人の有無の問いと心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人の有無の問いでは、「そのような人はいない」割合はいずれも3%台となっています。いずれも高くはありませんが、引き続き地域の中でつながりを持てるような取組が必要です。
- ◆介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人の有無の問いと看病や世話をしあげる人の有無の問いでは、「そのような人はいない」割合はともに3%台となっています。また、若年者調査において、病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人の有無の問いと看病や世話をしあげる人の有無の問いでは、「そのような人はいない」割合はともに7%台となっています。いずれも高くはありませんが、引き続き地域の中でつながりを持てるような取組が必要です。

5 災害時の対応について

（1）福祉避難所の周知状況

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、福祉避難所の周知状況をみると、「知らない」（50.4%）が最も高く、次いで「言葉だけ知っている」（34.5%）となっており、「内容を知っている」は11.4%となっています。【ニーズ：問6（5） p.35】
- 在宅介護実態調査において、福祉避難所の周知状況をみると、「知らない」（59.9%）が最も高く、次いで「言葉だけ知っている」（19.5%）となっており、「内容を知っている」は8.9%となっています。【在宅：B問16 p.86】
- 若年者調査において、福祉避難所の周知状況をみると、「知らない」（77.7%）が最も高く、次いで「言葉だけ知っている」（17.1%）となっており、「内容を知っている」は4.5%となっています。【若年：問21 p.118】

（2）災害時に不安に感じること

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、災害時に不安に感じることは、「ライフラ

インの切断」(56.5%)が最も高く、次いで「避難所では生活できない」「家が壊れるかもしれない」(各23.7%)、「日用品が手に入らない」(21.2%)となっています。

【ニーズ：問6(6) p.35】

○在宅介護実態調査において、災害時に不安に感じることは、「避難所では生活できない」(45.3%)が最も高く、次いで「ライフラインの切断」(39.8%)、「病気の治療ができない」(26.6%)、「避難などを手伝ってくれる人がいない」(21.2%)となっています。

【在宅：B問17 p.86】

○若年者調査において、災害時に不安に感じることは、「ライフラインの切断」(77.2%)が最も高く、次いで「家族の安否確認がとれない」(34.1%)、「日用品が手に入らない」(29.7%)、「家が壊れるかもしれない」(20.2%)となっています。【若年：問22 p.118】

(3) 災害時の情報収集手段

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、災害時の情報収集手段は、「テレビ・ラジオ」(80.9%)が最も高く、次いで「緊急速報エリアメール」(49.7%)、「防災行政無線」(27.6%)となっています。【ニーズ：問6(7) p.36】

○若年者調査において、災害時の情報収集手段は、「緊急速報エリアメール」(68.2%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(67.7%)、「インターネット」(33.6%)となっています。【若年：問23 p.119】

■課題分析（災害時の対応について）

- ◆すべての調査において、福祉避難所の周知状況の問いでは「知らない」が5割以上となっているものの、前回調査との比較では「知らない」の割合が低下しているため、認知度は上がっている状況が伺えます。今後、さらに福祉避難所の認知度を高めるためにも引き続き周知に努めることが必要です。
- ◆すべての調査において、災害時に不安に感じることの問いでは、「ライフラインの切断」の割合が高くなっています。また、在宅介護実態調査では「避難などを手伝ってくれる人がいない」、若年者調査では「家族の安否確認がとれない」が上位となっており、前回調査ともおおむね一致しています。引き続き日頃から災害時における安否確認や避難体制を整備していくことが必要です。
- ◆災害時の情報収集手段の問いでは、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は「テレビ・ラジオ」「緊急速報エリアメール」「防災行政無線」の順、若年者調査は「緊急速報エリアメール」「テレビ・ラジオ」「インターネット」の順となっており、世代間で災害時における情報収集手段が異なっています。災害時における情報発信については、今後も広く様々なメディアやツールを用いて行うことが必要です。

6 相談窓口などについて

(1) 介護について相談したい相手

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、介護について相談したい相手を見ると、「家族」(60.7%)が最も高く、次いで「市役所の相談窓口」(44.2%)、「富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター」(14.4%)、「保健福祉総合支援センター」(14.1%)となっています。【ニーズ：問9(1) p.46】

○在宅介護実態調査において、介護について相談したい相手を見ると、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(59.0%)が最も高く、次いで「家族」(40.4%)、「市役所の相談窓口」(21.2%)となっています。【在宅：B問18 p.87】

(2) 介護に関する相談窓口を求めるもの

○在宅介護実態調査において、介護に関する相談窓口を求めるものをみると、「一箇所で様々なサービスの相談ができる窓口」(68.8%)が最も高く、次いで「担当者が専門的な知識を有している窓口」(44.1%)、「自宅からすぐ近くの場所にある窓口」(35.2%)、「24時間対応してくれる窓口」(24.1%)となっています。【在宅：B問19 p.88】

○若年者調査において、介護に関する相談窓口を求めるものをみると、「一箇所で様々なサービスの相談ができる窓口」(71.9%)が最も高く、次いで「担当者が専門的な知識を有している窓口」(60.6%)、「自宅からすぐ近くの場所にある窓口」(41.2%)、「24時間対応してくれる窓口」(28.1%)となっています。【若年：問26 p.112】

(3) 成年後見制度について

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、成年後見制度の周知状況を見ると、「言葉だけ知っている」(43.9%)が最も高く、次いで「内容を知っている」(28.7%)、「知らない」(22.7%)となっています。【ニーズ：問9(2) p.47】

○在宅介護実態調査において、成年後見制度の周知状況を見ると、要介護者は「知らない」(47.9%)が最も高く、次いで「言葉だけ知っている」(29.8%)、「内容を知っている」(16.9%)となっています。主な介護者は「言葉だけ知っている」(40.1%)が最も高く、次いで「内容を知っている」(24.1%)、「知らない」(23.2%)となっています。【在宅：A問19、B問20 p.75】

○若年者調査において、成年後見制度の周知状況を見ると、「言葉だけ知っている」(38.6%)が最も高く、次いで「内容を知っている」(34.4%)、「知らない」(25.5%)となっています。【若年：問27 p.123】

■課題分析(相談窓口などについて)

◆介護について相談したい相手の問いでは、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は「家族」「市役所の相談窓口」「富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター」の順、在宅介護実態調査は「ケアマネジャー(介護支援専門員)」「家族」「市役所の相談窓口」の順となっており、前回調査とおおむね一致しています。要介護認定を受けているか否かによって相談したい相手が異なっているため、介護保険制度に関する相談体制については、引き続き今後も市

の相談窓口やケアマネジャーを中心として行うことが必要です。

- ◆在宅介護実態調査や若年者調査において、介護に関する相談窓口に求めるものの問いでは、「一箇所で様々なサービスの相談ができる窓口」が最も高く、前回調査でも同様の傾向となっています。相談窓口に対しては依然としてワンストップによる希望が多いため、総合的な相談に対応できるよう、地域包括支援センターやケアマネジャーに対しての研修の充実や情報共有体制の整備が必要です。
- ◆介護予防・日常生活圏域ニーズ調査や在宅介護実態調査において、成年後見制度の周知状況を見ると、前回調査と比較しても順位と割合に大きな変化はみられません。一方、若年者調査では、「知らない」割合が低下し、「内容を知っている」「言葉だけ知っている」割合が増加しており、若年者において成年後見制度の認知度が上がっています。「内容を知っている」割合は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と若年者調査では3割前後、在宅介護実態調査では2割前後となっているため、引き続き周知を行うことが必要です。

7 将来の生活（介護の考え方を含む）について

（1）介護が必要になった場合の生活場所

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、介護が必要になった場合の生活場所をみると、「自宅で支援を受けながら生活したい」（46.4%）が最も高く、次いで「想像がつかず、わからない」（21.9%）、「介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設）などで生活したい」（21.7%）となっています。【ニーズ：問10（1） p.48】
- 在宅介護実態調査において、介護が必要になった場合の生活場所をみると、「自宅で支援を受けながら生活したい」（35.5%）が最も高く、次いで「介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設）などで生活したい」（20.9%）、「想像がつかず、わからない」（20.1%）となっています。【在宅：B問21 p.88】
- 若年者調査において、介護が必要になった場合の生活場所をみると、「自宅で支援を受けながら生活したい」（34.4%）が最も高く、次いで「介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設）などで生活したい」（23.9%）、「想像がつかず、わからない」（21.8%）となっています。【若年：問31 p.125】

（2）介護が必要になった場合の支援やサービス

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、自宅で生活を続けるために必要と思う支援やサービスをみると、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」（57.9%）が最も高く、次いで「訪問看護などの医療的ケア」（46.2%）、「希望する時間に利用できるデイサービス」（41.2%）、「往診してもらえる医療機関」（31.0%）、「24時間対応の訪問介護サービス」（27.7%）となっています。【ニーズ：問10（1）① p.49】
- 在宅介護実態調査において、自宅で生活を続けるために必要と思うことをみると、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」（50.8%）が最も高く、次いで「希望する時間に利用できるデイサービス」（34.7%）、「医療機関への通院の介助」（33.1%）、「24時間対応の訪問介護サービス」（29.8%）「訪問看護などの医療的ケア」（25.8%）となっています。

【在宅：B問21-1 p.89】

○若年者調査において、自宅で生活するために必要と思う支援やサービスをみると、「訪問看護などの医療的ケア」(51.9%)が最も高く、次いで「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」(45.0%)、「希望する時間に利用できるデイサービス」(43.5%)、「24時間対応の訪問介護サービス」(39.7%)、「緊急時でも利用できるショートステイ」(22.9%)となっています。【若年：問31① p.126】

■課題分析（将来の生活（介護の考え方を含む）について）

- ◆すべての調査において、介護が必要になった場合の生活場所の問いでは、「自宅で支援を受けながら生活したい」が4割前後で最も高くなっているため、地域包括ケアシステムの推進が必要となっています。一方で、すべての調査において「想像がつかず、わからない」が2割程度となっており、若年者においても介護保険制度を周知するとともに、要介護状態になる前に介護が必要となった場合について考える機会づくりをすることが必要です。
- ◆介護予防・日常生活圏域ニーズ調査や若年者調査において、自宅で生活するために必要と思う支援やサービスの問いでは、「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」「訪問看護などの医療的ケア」の順、在宅介護実態調査では「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」「希望する時間に利用できるデイサービス」の順となっており、実際に介護を受けている世帯か否かで項目の順位が異なります。また、すべての調査において、自宅で生活するためには「面倒を見てくれる家族」の存在が重要と考えていることから、在宅で介護を継続して行えるように家族に対する支援を充実させるとともに、家族のいない世帯でも在宅生活が維持できるように、介護サービスの充実や地域包括ケアシステムの推進を図っていくことが必要です。

資料編

資料編

1 電算処理の判定条件等

■リスクの判定条件

項目	判定条件	
運動器の機能低下	該当	・ 3点以上
	非該当	・ 0点以上2点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
閉じこもり傾向	該当	・ 1点
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 判定設問に無回答があった場合
認知機能の低下	該当	・ 1点
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 判定設問に無回答があった場合
うつ傾向	該当	・ 1点以上
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合

■運動器の機能低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問2-(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」：1点
問2-(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問2-(3)	15分位続けて歩いていますか	
問2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 または 「2. 1度ある」：1点
問2-(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」：1点

※3点以上：該当 0点以上2点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■閉じこもり傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問2-(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」または 「2. 週1回」：1点

※1点：該当 0点：非該当

※判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■ 認知機能の低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問4-(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」: 1点

※1点: 該当 0点: 非該当

※判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■ うつ傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問7-(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」: 1点
問7-(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	

※1点以上: 該当 0点: 非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■ IADL (手段的自立度) の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問4-(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」: 1点
問4-(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4-(4)	自分で食事の用意をしていますか	
問4-(5)	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4-(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

※5点: 問題なし 4点: やや低い 0~3点: 低い

※判定条件の設問に無回答が2項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

2 アンケート調査票

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

《第8期》
**介護予防・
日常生活圏域
ニーズ調査**

調査協力をお願いします

皆様には、日頃から介護保険行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
富谷市では高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定し、「高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしく生涯を過ごせるまちづくり」を基本理念に掲げて、あらゆる世代が元気に暮らす健康自慢のまち創りを進めています。
その計画の見直しを令和2年度に予定しており、このたび地域の課題や高齢者の皆様の要望(ニーズ)等を把握するためのアンケートを実施することとなりました。
この調査は、富谷市にお住まいの要介護認定を受けていない65歳以上の方の中から無作為に抽出した1,500名の方を対象としています。
なお、ご記入いただいた内容は、皆様の健康情報という大切な個人情報であるという認識にたち、富谷市個人情報保護条例に基づき適正に取扱うとともに前述以外の目的に使用することはありません。大変お忙しいとは存じますが、趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和2年1月
富谷市長 若生 裕俊

記入日	令和	年	月	日
※ 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名の本人が記入				
2. ご家族が記入(あて名のご本人から見た続柄 _____)				
3. その他				

ご記入後、お手数ですが、このアンケートを同封の返信用封筒に入れ、
1月31日(金)までに 郵便ポストへご投函ください。

<この調査に関するお問い合わせ先>
富谷市 保健福祉部 長寿福祉課
電話：022-358-0513 FAX：022-358-9915

ご記入にあたってのお願い

- この調査の対象となる方は、市内にお住まいで、令和元年11月25日現在65歳以上の要介護認定者(要支援1・要支援2の方)または要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方です。
- ご回答にあたっては表紙に記載の「あて名の本人」についてお答えいただけますが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、一緒に回答されてもかまいません。
- ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字を記入する欄は右詰めでご記入ください。(例 区)
- この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。
介護…介護保険サービスを受けている場合、または認定を受けていない場合においても常時ご家族などの援助を受けている状態
介助…ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態

※あて名のご本人(以下、「あなた」という)のお住まいの地区は、どこですか(○は1つ)

- 成田・大清水・上桜木
- 明石台
- 東向陽台
- 富ヶ丘・福乃社
- 日吉台・牡丹橋
- 太子堂・ひより台・グリーンヒル(一ノ関の一部)
- とちの木・あけの平
- 旧富谷地区(1～7以外地区)

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください(○は1つ)

- 1人暮らし
- 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- 息子・娘との2世代
- その他(例：孫を含む3世代同居等)

【(1)において「1. 1人暮らし」以外の方のみ】

① 日中、1人になることがありますか(○は1つ)

- よくある
- たまにある
- ない

1

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか(○は1つ)

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護・介助を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護・介助を受けている場合も含む)

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか(○は1つ)

1. 大変苦しい
2. やや苦しい
3. ふつう
4. ややゆとりがある
5. 大変ゆとりがある

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか(○は1つ)

1. 持家(一戸建て)
2. 持家(集合住宅)
3. 公営賃貸住宅(市営住宅)
4. 民間賃貸住宅(一戸建て)
5. 民間賃貸住宅(集合住宅)
6. 借家
7. その他(具体的に _____)

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(○は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(○は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(3) 15分位続けて歩いて歩いていますか(○は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか(○は1つ)

1. 何度もある
2. 1度ある
3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか(○は1つ)

1. とても不安である
2. やや不安である
3. あまり不安でない
4. 不安でない

2

(6) 週に1回以上は外出していますか(○は1つ)

1. ほとんど外出しない
2. 週1回
3. 週2～4回
4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が増えていますか(○は1つ)

1. とても減っている
2. 減っている
3. あまり減っていない
4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

【(8)で「1. はい」(外出を控えている)と回答した方のみ】

① 外出を控えている理由は、次のどれですか(○はいくつでも)

1. 病気
2. 障がい(脳卒中の後遺症など)
3. 足腰などの痛み
4. トイレの心配(失禁など)
5. 耳の障がい(聞こえの問題など)
6. 目の障がい
7. 外での楽しみがない
8. 経済的に出られない
9. 交通手段がない
10. その他(具体的に _____)

(9) 外出する際の移動手段は何ですか(○はいくつでも)

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク
4. 自動車(自分で運転)
5. 自動車(人に乗せてもらう)
6. 電車・地下鉄
7. 路線バス(宮城交通)
8. 市民バス
9. 病院や施設のバス
10. 車いす
11. 電動車いす(カート)
12. 歩行者・シルバーカー
13. タクシー
14. その他(具体的に _____)

(10) 運転免許証の返納について、どのように考えていますか。(○は1つ)

1. 運転免許証を取得したことがない
2. すでに返納した
3. 近々(1年以内)に返納予定
4. 5年以内に返納予定
5. 時期は決めていないが返納予定
6. 返納予定はない

3

【70歳以上の方のみ】

(11) とみばす[®]の利用の申請をしましたか。また、実際に利用はしていますか。(〇は1つ)

1. 申請し、利用したことがある(利用している)
2. 申請したが、まだ利用していない
3. 申請は、これからする予定
4. 申請するつもりはない
5. 申請対象外である

※「とみばす」：70歳以上の高齢者と障がい者手帳をお持ちの18歳以上の方を対象とした仙台市交通開発局のICカード(イクスカ)を活用した、外出支援乗車証です。この乗車証は仙台市地下鉄/バスや地下鉄等が利用でき、年間上限20,000円(料金は自己負担)が補助されます。

【(11)で「1. 申請し、利用したことがある(利用している)」と回答した方のみ】

① とみばすの2回目以降の入金申請をしましたか。(〇は1つ)

1. した
2. していない

【(11)①で「2. 申請したが、まだ利用していない」と回答した方のみ】

② 入金申請をしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 入金申請をするほど利用していない
2. 入金申請の手続きに行く時間がない
3. 入金申請の手続きに行く交通手段がない
4. 自分で入金を行っている
5. 入金申請の手続きの仕方がわからない
6. 入金申請の手続きが面倒
7. とみばすの仕組みがわからない
8. その他(具体的に)

【(11)で「4. 申請するつもりはない」と回答した方のみ】

③ とみばすを申請しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 自家用車等(本人運転)を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない
2. 自家用車等(家族等運転)を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない
3. 体調の問題等により、バスや地下鉄等を利用できない
4. 近くに公共交通機関がない
5. 徒歩で行ける範囲のみの移動しかない
6. 外出する機会がない
7. 申請が面倒
8. とみばすの制度や使い方がわからない
9. その他(具体的に)

4

問3 食べることにについて

(1) 身長・体重(最近測定した数字を記入)

身長 cm 体重 kg

(2) 半年前に比べて重いものが食べにくくなりましたか(〇は1つ)

1. はい
2. いいえ

(3) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(〇は1つ)
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用なし
2. 自分の歯は20本以上、入れ歯を利用
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
4. 自分の歯は19本以下、入れ歯を利用なし

(4) どなたかと食事をとる機会がありますか(〇は1つ)

1. 毎日ある
2. 週に何度かある
3. 月に何度かある
4. 年に何度かある
5. ほとんどない

問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか(〇は1つ)

1. はい
2. いいえ

(2) バスや電車を一人で外出していますか(自家用車でも可)(〇は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか(〇は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(4) 自分で食事の用意をしていますか(〇は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

5

(6) 自分で請求書の支払いをしていますか(〇は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか(〇は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(7) 趣味はありますか。それは何ですか(〇は1つ)

1. 趣味あり → (主なもの1つ:)
2. 思いつかない

(8) 生きがいがありますか。それは何ですか(〇は1つ)

1. 生きがいあり → (主なもの1つ:)
2. 思いつかない

6

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①-⑭それぞれに回答してください(それぞれ〇は1つ)

区 分	週4回以上	週3回	週1回	月1回	年に数回	参加していません
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ ゆとりすとクラブサロン ^{※1}	1	2	3	4	5	6
⑥ 街かどカフェ ^{※2}	1	2	3	4	5	6
⑦ 福祉健康センター ^{※3}	1	2	3	4	5	6
⑧ 近隣でのお茶飲み会 など	1	2	3	4	5	6
⑨ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑩ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6

※1 「ゆとりすとクラブサロン」：身近な地区の会館や公民館等で、地域リポーターの支援のもとお茶飲みやレクリエーションなどを行うことにより、高齢者の障しこり予防や生きがいづくりにつなげる事業。
 ※2 「街かどカフェ」：地域の方々が住み慣れた地域で安心して自分らしく生活を継続できるよう、地域の幅広い世代の方々が集い出会う地域の居場所。
 ※3 「福祉健康センター」：市民の皆様(おおむね60歳以上の方々)が、ふれあいの場・健康づくりの場、そして生きがい活動の場として、気軽に利用できる施設。

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか(〇は1つ)

1. 既に参加している
2. 是非参加したい
3. 参加してもよい
4. 参加したくない

7

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか (〇は1つ)

1. 既に参加している
2. 是非参加したい
3. 参加してもよい
4. 参加したくない

(4) あなたは地域でどんな支援ができると思いますか (〇はいくつでも)

1. 配食の手伝い
2. 調理
3. 掃除・洗濯
4. 買い物代行
5. 外出同行(通院、散歩など)
6. ゴミ出し
7. 見守り、声かけ
8. サロンなど、通いの場のサポート
9. 外出時の送迎
10. 運動事業の手助け
11. 施設でのボランティア(話し相手等)
12. その他(具体的に)

問6 たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(〇はいくつでも)

1. 配偶者
2. 同居の子ども
3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣
6. 友人
7. その他()
8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(〇はいくつでも)

1. 配偶者
2. 同居の子ども
3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣
6. 友人
7. その他()
8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(〇はいくつでも)

1. 配偶者
2. 同居の子ども
3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣
6. 友人
7. その他()
8. そのような人はいない

8

(4) 反対に、あなたが看病や世話をしてくれる人(〇はいくつでも)

1. 配偶者
2. 同居の子ども
3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣
6. 友人
7. その他()
8. そのような人はいない

(5) 福祉避難所を知っていますか(〇は1つ)

1. 内容を知っている
2. 言葉だけ知っている
3. 知らない

※「福祉避難所」：災害時に在宅の高齢者、障がい者その他の特に配慮を要する方で指定の避難所での生活が困難な要支援者を福祉施設で受け入れ、緊急な生活を確保できるようにします。市では、福祉施設との受入協定を6団体の法人等と結んでいます。なお、福祉避難所は災害時に状況に応じ、調整を図った上での利用となります(担当は長寿福祉課です)。

(6) 災害時に、不安に感じることのようなことですか(〇はいくつでも)

1. 災害に関する情報を教えてくれる人がいない
2. 避難などを手伝ってくれる人がいない
3. どこに避難すればいいかわからない
4. 避難所では生活できない
5. 家族の安否確認がとれない
6. 家が壊れるかもしれない
7. 病気の治療ができない
8. 日用品が手に入らない
9. ライフラインの切断
10. 災害に備えて備蓄など、何を用意していいかわからない
11. その他(具体的に)
12. 特にない

(7) 市からの災害に関する情報をどのように得ていますか(〇は3つまで)

1. テレビ・ラジオ
2. 防災行政無線
3. 緊急速報エリアメール
4. 市の安全安心メール
5. インターネット
6. 隣近所から
7. その他(具体的に)

問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか(〇は1つ)

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. よくない

9

(2) あなたは、現在の程度幸せですか(〇は1つ)
「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください

とても不幸 0点 1点 2点 3点 4点 5点 6点 7点 8点 9点 10点 とても幸せ

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか(〇は1つ)

1. はい
2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか(〇は1つ)

1. はい
2. いいえ

(5) タバコは吸っていますか(〇は1つ)

1. ほぼ毎日吸っている
2. 時々吸っている
3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

(6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(〇はいくつでも)

1. ない
2. 高血圧
3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
4. 心臓病
5. 糖尿病
6. 高脂血症(脂質異常)
7. 呼吸器の病気(肺炎や気管炎等)
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9. 腎臓・前立腺の病気
10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)
11. 外傷(転倒・骨折等)
12. がん(悪性新生物)
13. 血液・免疫の病気
14. うつ病
15. 認知症(アルツハイマー病等)
16. パーキンソン病
17. 目の病気
18. 耳の病気
19. その他()

(7) 現在、病院・医院(診療所、クリニック)などに通院していますか(〇は1つ)

1. はい
2. いいえ

(8) 過去1年以内に健診や人間ドックを受けましたか(〇は1つ)

1. 市の健診を受けた
2. 職場の健診を受けた
3. かかりつけの病院等で健診・検査を受けた
4. 受けていない

10

【(8)で「4. 受けていない」と回答した方のみ】

① 健診や人間ドックを受けなかった(受けない)最も大きな理由は何ですか(〇は1つ)

1. 時間がなかった
2. 検査結果が悪いと怖い
3. 入院中、自宅療養中だった
4. 費用(自己負担がかかる)
5. 検査があることを知らなかった
6. 健康には自信があるため必要なかった
7. その他(具体的に)

(9) 健康のために意識していることや取り組んでいることはありますか(〇は3つまで)

1. スポーツ(具体的に)
2. 散歩やウォーキング
3. ラジオ体操
4. 食事(栄養のバランスや量など)
5. 規則正しい生活(早寝早起きや十分な睡眠など)
6. 心の健康づくり(ストレス解消など)
7. 酒を控える
8. 煙草を控える
9. ボランティア活動
10. 働くこと
11. 定期的に健康診断を受けること
12. 趣味や楽しみを持つ
13. 地域活動などへの社会参加
14. 歯磨きを励行
15. 文章を書くなど頭をつかうようにしている
16. 家事(調理・洗濯・掃除)
17. 意識して外出する
18. その他(具体的に)
19. 特にない

【(9)で「19. 特にない」と回答した方のみ】

① 取り組めない理由は何ですか(〇はいくつでも)

1. 何をしたらいいかわからない
2. 健康づくりをしている場所がわからない
3. 時間が足りない
4. 方法などを教えてくれる人がいない
5. 必要性を感じていない
6. ひとりでは長続きしない
7. 気持ちや体力的に余裕がない
8. 取り組んでも状態が悪くなると思わない
9. その他(具体的に)

11

問8 家庭や地域での役割や毎日の行動について

- (1) 就労していますか (〇は1つ)
 - 1. 就労している
 - 2. 就労していない
- (2) 隣近所の方と、どのようなお付き合いをしていますか (〇は1つ)
 - 1. 日頃から行き来し、親しくお付き合いしている
 - 2. たまにお茶のみなどで行き来する程度
 - 3. たまに、立ち話をする程度
 - 4. 会えばあいさつをする程度
 - 5. まったくない
- (3) 生きがいや楽しみのある生活のためにやっていることは何ですか (〇は3つまで)
 - 1. 働くこと
 - 2. 家族との団らん
 - 3. 趣味・高い事 (具体的に)
 - 4. 運動 (具体的に)
 - 5. 旅行・ドライブ
 - 6. 美容・おしゃれに關すること
 - 7. 外出 (買い物・映画等)
 - 8. 友人・仲間と過ごす時間
 - 9. 老人クラブ活動
 - 10. 町内会、育成会などの地域活動
 - 11. ボランティア活動に参加すること
 - 12. ゆとりすとクラブ・サロンでの活動
 - 13. 街かどカフェでの活動
 - 14. 福祉健康センターでの活動
 - 15. その他 (具体的に)
 - 16. 特になし

12

問9 相談窓口について

- (1) 介護について、どこに相談したいと思えますか (〇は3つまで)
 - 1. 家族
 - 2. 親類
 - 3. 友人・知人
 - 4. 隣近所の人
 - 5. 市役所の相談窓口
 - 6. 保健福祉総合支援センター
 - 7. 富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター^{※1}
 - 8. 東向陽台・成田圏域地域包括支援センター^{※2}
 - 9. 富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター^{※3}
 - 10. 社会福祉協議会
 - 11. ケアマネジャー (介護支援専門員)
 - 12. 介護サービスを利用する事業所の職員 (ホームヘルパーなど)
 - 13. 民生委員・児童委員
 - 14. 病院や診療所の医師・薬局や薬剤師など
 - 15. インターネット上のコミュニティ・サイト (SNSなど)
 - 16. その他 (具体的に)
 - 17. 相談したいが、相談する相手がない
 - 18. だれにも相談しない
 - 19. わからない
- ※1「富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター」
愛称「いちいち」。担当地区は富ヶ丘、日吉台、薮乃社、杜乃庵
- ※2「東向陽台・成田圏域地域包括支援センター」
愛称「さくら」。担当地区は東向陽台、明石台、成田、大清水、上程木
- ※3「富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター」
愛称「わかば」。担当地区は旧富谷地区、ひより台、あけの平、とちの木、太子堂
- (2) 「成年後見制度」[※]について、知っていますか (〇は1つ)
 - 1. 内容を知らない
 - 2. 言葉だけ知っている
 - 3. 知らない
- ※ 「成年後見制度」：認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が十分ではない人の預貯金の管理など (財産管理) や日常生活での様々な契約など (身上監護) を、支援していく制度です。

13

問10 今後の介護について

- (1) あなた自身に介護が必要となった場合に、どのような介護を受けながら生活したいと思えますか (〇は1つ)
 - 1. 自宅で支援を受けながら生活したい
 - 2. 介護施設 (特別養護老人ホーム・老人保健施設) などで生活したい
 - 3. 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などで生活したい
 - 4. その他 (具体的に)
 - 5. 想像がつかず、わからない
- 【(1) で「1. 自宅で支援を受けながら生活したい」と回答した方のみ】
 - ① ご自宅で生活を続けるために、どのような支援やサービスが必要だと思いますか (〇は3つまで)
 - 1. 自宅で面会してくれる家族がいる
 - 2. 24時間対応の訪問介護サービス
 - 3. 希望する時期に利用できるサービス
 - 4. 緊急時でも利用できるショートステイ
 - 5. 訪問看護などの医療的ケア
 - 6. 救急・夜間医療の充実
 - 7. 災害など、緊急時の避難の手助け
 - 8. 医療機関への通院の介助
 - 9. 往診してもらえる医療機関
 - 10. 地域の人からの支援
 - 11. 金銭管理についての支援
 - 12. その他 (具体的に)

14

- (2) 今後、認知症の方が増加することが予想されますが、認知症になっても安心して生活するために必要なことは、どのような事と思われますか (〇は3つまで)
 - 1. 地域の人たちが、認知症についての正しい知識を習得する機会を持つ
 - 2. 認知症の専門相談窓口の拡充
 - 3. 認知症患者を抱える家族に対する支援
 - 4. 在宅で生活するための介護サービスの充実
 - 5. グループホーム^{※1}などの施設の整備
 - 6. 地域住人の見守りや支援があること
 - 7. 認知症であっても権利や財産が守られること
 - 8. 介護・医療などのネットワーク強化
 - 9. 認知症ケアバス^{※2}の普及・活用
 - 10. SOS ネットワークシステム^{※3}の活用
 - 11. その他 (具体的に)
 - 12. 特になし
- ※1 「グループホーム」：認知症のため介護を必要とする方が、少人数で共同生活をする施設で、入浴や食事、排せつなどの介護、日常生活の世話や機能訓練を行います。
- ※2 「認知症ケアバス」：認知症の人やその家族が、認知症と疑われる症状が発生した時からの運行状況に合わせて、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいかの情報を示すものです。
- ※3 「SOS ネットワークシステム」：認知症の高齢者が徘徊等所在不明になった場合に、SOS ネットワークの事務局である大和警察署生活安全課を通じてネットワークに手配します。事前登録もできますので、いざという時に早めの対応が図れます。
- (3) 最後に、市の高齢者福祉サービスやその他のまちづくりに関するご意見・ご要望がございましたら、自由に記入ください

ご協力ありがとうございました。記入もれがないか、今一度お確かめください。
1月31日 (金) までに郵便ポストに投函してください。

15

(2) 在宅介護実態調査

在宅介護実態調査票
《要介護認定者用》

調査協力をお願い

皆様には、日頃から介護保険行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

近年、高齢者人口の増加にともなう様々な課題に対し、地域包括ケアシステムをより深化させ、高齢者の自立支援及び要介護度の重篤化防止など、介護を必要とする高齢者等が自分らしく在宅生活を続けられるための体制整備が求められています。また、家族介護者の介護離職等をなくすため、地域住民が役割を持ち、支え合いながら活躍できる「地域共生社会」の実現に向けた介護サービスのあり方が課題となっています。

富谷市では現在、「高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしく生涯を過ごす暮らしづくり」を基本理念に据えて、あらゆる世代が元気に暮らす健康自慢のまち創りを進めており、令和2年度には第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定を予定しています。

このため、富谷市にお住まいの65歳以上の要介護認定者（以下「要介護者」という。）及びその介護者を対象とするアンケートを実施することとなりました。

本調査で得られた情報は、第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定及び効果評価の目的以外には使用することはありません。また、当該情報は富谷市個人情報保護条例に則り富谷市で慎重かつ適正に管理いたします。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和2年1月
富谷市長 若生 裕俊

ご記入後、お手数ですが、このアンケートを同封の返信用封筒に入れ、
1月31日（金）までに 郵便ポストへご投函ください。

＜この調査に関するお問い合わせ先＞
富谷市 保健福祉部 長寿福祉課
電話：022-358-0513 FAX：022-358-9915

ご記入にあたってのお願い

- この調査は、要介護者ご本人及び主な介護者の方についてお答えいただくアンケートです。各設問には、令和元年12月の状況でご回答ください。
- 回答は、選択肢に○を付けていただく場合と、記述していただく場合があります。回答は、設問ごとに示している指示に従ってください。
- 選択された回答によっては、次に進む設問が異なる場合があります。特にことわりのない場合は次の設問に、ことわり書きや矢印がある場合は指示に従い、次へお進みください。

※あて名のご本人のお住まいの地区は、どこですか（○は1つ）

- 成田・大清水・上塚木
- 明石台
- 東向陽台
- 富ヶ丘・鷹乃社
- 日吉台・杜乃橋
- 太子堂・ひより台・グリーンヒル（一ノ岡の一部）
- とらの木・あけの平
- 旧富谷地区（1～7以外の地区）

A票 調査対象者様ご本人について、お伺いします

問1 現在、この調査票に回答されているのはどなたですか。（○はいくつでも）

- 調査対象者本人
- 主な介護者となっている家族・親族
- 主な介護者以外の家族・親族
- その他（ ）

問2 世帯類型について、ご回答ください（○は1つ）

- 単身世帯
- 夫婦のみ世帯
- その他（ ）

問3 ご本人の性別について、ご回答ください（○は1つ）

- 男性
- 女性

問4 ご本人の年齢について、ご回答ください（○は1つ）

- 65歳未満
- 65～69歳
- 70～74歳
- 75～79歳
- 80～84歳
- 85～89歳
- 90歳以上

1

問5 ご本人の要介護度について、ご回答ください（○は1つ）

- 要支援1
- 要支援2
- 要介護1
- 要介護2
- 要介護3
- 要介護4
- 要介護5
- わからない

問6 現時点での、施設等[※]への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（○は1つ）

- 入所・入居は検討していない
- 入所・入居を検討している
- すでに入所・入居の申し込みをしている

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問7 ご本人が、現在抱えている傷病名を教えてください。（○はいくつでも）

- 脳血管疾患（脳卒中）
- 心疾患（心臓病）
- 悪性新生物（がん）
- 呼吸器疾患
- 腎疾患（透析）
- 筋骨格系疾患（骨粗しょう症、関節炎等）
- 膠原病（関節リウマチ含む）
- 変形性関節疾患
- 認知症
- パーキンソン病
- 難病（パーキンソン病を除く）
- 糖尿病
- 眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）
- その他（ ）
- なし
- わからない

問8 令和元年12月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか（○は1つ）

- 利用した ⇒ 問9へ
- 利用していない ⇒ 問11へ

2

問9 問8で「1. 利用した」と回答した方にお伺いします。
以下の介護保険サービスについて、令和元年12月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は「利用していない（0回、1. 利用していない）」を選択してください（それぞれ○は1つ）

	1週間あたりの利用回数（それぞれ1つに○）					
	利用していない	1回程度	2回程度	3回程度	4回程度	5回以上
(回答例) ●サービス	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
A. 訪問介護（ホームヘルプサービス）	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
B. 訪問入浴介護	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
C. 訪問看護	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
D. 訪問リハビリテーション	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
E. 通所介護（デイサービス）	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
F. 通所リハビリテーション（デイケア）	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
G. 夜間対応型訪問介護（お泊りあて訪問）	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上

利用の有無（1つに○）	
H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1. 利用していない 2. 利用した
I. 小規模多機能型居宅介護	1. 利用していない 2. 利用した
J. 小規模多機能型居宅介護	1. 利用していない 2. 利用した

	1か月あたりの利用日数（1つに○）				
	利用していない	月1～7日程度	月8～14日程度	月15～21日程度	月22日以上
K. ショートステイ	0日	1～7日	8～14日	15～21日	22日以上

	1か月あたりの利用回数（1つに○）				
	利用していない	1回程度	2回程度	3回程度	4回程度
L. 居宅療養管理指導	0回	1回	2回	3回	4回

3

問 10 問 8 で「1. 利用した」と回答した方にお伺いします。
あなたが利用しているサービスに対して、どれくらい満足していますか。
(○は1つ)

1. 満足	2. おおむね満足
3. やや不満	4. 不満

問 11 問 8 で「2. 利用していない」と回答した方にお伺いします。
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
- 本人(要介護者)にサービス利用の希望がない
- 家族が介護をするため必要ない
- 以前、利用していたサービスに不満があった
- 利用料を支払うのが難しい
- 利用したいサービスが利用できない、身近にない
- 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため
- サービスを利用したいが手続きや利用方法が分からない
- その他(具体的に)

問 12 現在、「介護保険サービス以外」の支援・サービスは、何を利用していますか。
(○はいくつでも)

1. 配食	2. 調理
3. 掃除・洗濯	4. 買い物(宅配は含まない)
5. ゴミ出し	6. 外出同行(通院、買い物など)
7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)	8. 見守り、声かけ
9. サロンなどの定期的な通いの場	10. その他()

11. 利用していない

4

問 13 家族や親族の方から介護してもらう日は、週にどのくらいありますか。(○は1つ)
(同居していない子どもや親族の方等からの介護も含みます。)

- ない
- 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
- 週に1～2日ある
- 週に3～4日ある
- ほぼ毎日ある

問 14 ご本人(要介護者)が、主に通院している医療機関の地域はどこですか。
(○は1つ)

1. 市内	2. 仙台市(泉区)
3. 仙台市(泉区以外)	4. 大和向方面
5. 利府町方面	6. その他の地域 (具体的に)

7. 往診のため、通院していない

問 15 問 14 で「1」～「6」のいずれかの地域の医療機関に通院していると回答した方
にお伺いします。
医療機関への主な移動手段は何ですか。(○は1つ)

1. 徒歩	2. 自転車
3. バイク	4. 自動車(自分で運転)
5. 自動車(人に乗せてもらう)	6. 電車・地下鉄
7. 市民バス	8. 路線バス
9. 専用のバス(病院等の)	10. 電動車いす(セニアカー)
11. タクシー	12. 介護タクシー
13. その他(具体的に)	

5

問 16 ご本人(要介護者)が、生きがいや楽しみのある生活のためにやっていることは
何ですか。(○は3つまで)

1. 家族との回らん	2. 趣味・遊び事(具体的に)
3. 運動(具体的に)	4. 旅行・ドライブ
5. 美容・おしゃれに関すること	6. 外出(買い物・映画等)
7. 友人・仲間と過ごす時間	8. 老人クラブ活動
9. 町内会、育成会などの地域活動	10. 隣近所とのお茶のみ
11. 通所サービス利用時の活動 (デイサービスなど)	12. 訪問サービス利用時の活動 (ヘルパーの訪問など)
13. テレビ・ラジオ	14. その他(具体的に)

15. 特になし

問 17 ご本人(要介護者)は、隣近所の方と、どのようなお付き合いをしていますか。
(○は1つ)

1. 日頃から行き来し、親しくお付き合いしている	2. たまにお茶のみなどで行き来する程度
3. たまに、立ち話をする程度	4. 会話はあいさつをする程度

5. まったくない

問 18 ご本人(要介護者)は、家族以外で、地域の中に話をする相手がありますか。
(○は1つ)

1. 話し相手がいる	2. 話をしたいが相手がない
------------	----------------

3. 話し相手を必要としない

問 19 ご本人(要介護者)は、「成年後見制度」[※]について、知っていますか(○は1つ)

1. 内容を知っている	2. 言葉だけ知っている	3. 知らない
-------------	--------------	---------

※「成年後見制度」：認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でない人の財産の管理など(財産管理)や日常生活での様々な契約など(身上監護)を、支援していく制度です。

6

問 20 ご本人(要介護者)が、ご自宅で生活を続けるために、どのような支援やサービス
が必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 自宅で面倒を見てくれる家族がいる	2. 24時間対応の訪問介護サービス
3. 希望する時間に利用できるデイサービス	4. 緊急時でも利用できるショートステイ
5. 訪問看護などの医療的ケア	6. 救急・夜間医療の充実
7. 災害など、緊急時の避難の手助け	8. 医療機関への通院の介助
9. 往診してもらえる医療機関	10. 地域の人からの支援
11. 金銭管理についての支援	

12. その他(具体的に)

7

B票 主な介護者の方について、お伺いします

問1 ご家族や親族の方で、ご本人（要介護者）の介護のために、過去1年の間に仕事[※]を辞めた方・転職された方はありますか。（〇はいくつでも）
（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。）

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※自営業や農林水産業の仕事は辞めた・転職した場合も含まれます。

問2 主な介護者の方は、ご本人（要介護者）から見てどなたになりますか。（〇は1つ）

1. 配偶者
2. 子
3. 子の配偶者
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他（ ）

問3 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（〇は1つ）

1. 男性
2. 女性

問4 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（〇は1つ）

1. 20歳未満
2. 20～29歳
3. 30～39歳
4. 40～49歳
5. 50～59歳
6. 60～69歳
7. 70～79歳
8. 80歳以上
9. わからない

8

問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（〇はいくつでも）

【身体介護】

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助（食べる時）
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
6. 衣服の着脱
7. 屋内での移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症への対応
11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）

【生活援助】

12. 食事の準備（調理等）
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）
14. 金銭管理や生活面に必要な手続き

【その他】

15. その他（ ）
16. わからない

問6 （在宅生活を送る要介護者を介護している）現在の生活を今後も続けていくためには、主な介護者の方が不安を感じる介護等はどれですか。（〇は3つまで）
（現在行っているかどうかは問いません。）

【身体介護】

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助（食べる時）
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
6. 衣服の着脱
7. 屋内での移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症への対応
11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）

【生活援助】

12. 食事の準備（調理等）
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）
14. 金銭管理や生活面に必要な手続き

【その他】

15. その他（ ）
16. 不安を感じていることは、特にない
17. わからない

9

問7 主な介護者の方の現在の勤務形態はどれに該当しますか。（〇は1つ）

1. フルタイムで働いている
2. パートタイム[※]で働いている
3. 働いていない
4. わからない

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問8 「フルタイムまたはパートタイムで働いている」主な介護者の方にお伺いします。介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか。（〇はいくつでも）

1. 特に調整していない
2. 介護のために、「労働時間調整（就業免除、短時間勤務、選出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. わからない

問9 「フルタイムまたはパートタイムで働いている」主な介護者の方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（〇は1つ）

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. わからない

問10 主な介護者の方は、ご自身の自由な時間がとれていますか。（〇は1つ）

1. 適度にとれている
2. まあまあとれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない

10

問11 主な介護者の方が介護をできない場合、代わりにしてくれる方はいますか。（〇はいくつでも）

1. 配偶者
2. 子ども
3. 子どもの配偶者
4. 孫
5. 兄弟姉妹
6. 隣近所の人
7. その他（具体的に）
8. いない

問12 主な介護者の方が特に負担に感じていることは何ですか。（〇は3つまで）

1. 介護の方法がわからない
2. 家族の理解や協力が足りない
3. 体力的に負担が大きい
4. 精神的に負担が大きい
5. 自分の時間が持てない
6. 経済的な負担が大きい
7. 近隣の人の理解が足りない
8. その他（具体的に）
9. 特にない

問13 今後、認知症の方が増加することが予想されますが、認知症になっても安心して生活するために必要なことは、どのような事と思われるか。（〇は3つまで）

1. 地域の人たちが、認知症についての正しい知識を得る機会を持つ
2. 認知症の専門相談窓口の拡充
3. 認知症患者を抱える家族に対する支援
4. 在宅で生活するための介護サービスの充実
5. グループホーム^{※1}などの施設の整備
6. 地域住人の見守りや支援があること
7. 認知症であっても権利や財産が守られること
8. 介護・医療などのネットワーク強化
9. 認知症ケアバス^{※2}の普及・活用
10. SOSネットワークシステム^{※3}の活用
11. その他（具体的に）
12. 特にない

※1 「グループホーム」：認知症のため介護を必要とする方が、少人数で共同生活をする施設で、入浴や食事、排せつなどの介護、日常生活の世話や機能訓練を行います。

※2 「認知症ケアバス」：認知症の人やその家族が、認知症と疑われる症状が発生した時からの運行状況に合わせて、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受けられるかの情報を示すものです。

※3 「SOSネットワークシステム」：認知症の高齢者が徘徊等で所在不明になった場合に、SOSネットワークの事務局である大和警察署生活安全課を通じてネットワークに手配します。事前登録もできますので、いざという時に早めの対応が図れます。

11

問14 主な介護者の方は、隣近所の方と、どのようなお付き合いをしていますか。(〇は1つ)

- 1. 日通から行き来し、親しくお付き合いしている
- 2. たまにお茶のみなどで行き来する程度
- 3. たまに、立ち話をする程度
- 4. 会えばあいさつをする程度
- 5. まったくない

問15 主な介護者の方には、家族以外で、介護の悩みを相談するなど、地域の中に話をする相手がありますか。(〇は1つ)

- 1. 話し相手がいる
- 2. 話をしたいが相手がいない
- 3. 話し相手が必要としない

問16 主な介護者の方は、福祉避難所[※]を知っていますか。(〇は1つ)

- 1. 内容を知っている
- 2. 言葉だけ知っている
- 3. 知らない

※「福祉避難所」：災害時に在宅の高齢者、障がい者その他の特に配慮を要する方での滞在の避難所での生活が困難な要支援者を福祉施設で受け入れ、緊急な生活の確保ができるようにします。市では、福祉施設との受入協定を6団体の法人等と結んでいます。
なお、福祉避難所は、災害時に状況に準じ、調整を要した上で利用となります（担当は長寿福祉課です）。

問17 主な介護者の方が、災害時に、不安に感じることとはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 1. 災害に関する情報を教えてくれる人がいない
- 2. 避難などを手伝ってくれる人がいない
- 3. どこに避難すればいいかわからない
- 4. 避難所では生活できない
- 5. 家族の安否確認がとれない
- 6. 家が壊れるかもしれない
- 7. 病気の治療ができない
- 8. 日用品が手に入らない
- 9. ライフラインの切断
- 10. 災害に備えて備蓄など、何を用意してよいかわからない
- 11. その他（具体的に）
- 12. 特になし

)

12

問18 主な介護者の方は、介護について、どこに相談したいと思いますか。(〇は3つまで)

- 1. 家族
- 2. 親類
- 3. 友人・知人
- 4. 隣近所の人
- 5. 市役所の相談窓口
- 6. 保健福祉総合支援センター
- 7. 富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター^{※1}
- 8. 東向陽台・成田圏域地域包括支援センター^{※2}
- 9. 富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター^{※3}
- 10. 社会福祉協議会
- 11. ケアマネジャー（介護支援専門員）
- 12. 介護サービスを利用する事業所の職員（ホームヘルパーなど）
- 13. 民生委員・児童委員
- 14. 病院や診療所の医師・薬局や薬剤師など
- 15. インターネット上のコミュニティ・サイト（SNSなど）
- 16. その他（具体的に）
- 17. 相談したいが、相談する相手がいない
- 18. だれにも相談しない
- 19. わからない

※1「富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター」
愛称「いちい」。担当地区は富ヶ丘、日吉台、葛乃社、牡丹橋
※2「東向陽台・成田圏域地域包括支援センター」
愛称「さくら」。担当地区は東向陽台、明石台、成田、大清水、上榎木
※3「富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター」
愛称「わかば」。担当地区は旧富谷地区、ひより台、あけの平、あけの木、太子堂

問19 主な介護者の方が、介護に関する相談窓口[※]に求めるものは何ですか。(〇は3つまで)

- 1. 一箇所で様々なサービスの相談ができる窓口
- 2. 自宅からすぐ近くの場所にある窓口
- 3. 担当者が専門的な知識を有している
- 4. 24時間対応してくれる窓口
- 5. その他（具体的に）
- 6. 特になし

)

問20 主な介護者の方は、「成年後見制度」[※]について、知っていますか。(〇は1つ)

- 1. 内容を知っている
- 2. 言葉だけ知っている
- 3. 知らない

※「成年後見制度」：認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が十分にない人の財産の管理など（財産管理）や日常生活での様々な契約など（身上監護）を、支援していく制度です。

13

問21 主な介護者の方自身に介護が必要となった場合に、どのような介護を受けながら生活したいと思いますか。(〇は1つ)

- 1. 自宅で支援を受けながら生活したい
- 2. 介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設）などで生活したい
- 3. 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などで生活したい
- 4. その他（具体的に）
- 5. 想像がつかず、わからない

)

問21-1 問21で「1. 自宅で支援を受けながら生活したい」と回答した方のみにお伺いします。
主な介護者の方がご自宅で生活を続けるために、どのようなことが必要だと思いますか（〇は3つまで）

- 1. 自宅で面倒を見てくれる家族がいる
- 2. 24時間対応の訪問介護サービス
- 3. 希望する時間に利用できるデイサービス
- 4. 緊急時でも利用できるショートステイ
- 5. 訪問看護などの医療的ケア
- 6. 救急・夜間医療の充実
- 7. 災害などの緊急時の、避難の手助け
- 8. 医療機関への通院の介助
- 9. 往診してもらえる医療機関
- 10. 地域の人からの支援
- 11. 金銭管理についての支援
- 12. その他（具体的に）

)

問22 最後に、市の高齢者福祉サービスやその他のまちづくりに関するご意見・ご要望がございましたら、自由に記入ください

ご協力ありがとうございました。
記入もれがないか、今一度お確かめください。
1月31日（金）までに郵便ポストへご投函ください。

14

(3) 介護保険事業計画策定のための実態調査(若年調査)

**《第8期》
介護保険事業計画
策定のための
実態調査**

調査協力をお願い

皆様には、日頃から介護保険行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
富谷市では高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定し、「高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしく生活を過ごせるまちづくり」を基本理念に掲げて、あらゆる世代が元気に暮らす健康自覚のまち創りを進めています。
その計画の見直しを令和2年度に予定しており、このたび地域の課題や皆様の要望(ニーズ)等を把握するためのアンケートを実施することとなりました。
この調査は、富谷市にお住まいの40歳から64歳までの方の中から無作為に抽出した800名の方を対象としています。
なお、ご記入いただいた内容は、皆様の健康情報という大切な個人情報であるという認識にたち、富谷市個人情報保護条例に基づき適正に取扱うとともに前述以外の目的に使用することはありません。大変お忙しいとは存じますが、種々をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和2年1月
富谷市長 若生 裕俊

記入日	令和	年	月	日
※ 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入				
2. ご家族が記入(あて名のご本人からみた続柄 _____)				
3. その他				

ご記入後、お手数ですが、このアンケートを同封の返信用封筒に入れ、
1月31日(金)までに 郵便ポストへご投函ください。

＜この調査に関するお問い合わせ先＞
富谷市 保健福祉部 長寿福祉課
電話：022-358-0513 FAX：022-358-9915

ご記入にあたってのお願い

- この調査の対象となる方は、市内にお住まいで、令和元年11月25日現在40歳から64歳までの方です。
- ご回答にあたっては表紙に記載の「あて名のご本人」についてお答えいただきませんが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、一緒に回答されてもかまいません。
- この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。
介護…介護保険サービスを受けている場合、または認定を受けていない場合においても常時ご家族などの援助を受けている状態
介助…ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態

あなたご自身のことについて

問1 あて名のご本人(以下、「あなた」という)の性別について、ご回答ください(○は1つ)
1. 男性 2. 女性

問2 あなたの年齢について、ご回答ください(○は1つ)
1. 40～44歳 2. 45～49歳
3. 50～54歳 4. 55～59歳
5. 60～64歳

問3 あなたのお住まいの地区は、どこですか(○は1つ)
1. 成田・大清水・上桜木 2. 明石台
3. 東向陽台 4. 富ヶ丘・鷹乃社
5. 日吉台・杜乃橋 6. 太子堂・ひより台・グリーンビル(一ノ関の一部)
7. どちらの木・あけの平 8. 旧富谷地区(1～7以外の地区)

問4 あなたの家族構成は、次のうちどれですか(○は1つ)
1. 1人暮らし 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) 4. 息子・娘との2世代
5. その他(例：単身者3世代同居等)

1

問5 あなたは、日中、主に誰とお過ごしですか(○は1つ)
1. 家族といることが多い 2. ひとりであることが多い
3. 隣近所の人・友人といることが多い 4. 職場などで同僚といることが多い
5. その他(具体的に)

あなた自身の健康状況について

問6 あなたは、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(○はいくつでも)
1. 高血圧 2. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
3. 心臓病 4. 糖尿病
5. 脂質異常(高脂血症) 6. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)
7. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 8. 腎臓・前立腺の病気
9. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等) 10. 外傷(転倒・骨折等)
11. がん(悪性新生物) 12. 血液・免疫の病気
13. 精神疾患(うつ病等) 14. 認知症(アルツハイマー病等)
15. 神経難病(パーキンソン病等) 16. 目の病気
17. 耳と鼻の病気 18. 歯の病気(むし歯や歯周病等)
19. その他(具体的に) 20. ない

問7 過去1年以内に健診や人間ドックを受けましたか(○は1つ)
1. 市の健診を受けた 2. 職場の健診を受けた
3. かかりつけの病院等で健診・検査を受けた 4. 受けていない ⇒問7-①へ

【問7で「4. 受けていない」と回答した方のみ】
① 健診や人間ドックを受けなかった(受けない)最も大きな理由は何ですか(○は1つ)
1. 時間がなかった 2. 検査結果が悪いと怖い
3. 入院中、自宅療養中だった 4. 費用(自己負担がかかる)
5. 健診があることを知らなかった 6. 健康には自信があるため必要なかった
7. その他(具体的に)

2

問8 健康のために意識していることや取り組んでいることはありますか(○は3つまで)
1. スポーツ(具体的に) 2. 散歩やウォーキング
3. ラジオ体操 4. 食事(栄養のバランスや量など)
5. 規則正しい生活(早寝早起きや十分な睡眠など) 6. 心の健康づくり(ストレス解消など)
7. 酒を控える 8. 煙草を控える
9. ボランティア活動 10. 働くこと
11. 定期的に健診を受けること 12. 趣味や楽しみを持つ
13. 地域活動などへの社会参加 14. 歯磨きを励行
15. 文章を書くなど頭をつかうようにしている 16. 家事(調理・洗濯・掃除)
17. 意識して外出する
18. その他(具体的に) 19. 特になし

【問8で「19. 特になし」と回答した方のみ】
① 取り組めない理由は何ですか(○はいくつでも)
1. 何をしたらいいかわからない 2. 健康づくりをしている場所がわからない
3. 時間が足りない 4. 方法を教えてくれる人がいない
5. 必要性を感じていない 6. ひとりでは長続きしない
7. 気持ちや体力的に余裕がない 8. 取り組んでも状態が良くなると思わない
9. その他(具体的に)

3

認知症について

問9 今後、認知症の方が増加することが予想されますが、認知症になっても安心して生活するために必要なことは、どのような事と思われますか (〇は3つまで)

- 1. 地域の人たちが、認知症についての正しい知識を得る機会を持つ
2. 認知症の専門相談窓口の拡充
3. 認知症患者を抱える家族に対する支援
4. 在宅で生活するための介護サービスの充実
5. グループホーム※1などの施設整備
6. 地域住人の見守りや支援があること
7. 認知症であっても権利や財産が守られること
8. 介護・医療などのネットワーク強化
9. 認知症ケアバス※2の普及・活用
10. SOS ネットワークシステム※3の活用
11. その他 (具体的に)

※1 「グループホーム」: 認知症のための介護を必要とする方が、少数で共同生活をする施設で、入浴や食事、排せつなどの介護、日常生活の世話や機能訓練を行います。
※2 「認知症ケアバス」: 認知症の人やその家族が、認知症と疑われる症状が発生した時からの運行状況に合わせて、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいかの情報を示すものです。
※3 「SOSネットワークシステム」: 認知症の高齢者が徘徊等で所在不明になった場合に、SOSネットワークの事務局である大和警察署生活安全課を通じてネットワークに手配します。事前登録もできますので、いざという時に早めの対応が図れます。

生活状況について

問10 あなたの就労日数についてお答えください (〇は1つ)

- 1. 週5日以上
2. 週に2~4日程度
3. 月に数日程度
4. 年に数回程度
5. 就労していない

4

問11 あなたが生きがいや楽しみのある生活のためにやっていることは何ですか (〇は3つまで)

- 1. 働くこと
2. 家族との団らん
3. 趣味・習い事 (具体的に)
4. 運動 (具体的に)
5. 旅行・ドライブ
6. 美容・おしゃれに関すること
7. 外出 (買い物・映画等)
8. 友人・仲間と過ごす時間
9. 町内会、育成会などの地域活動
10. ボランティア活動に参加すること
11. ゆとりすとクラブ・サロンでの活動
12. 街かどカフェ※1での活動
13. 福祉健康センター※2での活動
15. その他 (具体的に)
16. 特になし

※1 「街かどカフェ」: 地域の女性が住みながら地域で安心して自分らしく生活を継続できるよう、地域の幅広い世代の方が集い出会う地域の憩場所
※2 「福祉健康センター」: 市民の皆様 (おおむね60歳以上の方) が、ふれあいの場・健康づくりの場、そして生きがい活動の場として、気軽に利用できる施設

地域との関わりについて

問12 あなたは、隣近所の方と、どのようなお付き合いをしていますか (〇は1つ)

- 1. 日頃から行き来し、親しくお付き合いしている
2. たまにお茶のみなどで行き来する程度
3. たまに、立ち話をする程度
4. 会えばあいさつをする程度
5. まったくない

問13 あなたは町内会やサークル活動、ボランティア活動などの地域活動に参加していますか (〇はいくつでも)

- 1. 町内会のお祭りや総会、運動会などの活動
2. 老人クラブ、婦人会
3. 清掃活動
4. 子どもの登下校時の見守り
5. 各種サークル活動
6. ボランティア活動 (具体的に)
7. その他 (具体的に)
8. 参加していない => 13-①へ

5

【問13で「8. 参加していない」と回答した方のみ】

- ① あなたが地域活動に参加していない最も大きな理由は何ですか (〇は1つ)
1. 仕事や家事で忙しいから
2. 体が弱い、病気がちであるから
3. 家族の世話で忙しいから
4. 活動の内容や参加の方法がわからないから
5. 興味や関心はあるが、参加するきっかけがないから
6. 興味や関心が無いから
7. 介護をしているから
8. その他 (具体的に)

問14 地域住民の有志グループによって、いきいきとした地域づくり活動を進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (〇は1つ)

- 1. 是非参加したい => 14-①へ
2. 参加してもよい => 14-②へ
3. 参加したくない

【問14で「1. 是非参加したい」「2. 参加してもよい」と回答した方のみ】

- ① どのような地域活動に参加してみたいと思いますか (〇はいくつでも)
1. 子どもの登下校時の見守りなどの活動
2. 子どもの学習支援の活動
3. 食生活を改善するための活動
4. 健康づくりのための活動
5. スポーツや運動などの活動
6. 各種趣味などの活動
7. その他 (具体的に)

問15 地域住民の有志グループによって、いきいきとした地域づくり活動を進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営 (お世話役) として参加してみたいと思いますか (〇は1つ)

- 1. 是非参加したい => 15-①へ
2. 参加してもよい => 15-②へ
3. 参加したくない

6

【問15で「1. 是非参加したい」「2. 参加してもよい」と回答した方のみ】

- ① あなたのスキル (知識や各種能力) はどのようなことですか (〇はいくつでも)
1. 料理や掃除など家事の技能
2. 勉強・学習
3. 語学
4. 音楽や美術など芸術活動
5. 伝統技能
6. 手芸・工作などの手仕事
7. 庭仕事
8. 各種スポーツや運動の能力
9. パソコンなどIT関係
10. リーダーシップ能力
11. コミュニケーション能力
12. その他 (具体的に)
13. 特になし

問16 あなたは、家族以外に、地域の中で話をする相手がいいますか (〇は1つ)

- 1. 話し相手がいる
2. 話をしたいが相手がない
3. 話し相手が必要としない

問17 あなたの心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてくれる人はいいますか (〇はいくつでも)

- 1. 配偶者
2. 同居の子ども
3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣
6. 友人
7. 仕事 (職種) の仲間
8. その他 ()
9. そのような人はいない

問18 反対に、あなたが心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてあげる人はいいますか (〇はいくつでも)

- 1. 配偶者
2. 同居の子ども
3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣
6. 友人
7. 仕事 (職種) の仲間
8. その他 ()
9. そのような人はいない

問19 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいいますか (〇はいくつでも)

- 1. 配偶者
2. 同居の子ども
3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣
6. 友人
7. 仕事 (職種) の仲間
8. その他 ()
9. そのような人はいない

7

問20 反対に、あなたが看病や世話をしてくれる人はいますか（〇はいくつでも）

- | | | |
|----------------|----------|----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子も | 3. 別居の子も |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. 仕事（職種）の仲間 | 8. その他（ | ） |
| 9. そのような人はいない | | |

問21 あなたは、福祉避難所[※]を知っていますか（〇は1つ）

1. 内容を知っている 2. 言葉だけ知っている 3. 知らない

※ 「福祉避難所」：災害時に在宅の高齢者、障がい者その他の特に配慮を要する方で指定の避難所での生活が困難な要支援者を福祉施設で受け入れ、緊急な生活の確保を図るようします。市では、福祉施設との受入協定を6団体の法人等と結んでいます。なお、福祉避難所は災害時に状況に応じ、調整を図った上での利用となります（担当は長寿福祉課です）。

問22 災害時に、不安に感じることはどのようなことですか（〇はいくつでも）

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1. 災害に関する情報を教えてくれる人がいない | 2. 避難などを手伝ってくれる人がいない |
| 3. どこに避難すればいいかわからない | 4. 避難所では生活できない |
| 5. 家族の安否確認がとれない | 6. 家が壊れるかもしれない |
| 7. 病気の治療ができない | 8. 日用品が手に入らない |
| 9. ライフラインの切断 | 10. 災害に備えてなど、何を留意してよいかわからない |
| 11. その他（具体的に | ） |
| 12. 特になし | |

問23 市からの災害に関する情報をどのように得ていますか（〇は3つまで）

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. テレビ・ラジオ | 2. 防災無線 |
| 3. 緊急速報エリアメール | 4. 市の安全安心メール |
| 5. インターネット | 6. 隣近所から |
| 7. その他（ | ） |

8

問24 高齢者が地域の中で安心して生活するために、あなたができることは何ですか（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 普段のあいさつなど | 2. 散歩や外出の付き添い |
| 3. 声かけ、見守り、話し相手など | 4. 掃除などの簡単な身の回りの世話 |
| 5. 高齢者が気軽に集まれる場所の提供 | 6. 買い物代行 |
| 7. 災害時の安否確認や救助など | 8. 支援したいが、自分のことで精一杯 |
| 9. できることはない | 10. その他（具体的に |
| 11. 考えたことがない/わからない | ） |

相談窓口などについて

問25 あなたは介護保険制度の内容について、知っていますか（〇は1つ）

1. 内容を知っている 2. 名称は聞いたことがある
3. 知らない

問26 あなたが介護に関する相談窓口を求めるものは何ですか（〇は3つまで）

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 一箇所でも様々なサービスの相談ができる窓口 | 2. 自宅からすぐ近くの場所にある窓口 |
| 3. 担当者が専門的な知識を有している窓口 | 4. 24時間対応してくれる窓口 |
| 5. その他（具体的に | ） |
| 6. 特になし | |

問27 「成年後見制度」[※]について、知っていますか（〇は1つ）

1. 内容を知っている 2. 言葉だけ知っている 3. 知らない

※ 「成年後見制度」：認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が十分ではない人の預貯金の管理など（財産管理）や日常生活での様々な契約など（身上監護）を、支援していく制度です。

9

将来の生活（介護の考え方を含む）について

問28 あなたは65歳以降の生活を、どのように過ごしたいと考えていますか（〇はいくつでも）

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1. これまでの経験や知識・資格を活かしながら働き続けたい | 2. 親や孫の世話など、家族のために時間を費やしたい |
| 3. 趣味や運動などを楽しみたい | 4. ボランティアや地域活動に参加したい |
| 5. 健康に気を配りたい | 6. 隣近所との交流 |
| 7. その他（具体的に | ） |

問29 あなた自身に介護が必要となった場合に、どのような介護を受けながら生活したいと思いますか（〇は1つ）

1. 自宅で支援を受けながら
2. 介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設）などで
3. 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などで
4. その他（具体的に
5. 想像がつかず、わからない

問30 あなた自身に将来介護が必要となった場合に、誰に介護をされたいと思いますか（〇は1つ）

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 子ども |
| 3. 子どもの配偶者 | 4. 孫 |
| 5. 兄弟姉妹 | 6. 介護専門職（ホームヘルパー等） |
| 7. その他（具体的に | ） |

問31 あなた自身に介護が必要となった場合に、どのような介護を受けながら生活したいと思いますか（〇は1つ）

1. 自宅で支援を受けながら生活したい
2. 介護施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設）などで生活したい
3. 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などで生活したい
4. その他（具体的に
5. 想像がつかず、わからない

10

【問31で「1. 自宅で支援を受けながら生活したい」と回答した方のみ】

① あなた自身に介護が必要となつて、ご自宅で生活を続けるためには、どのような支援やサービスが必要だと思いますか（〇は3つまで）

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 自宅で面倒を見てくれる家族がいる | 2. 24時間対応の訪問介護サービス |
| 3. 希望する時間に利用できるデイサービス | 4. 緊急時でも利用できるショートステイ |
| 5. 訪問看護などの医療的ケア | 6. 救急・夜間医療の充実 |
| 7. 災害など、緊急時の避難の手助け | 8. 医療機関への通院の介助 |
| 9. 住診してもらえ医療機関 | 10. 地域の人からの支援 |
| 11. 金銭管理についての支援 | 12. その他（具体的に |
| | ） |

ご両親の介護について

問32 家族や兄弟の間で、ご両親の介護について話し合いをしていますか（〇は1つ）

1. 話し合った結論が出た
2. 話し合った結論が出ない
3. 話し合っていない
4. 対象になる人はいない

問33 あなたは近い将来（今後2～3年の間）に、ご両親を呼び寄せて介護をする予定はありますか（〇は1つ）

1. 予定がある
2. 予定はない
3. わからない

問34 最後に、市の高齢者福祉サービスやその他のまちづくりに関するご意見・ご要望がございましたら、自由にご記入ください

ご協力ありがとうございました。記入もれがないか、今一度お確かめください。
1月31日（金）までに郵便ポストに投函してください。

11

富谷市

高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画 実態把握調査結果報告書

発行日 令和2年3月

発行元 富谷市 保健福祉部 長寿福祉課

住所 〒981-3311 宮城県富谷市富谷坂松田 30 番地

連絡先 TEL：022-358-0513（直通）

FAX：022-358-9915

URL：<https://www.tomiya-city.miyagi.jp/>